

県政資料

ふるさと加東の歴史再発見シリーズ V

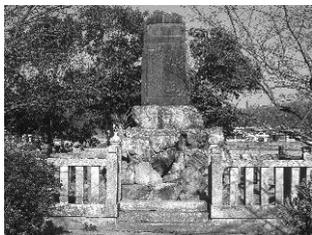
—兵庫県政150周年記念—

# 加東の近代史を彩る人物像

◆郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より

◆議員活動ブログ「百聞百見」より

—平成29・30年度の議員活動記録—



兵庫県議会議員 藤本百男

## 目次

### I 加東の近代史を彩る人物像 .....1

ー郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」  
掲載の人物など

1. 藤川 禎 次
2. 小寺彦兵衛
3. 高瀬藤次郎
4. 阿江与助
5. 三木翠山
6. 村上代三郎
7. 柴崎恵次
8. 大橋實次
9. 孝女ふさ
10. 勝本正則
11. 井上真九郎
12. 大久保喜市郎

### II 平成29・30年度の議員活動記録 .....43

ー平成29年9月議会本会議での一般質問と答弁  
ー議員活動ブログ「百聞百見」掲載の 県政・活動記録抜粋

## まえがき

---

この「県政資料」は、私の議員活動ブログ「百聞百見」、歴史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」に投稿してきた記事の中から、テーマに沿って、選び、まとめたものです。

第Ⅴ集は、兵庫県政150年を記念し、「加東の近代史を彩る人物像」と題して、主として、ふるさと加東の近代史に関係する人物や事象を取り上げてみました。

兵庫県の成立は、今から150年前の慶応4年（1868）5月23日（新暦では7月12日）に、兵庫県が置かれ、伊藤博文が初代県知事に任命されたことをもってはじめとしています。その後、廃藩置県や府県統合を経て、明治9年（1876）8月21日に飾磨県（播磨）、豊岡県（但馬・丹波）、名東県（淡路）を兵庫県（摂津）に編入統合し、現在の五国からなる兵庫県の形ができあがりました。まさに日本海から瀬戸内海までを範囲とする広大な雄県兵庫が誕生したわけです。

私たちの加東はそのほぼ中心に位置し、もっと古い時代から文化が栄えてきましたが、明治初期には社村に飾磨県の出張所が、また、郡制の時代には郡役所や郡公会堂が置かれるなど加東郡（現加東市・小野市域）の政治行政の中心となっていました。

今年は、そうした兵庫県150年、ふるさと加東の150年を振り返りながら、新しい兵庫と加東の時代を創っていく契機としていきたいと思っています。また、平成29・30年度（平成29年6月～30年8月）の約一年間の活動記録から主なものを議員活動ブログ「百聞百見」から抜粋しました。また、29年9月議会での一般質問の内容も報告しています。

この小冊子が、わが加東の宝を見直す資料の一つとして活用していただければ幸いです。

平成30年9月吉日

兵庫県議会議員

藤本百男



治さんは酒造好適米の山田錦の育成と普及に努めましたが、山田錦が注目され、高級日本酒の原料米として全国の酒造家から求められるようになったのは戦後のことでした。

藤川禎次さんは昭和19年（1944）に退職しました。そして昭和21年、51歳の若さで生涯を閉じたのです。

そんな山田錦と藤川禎次さんについて生き方を学ぶことができるように兵庫版道徳副読本に紹介されているのです。地元加東市では今年日本酒で乾杯条例も制定され、山田錦産地として日本酒の消費拡大を進めていこうとしています。兵庫県北播磨県民局でも日本酒の海外輸出を進める取り組みの一環として海外バイヤーを山田錦主産地の北播磨へ招きました。

実は昨日、藤川禎次さんの遺族の方から「藤川禎次ーその生涯と背景」と題した冊子をいただきました。この冊子は藤川禎次さんのご子息の執筆されたものです。藤川禎次さんの生き方を知りさらに感銘を受けました。ぜひふるさとの子供らに山田錦と藤川禎次さんのことを学んでほしいと思いました。



## 統一山田錦と藤川禎次

2013年11月01日

昨日のブログで、酒米の王様、山田錦の育成と普及に尽くした藤川禎次さんの生涯を綴った冊子のことを紹介しましたが、そのなかで、あらためて藤川禎次さんの生き方に感銘を受けたところがありました。その部分を紹介します。



▲酒米試験地を去る日の  
藤川禎次（冊子より）

「酒米試験地に勤めていた頃、自宅から当時の酒造米試験地（加東郡福田村〈現社町〉沢部）へは約6km、委託試験田のあった奥吉川村金会（今の中国自動車道吉川ICあたり）まで片道20km以上あった。道路はまだ少なく、しかも舗装されていなかった。曲折と長い坂の多い山間部のデコボコ道を自転車で通った。当時の自転車は材質も悪く重い。故障してもパンクしても買い替えできない時代であるから、とり

わけ物資不足の戦時中はタイヤもチューブも入手が困難で、新たに貼れるところがないほどに補修しながら使っていた。雨の日、嵐の日もあったから、今日からは想像をはるかに越えている。」（藤川禎次—その生涯と背景）より

自宅は今の加東市高岡にありました。そこから加東市沢部の酒米試験地まで6km、さらに今の三木市の吉川インターチェンジまで20kmの合わせて26kmを往復していたわけですから52kmにもなります。戦時中においても山田錦の改良、研究は続けられていたそうです。

その作業は「一粒の粳の選別から始まって苗、株、そして一穂一穂について綿密な調査と膨大なデータや資料の整理など、昼夜を分かたぬ努力が続いた。」（同上書より）とあります。自宅と試験地、委託田を毎日毎日自転車で往復しながら地道な研究を続けていたことに藤川禎次さんのねばり強さ、山田錦の開発、育成、普及への情熱が伝わってきます。

## 郷土の特産「山田錦」や偉人を学ぶ—東条西小

2014年10月30日



10月17日（金）、加東市立東条西小学校の学校オープンが行われ、授業を参観したり、校内を見てまわる機会がありました。市内の小学校では10月頃にこうしたオープンスクールが行われ、保護者

はもちろん、学校評議員や見守り隊、地域の住民に広く学校を公開するオープンスクールの機会を設けています。できるだけ足を運んで子供達の学習のようすや学校の施設、設備などの状況を見るようにしています。

さて、東条西小学校の廊下の壁面に、子供が模造紙に書いて発表した学習成果が掲示してありました。内容は東条特産の酒米「山田錦」について調べたものでした。山田錦は酒米の王様とよばれ、兵庫県産の山田錦は最高の品質で知られています。北播磨の気候風土がその栽培に適しており、中でも東条や三木市吉川地区は特A産地になっています。

子供達がそうした郷土の特産物に関心を持って学習していることがよく分かります。また、その隣には、兵庫版道徳副読本に取り上げられている郷土の偉人の一覧が示され、写真と名前が見やすく掲示されていました。兵庫版道徳副読本は県内のすべての小中学生に配布されており、道徳の時間をはじめ、朝の時間や家庭でも使えるようになっています。

子供が郷土の特産物や偉人について学ぶことで、郷土への愛着

や誇りを育むことにつながります。兵庫県が力を入れている「ふるさと意識の醸成」は教育の現場でもこうして行われていることを実感しました。

## 2. 釣針製造の元祖、小寺彦兵衛翁の頌徳碑修復

2010年01月16日



15日朝、加東市下久米の三草坂にある小寺彦兵衛塚の修復竣工開眼法要が行われました。少し早めに塚に行くと、すでに兵庫県釣針協同組合の役員さんが来られて準備に当たっておら

れました。

塚は大正8年（1919）に建立されたのですが、90年経って傷みも激しくなり、釣針協同組合が玉垣や敷地を修復整備して今回竣工式となったわけです。

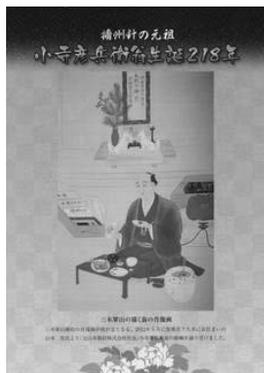
小寺彦兵衛は下久米村の庄屋で、釣針製造技術を土佐（高知）から学んで地元へ伝え（嘉永4年1851）、現在の地場産業の基をつくりあげた郷土の偉人です。彦兵衛の偉さは自分の習得した技法を公開し、こころよく教えたことであると伝えられています。そうした彦兵衛さんに感謝し、偉業を顕彰するこの碑が修復整備され、次代に伝えられることになったわけですが、まさに歴史を継承する事業であり、未来へのメッセージの発信となるものだと思います。

ふるさとにこうした偉人を有するということは幸せなことだと思います。なぜなら、その偉人をふるさとの共通の先人として仰

ぎ、誇りとし、懐かしみ、学び、語ることができるからです。彦兵衛さんは釣針製造関係者や下久米地区の人だけではなく、今や加東市民共通の先人となっていますし、兵庫県の道德教育の郷土の先人の資料にも取り上げられたり、さらには加東市の人気者のゆるキャラ「加東伝の助」クンのモデルになって広く知られるようになっていきます。この頌徳碑がこれからより多くの人に彦兵衛さんの生き方や釣針製造のふるさとのことを知ってもらうためのきっかけになればと願うところです。

## 郷土産業振興の先覚者を顕彰—昭和27年兵庫県

2017年08月02日



今年の5月29日、兵庫県釣針協同組合の総会で、土肥芳郎相談役が出席者に配布されたコピー資料が手元にあります。

表紙には、「郷土産業を隆盛に導いた

人々」、「兵庫県」とあります。序文には、「国力発展の基盤となり、民族興亡の基礎となる郷土産業振興の先覚者、功労者を顕彰することが後の産業振興に寄与するところ多大であろうと考えて、講和記念地方自治高揚運動の一環として」先覚者、功労者の表彰を行ったと記述されています。「昭和二十七年四月」「兵庫県総務部地方課」とあります。

目次には、郷土産業の先覚者、功労者として、十二名の表彰者

と各産業界の19名の名が記されています。その中に「釣針 故小寺彦兵衛」の名前が記されていました。

土肥氏の資料には、この小寺彦兵衛の頁のコピーが添付されていました。以下の通りです。

## 釣 針

故 小寺彦兵衛  
加東郡米田村

## 略 歴

享和二年生。元庄屋、明治三年没。

## 事績の概要

天保の大飢饉に遭遇するやその惨状を見るに忍びず、永遠の救済手段を講ずべく家業を抛つて副業に適する産業を求めて諸国を行脚し、土佐において釣針製造が有望であつて、しかも郷土に適するのを知り、業者を歴訪してその製法の伝授を乞うたが秘伝として容れられず、尋常の手段をもつては到底技術習得の不可能であることを知つた。ここにおいて一端帰郷し再度土佐に渡り、太田某の家僕になつて精魂を傾けて雑役に服すること数年、遂にその意のあるところに感嘆した主家より秘法の伝授を受け、嘉永四年帰郷した。爾来その製法を比隣に伝えるとともに、寝食を忘れて品質の改良に、或いは同業者の養成にかつ又販路の拡張に心魂を傾け、釣針業永遠の発展の基盤を築いた。

土肥氏は「小寺彦兵衛さんがいなければ『播州針』はなかったと、将に『播州針の元祖』と言われる由縁であります。」と述べておられます。

貴重な資料をこのブログを通して皆さんに紹介しました。写真は、三木翠山が描いた小寺彦兵衛翁の掛軸と、県に保管されている原本の写真です。

### 3. 郷土の自由民権運動家—高瀬藤次郎の遺品

2012年04月28日



▲県会議員時代の高瀬藤次郎

4月14日（土）に行われた三草ふれあい広場のわくわく探検で、加東市吉馬の高瀬家の見学が行われました。高瀬家は吉馬村開発の祖、高瀬吉兵衛（17世紀）の子孫にあたります。

明治時代には高瀬藤次郎が政治家として活躍しました。明治12年に兵庫県議会が開設されると初代の議員となり、さらに明治23年に国会

が開設されると初代の衆議院議員となって活躍しました。

高瀬藤次郎は県会議員当時、兵庫県を代表する地方新聞である神戸又新日報（こうべゆうしんにっぽう）の発行元である五州社を創設したり、山陽鉄道会社の発起人となったりして政治経済の発展に尽くしました。明治21年ごろから活発となった大同団結運動では、自由主義者の兵庫県同志会のリーダーとして活躍し、

板垣退助や植木枝盛など愛国公党派とともに民権派として活動しました。

初の衆議院議員選挙では、板垣退助が高瀬藤次郎ら自由派の応援のために社の持寶院にやってきて演説をしています。

わくわく探検では、高瀬藤次郎が衆議院に登院するときに着用したフロックコートやシルクハット、議員として帰省したときの歓迎幟、議員肖像掛軸などの高瀬家所蔵の貴重な品が展示され、参加者は郷土が生んだ初代国会議員、高瀬藤次郎に思いを馳せました。



※当主の高瀬俊介氏（現加東市議会議員）は高瀬藤次郎の曾孫にあたります。

## 明治15年—社村の政談演説会

2010年09月27日

明治15年（1882）といえば、今から128年前のことになります。大隈重信が立憲改進黨をつくった年です。板垣退助が自由党を結成したのが前年のことで、15年には岐阜で暴漢に襲われています。

さて、わが故郷では、当時どのような動きがあったのでしょうか。明治15年の地方新聞に記事がありました。「神戸新報」の3月15日付に、21日に社村に於いて、県会議員高瀬藤次郎、蓬萊節太郎が会主となって大阪神戸間の弁士を招いて政談演説会を開くことになっているとの記事が掲載されています。弁士と演

題も報じられており、大阪よりの本山彦一（政治上の地獄極楽）、京都の甲田良造（頻年の豊饒却て民心を怠慢に失するの患あり）、新報社からは鹿島秀麿（上下乖離の憂）、桐原捨三（腕力は権利）、吉田祥三郎（官民安全之説）の4人が紹介されています。

この政談演説会に関する記事は、神戸新報の3月28日付に掲載されており、加東郡大門（現加東市大門）の聚星楼で郡内の有志が集まり談話したあと、蓬萊氏宅を会場にして政談演説会が開かれたことが報じられています。

記事は出席者などが詳細に報じてられており、当時わが加東の地においてもこうした政談演説会が開かれ、地方の有志者が来たるべき国会開設に向けて高い関心を持っていたことがわかります。演説会は甲田氏の演説の際に臨場していた警察官により集会条例に抵触するとして弁士中止の命令が出され、解散しています。

## 明治23年—板垣退助が社で演説

2010年09月30日



明治23年（1890）といえば、わが国で初めて総選挙、すなわち衆議院議員選挙が行われ、第1回の帝国議会が開かれた年です。この年の6月11日付の神戸又新日報（こうべゆうしんにっぽう）に板垣退助の播州遊説のことが報じられています。

記事によれば、6月7日、加古川駅に降り立った板垣退助は加東郡（現加東市、小野市域）自由主義者の有志に出迎えられ、人力車十数台を連ねて市場村（現小野市）に向かった。加東郡、加西郡（現加西市）、多可郡（現西脇市、多

可町域)の三郡自由同盟会、自由青年会のメンバーが出迎え、夜に談話会が開かれた。翌8日、市場村を出発し、社村に到着。午後から社村の持寶院を会場に演説会を行った。持寶院には二千人の聴衆が詰めかけ、約1時間30分にわたる演説を聴いた、とある。その後、板垣退助は多可郡へ向かっている。

この記事から、同年7月1日に実施される第1回衆議院議員選挙の直前に播州自由主義者の応援のために播州各地を遊説していた板垣が社村の持寶院に来て演説をしていたことがわかります。

## 社の持寶院で自由派有志懇親会—第1回総選挙に向けて

2010年10月19日



神戸又新日報の明治23年5月18日付に、衆議院議員選挙に向けた県内各選挙区の動静が報じられています。第1回の総選挙はこの年の7月1日に実施されるのですが、これに向け、各選挙区では候

補者選定の有志懇親会が開催されていました。

記事によれば、社村(現加東市立社小学校区)の持寶院(加東市社)に、第六区(加東、加西、多可三郡、現小野市、加東市、加西市、西脇市、多可町)から41人が集まり、候補者選定等について話し合っています。この懇親会では、三郡聯合会の規約などが話し合われたが、まともらず、翌日も協議が行われて、三郡自由同盟会とすることが決まっています。そして、候補者の予選会が行われ、高瀬藤次郎、河合半介の二人が同土打ちとなること

を避けるために辞退し、近藤常三郎が選ばれたと報じています。近藤常三郎は再三再四辞退したものの最終的には受け入れたようです。

このように第1回の総選挙に向けての有志懇親会や演説会などがこの持寶院で開かれています。以前にも紹介しましたが、この持寶院には板垣退助もやってきて演説をしています。当時の政治活動の舞台でもあったんですね。

## 第1回総選挙—兵庫県第六区の候補者選定広告

2010年10月20日



昨日、明治23年（1890）に実施された第1回衆議院議員選挙の候補者選定に関する新聞報道を紹介しました。

今から120年前にわが国では第1回目の総選挙が行われ、全国から300人の衆議院議員が選出されました。小選挙区制で行われ、兵庫県は10区に区割りされ、2人区が2区設けられたので12人が選出されました。

わが加東市は、第六区で、当時の郡名では加東郡（現加東市、小野市域）、加西郡（現加西市域）、多可郡（現西脇市、多可町域）の範囲が選挙区でした。昨日紹介した三郡自由同盟会はこの三郡の自由派の有志の団体です。協議の結果、近藤常三郎が予選会で候補者に選定されたという記事を紹介しましたが、実はその後、近藤が辞退したために、候補者を高瀬藤次郎に選定しています。その広告が選挙直前の23年6月末の神戸又新日報（こうべ

ゆうしんにつぼう)に掲載されています。

第六区では、自由派から高瀬藤次郎（現加東市吉馬）、改進黨から丸岡寛三郎（現多可町中区）、中立派から西村真太郎（現小野市小田）の3人が候補者として熾烈な選挙戦を展開していました。板垣退助が社村に来たのも自由派を応援するためだったのです。

今日はその自由派の候補者選定広告を紹介します。

## 4. 加古川舟運の祖—阿江与助像

2014年05月04日



鬪龍灘を見下ろす鬪龍スクエアに阿江与助像が建てられています。5月1日には川開き神事、そして3日には鮎まつり、そして夜の大花火が行われ、多くの人出で賑わいます。加古川舟運の祖と呼ばれ、滝野を代表する郷土の先人、阿江与助を紹介します。次の文は像の解説文です。

「阿江与助」は加古川舟運の祖と呼ばれる人物です。加東郡河高村に

生まれ、後に上滝野村の阿江家を継ぎ、文禄三年（一五九四年）には滝野川（滝野以南の加古川）を慶長九年（一六〇四年）からは上流の田高川（滝野以北の加古川）の開削を成功させました。また、この功で滝野船座の座元に任じられ、加古川舟運を支配しました。

加古川舟運の開発は二期に分かれます。第一期は、地頭生駒玄蕃が貢米を輸送するにあたって加古川に注目、与助たちに通船

を妨げる川底の岩石を除去し、浅瀬に水路を通させました。この区間の内、与助は滝野から大門（社町）までを担当しました。第二期は領主池田氏による滝野以北の浚普請および新町河岸の造率、高砂港の整備です。与助は田高村の西村伝入斎とともに滝野より上流の川底を浚えることを命じられ、慶長十一年（一六〇六年）に丹波本郷までの通船が可能になりました。

与助像は、大正九年六月、正五位追贈により鬮龍灘河畔に建立されましたが、昭和二十年春、太平洋戦争のため供出、平成二年五月、先の台座を生かして再建されました。

## 5. 三木翠山展—社町生まれの美人画家

2015年07月13日



12日（日）午後、姫路市立美術館で開催中の三木翠山展に行ってきました。6月20日から開催されていたのですが、やっと時間がとれました。

図録の解説によれば、三木翠山は明治16年（1883）、兵庫県加東郡社村の田町（たまち）生まれで、現在の加東市社の田町通りが生まれ故郷です。

翠山は幼少の時から絵を描くことが好きで、加東郡上福田村の内、木梨村の三木南石に絵の手ほどきを受け、紺屋だった三木家の養子になっています。明治33年に京都に出て、竹内栖鳳に入門し本格的に絵の修行をしたと伝えられています。大正2

年（1913）には、第7回文展に初入選（「朝顔」）し、それ以後、文展、帝展などの常連作家となり、竹内栖鳳の助言で美人画の創作に取り組み、次々と名品を発表、翠山の美人画は人気を博し、京都画壇に確固たる地位を築きました。

「祇園会」や「維新の花」などの美人画、東海道五十三次の風景画、ニューヨークの摩天楼など、間近に翠山の絵を鑑賞することができ、惹き付けられてしまいました。門下の森月城の「富士図」なども展示されていました。森月城は翠山の従兄にあたり、やはり加東郡社町出身です。また、もう一人、土肥蒼樹（本名健治）も加東郡出身とありました。

郷土出身、しかも私の住んでいる社の田町出身の画家、三木翠山の絵を初めて直に見ることができ、感動しました。美人画、風景画、その優美さ、緻密さ、深遠さ、何と表現していいやらうまく言えませんが、惹き付けられてしまいました。

## 三木翠山、森月城の絵がある三草小学校

2015年09月20日



19日（土）、加東市立三草小学校の運動会が行われ、開会式に出席しました。少し早目に学校に着くと、小林校長先生が見せ

たいものがあるので、と校長室に招かれました。部屋には大きな絵が飾られており、三木翠山の絵ですと紹介されました。以前は体育館にあったものを校長室に移したということでした。そして、玄関正面の壁面には森月城の絵が掲げられていました。三木翠山、森月城という日本画家の大作があるのが三草小学校です。

三木翠山の絵（左）は毛利元就の三本の矢の教えの場面ではないか、と校長先生は話しておられました。森月城の絵（右）は富士山を描いたものです。

この歴史ブログでも5年前に体育館に掛かっている2枚の絵を写真と一緒に紹介しましたが、体育館の2階の高いところにあるのでよく見えませんでした。しかし、今回は間近かに作品を鑑賞することができるようになりました。

2人とも三草小学校の校区にゆかりのある画家です。校区の上福田村木梨（現、加東市木梨）の出身で、大正から昭和にかけて活躍した有名な日本画家です。

今年7月に姫路市立美術館で三木翠山展が開かれましたが、そのときにブログで三木翠山について少し詳しく紹介しましたので、森月城について紹介します。

森月城は、やはり加東郡上福田村木梨出身です。小学校卒業まで木梨で過ごし、幼い頃から母方の祖父であった三木南石に習っています。14歳で京都に出て、19歳の時に翠山の手引きで竹内栖鳳に入門しています。22歳で文展に入選、その後も入選を重ね、やがて竹内栖鳳門下の四天王と称されるまでに活躍しています。大正13年の兵庫県美術協会の設立では中心的存在となっています。

小林校長先生は、子供達が雄大な富士山の絵を見て大きく育て欲しいとの願いを述べられていました。移転前の三草小学校（現 やしろ国際学習塾）時代からあったものだと話しておられましたが、このような郷土出身の偉大な日本画家の作品がある小学校は珍しいのではないのでしょうか。

## 佐保神社の御大神宮さんの玉垣に三木翠山の父の名が

2015年07月14日



昨日のブログで加東市出身の美人画家、三木翠山の展覧会を紹介しましたが、三木翠山は加東郡社村の田町の生まれであることも紹介しました。服部壽七の四男として生まれ、幼い頃から絵を描くことが好きだったということでした。

ところで、翠山が生まれた社の田町は社の市街地では最も古くから栄えた通りでした。商店や料理旅館が軒を並べて繁栄していたのですが、今は開いている商店も少なくなり、静かな住宅街に変わりつつあります。

その田町通りに昭和のはじめまで御大神宮さんが祀られていました。その由来についてはこの歴史ブログで紹介してきましたが、今は佐保神社に遷され田町の住民がお祀りしています。その御大神宮さんの祠の玉垣の一本に、翠山の実父、服部壽七さんの名前が刻まれているのを確かめました。

玉垣には、田町で米相場が立てられていた頃の加東米穀取引所

をはじめ、商人の屋号や住民の名前が刻まれています。その一本が翠山の父親の名前だったのです。これも加東の貴重な歴史遺産に加えることができるでしょう。

## 6. 適塾の塾長も務めた幕末の蘭学者—村上代三郎

2011年11月27日



加東市木梨の北の丘陵にある墓地に村上代三郎の墓碑があります。

「村上木州翁之碑」と刻まれています。

木州村上代三郎は幕末の蘭学者で、全国にその名を知られた人物です。

『新修加東郡誌』の人物編に代三郎のことが紹介されていますが、適塾の塾長をつとめたこと、また、幕府講武所の蕃書取調で教えたこと、伊藤博文が新政府への出仕を進めに訪

ねてきたことなどすごい人物だったことにあらためて驚きます。

村上代三郎は文政6年（1823）、上福田村木梨（現加東市木梨）の三草藩の藩医の家に生まれ、幼少の頃から学問好きで村の学者の元で漢学や蘭学の手ほどきをうけていました。18才のとき、大阪の緒方洪庵の適塾に入門し、大鳥圭介や大村益次郎らとともに学問に打ち込みました。代三郎はこの適塾で塾長もつとめるほどの俊才でした。のちに江戸に出て蘭法医学を学び学識を深めています。嘉永4年（1851）、帰郷して蘭学塾を開いています。安政4年（1857）には、幕府講武所の蕃書取調師範として招かれ西洋兵学を教授しています。しかし、眼病を患い帰

郷します。その後紀州藩や浜松藩に招かれています、しばらくして帰郷し、以後は木梨で私塾を開き、蘭学、西洋兵学を教えました。代三郎のもとには、新政府で活躍した江藤新平らが教を乞いにやってきました。また、伊藤博文も代三郎に新政府への出仕をすすめるためにやっています。しかし、代三郎は病気を理由に辞退しています。

## 蘭学者—村上代三郎の物故記事

2010年10月02日

明治15年（1882）2月26日付の「神戸新報」に、村上代三郎の物故記事が掲載されています。

○彼の旧幕府弘化年間に蘭学を以て登用せられ名を海内に轟かせし播磨国加東郡木梨村平民村上大（ママ）三郎翁も予て病痾に罹られ居しが去る廿日終に物故せら（ここまで）

村上代三郎は記事にある通り、上福田村木梨（現加東市木梨）の人です。よく知られているのは、緒方洪庵の適塾で塾頭をつとめ、後に幕府講武所の師範となったほどの学者だったが、故郷に帰り、家塾を開いていた。村上代三郎のもとには江藤新平をはじめ、全国から人々が教を乞いに訪ねてきた。明治4年には、兵庫県知事の伊藤博文も訪れたといったことです。村上代三郎が故郷に帰ってきたのは、幼くして父を喪い、母の手で育てられた代三郎にとって、故郷を離れることを望まなかった母の思いに応じて木梨村に帰ってきたということです。

文政11年（1828） 6歳

木梨村、龍田謙益に入門し漢学を修める

天保11年（1840） 18歳

大阪の緒方洪庵に就いて蘭法医学を修める

嘉永2年（1849） 27歳

同窓の大鳥圭介らと江戸へ

安政4年（1858） 36歳

幕府講武所の師範となる（1年で眼病のために帰郷）

明治15年（1882） 60歳 没

『加東郡誌』より

## 適塾で学んだ村上代三郎①—加東の人

2018年02月05日

今年（2018年）は明治維新150年にあたり、同時に兵庫県政150年の節目の年です。慶応4年（1868）の5月23日（旧暦、新暦では7月12日）、初代県知事に任命されたのが26歳の伊藤博文でした。



今の兵庫県の形、県域になるのは明治9年のことで、150年前の兵庫県は、旧幕府領など、今の県域に点在していました。現在の加東市域には旧幕府領や三草藩をはじめ、諸藩の領地がありました。ですから最初から兵庫県だったところや段階的に兵庫県になったところがあるのですが、兵庫県の一番最初が150年前

だったということになります。

さて、150年の歴史をふり返ることで、私たちのふるさとである兵庫県の成り立ちや先人の事績を知るよい機会になります。今日は人物編ということで、加東市の人で幕末から明治初期に活躍した学者を紹介します。

その人物とは、村上代三郎です。この歴史ブログでは過去2度にわたり紹介してきましたが、代三郎は、大阪の緒方洪庵の適塾の初期の塾生で、後に幕府講武所などで西洋兵学を教授するなど当時を代表する学者の一人でした。

写真は大阪の適塾（史跡・重要文化財）の前で撮したものです。

## 適塾の村上代三郎②—加東の人物

2018年02月06日



昨日に続いて、村上代三郎のついて紹介します。

緒方洪庵の適塾の「姓名録」（全部で636名）には門下生の氏名が記されています。兵庫県域からは33人が名を連ね、その中に加東郡木梨村（現加東市木梨）の村上代三郎の名もありました。初期の門下生で全体の4番目で、9年間にわたって適塾で学

んでいます。後輩には赤穂郡出身の大鳥圭介がいました。

適塾には、緒方洪庵から村上代三郎に宛てた書状が展示されていました。代三郎が長崎のオランダ商館の通訳が大坂を通過する日を洪庵にたずねたその返事です。同郷の先人である代三郎がこの適塾に学んだことをその名前とともに直に見ることができ、誇らしい気持ちになりました。

写真は適塾横の緒方洪庵像と姓名録、塾生大部屋の写真です。適塾内部は写真撮影ができませんので、適塾記念館発刊の冊子「緒方洪庵と適塾」からのものです。

## 7. 靖国神社遊就館で加東出身の柴崎中将と対面

2009年07月10日



東京九段の靖国神社には、英霊の遺品などが展示されている遊就館があります。日本の近代史における戦争を実物や映像などの資料で学習することができますようになっていますが、大東亜戦争の展示室の一角に「マキン・タラワの戦い」がありました。

この戦いは中部太平洋における日米戦の中でも最も激しいものだったと言われています。その「マキン・タラワの戦い」で上陸してくる数倍の米軍を相手に、日本軍は大きな損害を与える奮戦をし玉砕たのですが、この戦いで日本軍を指揮したのが柴崎恵次海軍少将です。

「マキン・タラワの戦い」というパネル表示で足が止まりました。

た。そして、そこには見覚えのある正装の軍人の写真がありました。柴崎恵次海軍中将です。つい先日もよく事務所に来られる方と柴崎中将（戦死後特進）の話をしたばかりでした。

柴崎中将はわがふるさと加東市森（旧東条町）出身の軍人です。パネル写真には兵庫県としか書いてありませんが、ふるさとの先人とこの遊就館で対面することができました。

柴崎中将は明治27年（1894）、加東郡上東条村森（現加東市森）に生まれ、小野中学校から江田島海軍兵学校に進んで海軍士官となっています。軍人らしい清廉な生き方、部下や家族思いの人情家であったと聞いています。

東京九段でふるさと再発見でした。

## 8. 『私の運送史—日本運送30年』 —大橋實次

2015年09月17日



今日紹介する『私の運送史—日本運送30年』の巻頭につぎのような一文が掲げられています。

「昭和八年、大橋實次という三十歳を越えた

ばかりの青年が、兵庫県の播州地帯の東部中央にある加東郡社町（やしろちょう）の町長に就任した。青年町長はただちに三つの目標をたてた。すなわち、農業を守るための灌漑（かんがい）用水の確保、産業開発のための道路の建設、そして地方産業の振興の実践である。この三つの構想のうち、道路建設と地方産業の振

興が結びあって東播運輸が生まれ、今日の日本運送へ発展していったのである。」

「大橋實次」、「日本運送」という名を小さい頃から耳にして育ってきました。身近かに日本運送関係の人が多くおられましたし、大橋實次さんは郷土社町が生んだ立志伝中の人であり、郷土が誇るリーダーとして、その名は誰もが知っていました。また、この歴史ブログでも昭和8年代の社町（旧）の諸文書を紹介してきましたが、そこには「社町長 大橋實次」の名前がありました。青年町長として、昭和池の築造、東播産業道路（旧175号）の建設、そして、日本運送の前身である社自動車、さらに東播運輸の運送会社の設立を手がけ、その後の社町はもちろん、東播磨地方、日本のトラック運送業の発展の基礎をつくるという大きな仕事をされています。父（藤本豊治）からも大橋さんの話はよく聞かされました。また、青年期に大橋社長のもとで社市場で仕事をした当時のことも日記に書かれています。

この『私の運送史－日本運送30年』は、昭和初期から戦後、昭和40年代はじめまでの郷土の発展、交通、運送業などの産業の発展のようすを大橋實次、日本運送を通して知ることができる貴重な本です。父母や親戚、近所の人を通じて大橋さんと日本運送は身近な存在であり、その生き方に多くを学ぶことができます。

## 9. 孝女ふさの碑－碑文

2010年10月30日

加東市上三草の旧街道沿い、下三草との境に近いところに大き



な石碑があります。これが、「孝女ふさの碑」として知られている彰孝碑です。

「ふさ」は、18世紀半ば、江戸時代の人で、社村（現加東市社）に生まれ、6歳のときに上三草村（加東市上三草）に養女に行きましたが、養家は貧しく、幼い頃から子守りをしたり、奉公に出て一生懸命働きました。また、奉公のひまを見ては両親の世話をしていたのです。親への孝行ぶり、仕えた家への忠節に人々が感心し、庄屋さんを通じて殿様の耳にまで届き、異例の褒賞が下されたということです。その生き方が戦前の修身教科書に「孝行」の模範として取り上げられていました（小学校修身書巻四の第八孝行）。

この「彰孝碑」は、大正11年（1922）に建立されたものですが、題額は戦前の大ジャーナリスト徳富猪一郎（蘇峰）の筆になるもので、この地方の名勝の一つであったようです（『新修加東郡誌』）



この歴史ブログでは、桜の頃の碑、道徳かるた、修身教科書など、これまで何度も紹介してきましたが、今日は「彰孝碑」の碑文を紹介します。

## 彰孝

孝行田碑 蘇峰徳富猪一郎題額  
加東郡有孝子曰房女寛政二年七月官得里生上状  
褒曰房女累年對養父母致孝其賜金旌之房女父重  
兵衛養為上三草村農茂兵衛女家貧幼出雇傭謹慎  
無過失到處得主家之歡房女在外悲晨夕缺定省或  
於夜分或於農隙即請看親主家無不憐而遣歸之劬  
劬勞勞奉養備至三十年不衰噫孝矣房女既膺褒胥  
謀購置田數頃以供家資時人呼曰孝行田寔有以也  
大正三年十一月間本郡人士議曰孝行田不得在其  
子孫可恥也乃釀金贖回以繼孝子之志實距房女之  
生六十餘年也孝也之徳之感人休哉是可以銘也銘曰  
惟人有徳 惟孝為尊 田曰孝行 式範後昆  
君山稻葉岩吉撰  
大正十一年四月 雪溪金澤雄七書

## 孝女ふさの碑建立趣旨碑文

2010年10月31日

「孝女ふさ」の彰孝碑の建設趣旨を刻んだ石碑が彰孝碑の脇に建てられています。建立年も建立者も刻まれていませんが、碑文からその趣旨を読み取ることができます。桜の古木の枝の下に建てられたこの石碑。碑文は次のとおりです。

### 孝女ふさ彰孝碑建設について

この彰孝碑は美はしい孝乃徳を彰かにする為に建てられたもの

であるもともとこの部落でこの計画のあつたのを明治四十四年国定の修身書にふさ女の事跡を公にされたそれを動機に時の郡長町村長郡会議員郡教育会長小学校長等が發起してこの計画を一層意義あらしめやうと郡内の篤志者や県下の各小学校から醵金を募ることとしたそしてその醵金で曾てふさ女の所有であつた所謂孝行田一段六畝五歩を買収しこれを永遠維持の資にあて其傍にこの碑を建てることになつたのである

## 孝女ふさ—明治の修身教科書

2009年04月17日



加東市上三草の旧道沿いに孝女ふさの碑があります。この歴史ブログでも紹介してきましたが（今年2月11日）、明治26年、金港堂書籍印刷発行の『実験日本修身書巻一尋常小学生用』の中の「孝行」の項にふさの話が掲載されていることに気づきました。

この本はずいぶん以前にコピーをして製本していたものですが、ふさのことが出ていることに気づきませんでした。

「ふさ」は、幼い頃からよく働いて親に孝行をつくしましたが、その生き方が修身教科書（小学校修身書巻四の第八孝行）に「孝行」の模範として取り上げられていました。この国定教科書以前の明治26年発行の修身教科書に「ふさ」の名があったわけです。本文は次のとおりです。

## 第二課 孝行

ふさは、つねに  
父母のげふをたすけ、また  
よくそのころをなぐさめたり。  
父母のげふをたすくるは、  
子たるものつとめなり。

### 「孝女ふさの歌」—三草小学校百年誌から

2009年05月25日

加東市上三草の旧街道沿い、下三草との境に「孝女ふさ」の碑があります。この歴史ブログでも何度か取り上げ紹介してきましたが、三草小学校百年誌を読んでいると、卒業生の寄稿文の中に「孝女ふさの歌」が掲載されているのが目に入りました。

「孝女ふさ」に歌があったことを初めて知り、その歌詞に興味をもったわけですが、一番の歌詞のはじめに「涌羅野の里に産声をあげて・・・」とあり、ふさが社村に生まれたこともきちんと歌われていました。百年誌には「孝女ふさ」の碑の前に小学生が整列している写真もありました。「孝女ふさ」を郷土の誇りとして顕彰し孝行の大切さを教えるという教育が行われていたことに感激しました。

「孝女ふさの歌」を紹介します。

一、涌羅野の里に産声を  
あげてまもなく人の手に  
育みうけし彼女

之や二葉のせんだんか

二、花にたわむる蝶の群  
月の光にすだく虫  
かくて幾度春秋に  
巡り会えるか稚き彼

三、愛しき限り言えねども  
家の生計に是非もなく  
子守奉公つとめつも  
歸りて致す孝の道

四、千鳥の川の片ほとり  
荒れし畑の一隅を  
か弱き腕に培いし  
畑草は父の慰めと

五、或は日毎父君と  
山に働きましたまば  
さかしき道も心せで  
行きて迎うもけなげなる

六、歸れば早も母君の  
わらじあむ手の悲しさに  
子を背負いしてとる槌の  
助は明日の食糧となる

## 孝女ふさー孝子物語に書かれた物語

2013年02月25日



「孝女ふさ」は、18世紀半ば、江戸時代に播磨国加東郡上三草村（現在の加東市上三草）で親に孝行を尽くした人として知られ、戦前には修身教科書にも取りあげられていました。上三

草の旧京街道沿いにふさの孝行を讃える「彰孝碑」が建てられており、今も地元の老人会の皆さんが清掃をして大事に守っておられます。

その「孝女ふさ」について、この度、武蔵野大学の貝塚茂樹教授から大正6年（1917）に発行された『孝子物語』（高島平三郎立案、渡邊霞亭編述）の中に「孝女ふさ」の項があると教えていただきました。「孝女ふさ」は修身教科書のみならず国語教科書にも取りあげられており、その回数はあの野口英世博士よりも多いということも教えていただき驚きました。

「孝女ふさ」については、地域の歴史書である『加東郡誌』、『上福田村史』、『新修加東郡誌』などにその記事があります。また、修身教科書にも記述があるのですが、『孝子物語』は物語として書かれているふさの話で貴重なものです。

郷土が生んだ孝行の模範「ふさ」の物語を紹介します。4章構成になっていますので、1章ずつ紹介します。歴史的かなづかいは現代かなづかいにしました。

## 孝女ふさ

### 一 八歳で草履売

今からちょうど百四十年ほど前（※1917年時点）、播磨国の加東郡上三草村（かみみくさむら）という所におふさという少女がありました。

家は貧しい百姓で父も母も毎日毎日田圃（たんぼ）へ出て働いていました。おふさは八歳の幼い時分から、近所の家へ子守に雇われたり、お使いをしたりして家の活計（くらし）を助けていました。夜になると父が草履（ぞうり）や草鞋（わらじ）を作る傍ら（かたわら）で、時分も藁（わら）を打ったりして手伝っておりました。そして、その草鞋や草履を売りに行きました。

おふさは毎日街道筋の松並木の傍らへ出て、父の作った草鞋を売っています。

「おい少女（おねえ）さん、草鞋を一つおくれ」

「おゝおふささんか、毎日精が出るのう、どれ私も一つ貰（もら）おうか」

「おふささん、お前の売っている草履は中々よく保つ、同じ銭を出しても、外（ほか）ではこんな丈夫なのは買われない」

「おゝそんな丈夫なのなら、私は三足程貰います」

「おいおふささん、向うの茶店の婆（ばあ）さんが、お前の来るのを待って居るぜ。同じ草鞋でもお前の草鞋は客受けが好いと云っての」

知った人も知らぬ人も、争うておふさの草履や草鞋を買って行きます。

「はい毎度有り難うございます」と、おふさは売れ残った分を肩

にかけて道を急ぎました。村端れ（はずれ）の茶店ぼ前を通り掛けますと、ちらとおふさの姿を見た婆さんが「おふささんじゃないか、今日は大層急いでいるねえ、どうしたんだえ」と尋ねました。するとおふさは

「はい、もう日が暮れますので、お父さんの迎ひに山へ行かねばなりません。又明日の朝ゆっくり寄せて貰います」

「それはそれは感心な事じゃ、お前の孝行は此の村で誰知らぬものもない。昼は使い走りや子守に雇われて、其の間には、こうやって草履や草鞋を売って歩き、日が暮れかゝると、年とったお父さんを山へ迎えに行く。夜は仕事の手伝いをしてお母さんの手助けをする。なかなか八歳や九歳で大人も及ばぬ働きをするのは、教えても出来ぬ事じゃ。然しな、おふささん、私の店へも、もっと草鞋を売って下されや」

「はい毎度有り難うござります。それではこゝに五足ありますから、是（これ）だけ置いて参ります」

おふさは肩から草鞋を下ろして渡しまして、其のまゝ家へは帰らずに、山へ登って行きました。日はもう、西の空へはいつてしまつて、真赤な夕焼の雲が、薄暗くなった林の中まで照らしています。おふさは「お父さんお父さん」を二声三声呼びますと、「おういおうい」と答えるのが、木霊（こだま）に響いて聞こえます。どこにお在（い）でなさるかと思う中、足元の方から登って来る父の姿が見えました。おふさは喜んで「おゝお父さん、迎えに来ました」と云いました。父は「それはまあ有り難い。少し遅くなるとお前が心配して迎えに来るから、早く帰ろうとは思ふが、仕事の都合で、やっぱり此様（こんな）に遅くなる、どれそれでは帰ろうか」と、おふさと共に山を下りました。

## 二 悲しい別れ

斯（こ）うした状態（ありさま）が二、三年も続きました。親は子を思い、子は親を思う親身の真情（まごころ）を基礎（もと）にした家の内ほど、平和で清く美しいものはありません。おふさの家は近所の褒められものになりました。親子が心をつにして生計（くらし）を立てゝ行きますと、貧しい家にも光りがあります。

処（ところ）が天はこの繊弱（かよわ）いおふさを玉にしようと思召したのでありませう。父は不図（ふと）した風邪が原（もと）で、終（つい）に頭も上らぬほどの大病となりました。父が病気になってからは、家の生活（くらし）が苦しくなります。おふさは何（ど）うかしてと思いますが、女の手一つでは良い薬一服買うだけの稼ぎも出来ませんから、幾夜も幾夜も考えた末、炊事奉公（みづしぼうこう）に身を売って、その前借金を父の薬代に当てようと決心しました。然し夫（それ）をするには父の側を離れなければなりません。もし自分が居なかったら、父が何様（どんな）に不自由をするかも知れないと思えますと、思い切って父の手許から離れる事が為（で）きませんので、暫くの間兎つ追いつ（とつおいつ）考えて居りましたが、爾（そ）うして居ては限りがありませんから、漸（やっ）と心を決めて父にその事を打ち明けました。

「お父さま、私は御奉公に参ります。お淋しいかも知れませんが、暫く御辛抱（ごしんぼう）なすって下さいまし、その内には無事で帰って参りますから」

涙や心配な顔を見せては、父が悲しむだらうと思えますから、成るべく平気を粧って何気無い様で云いますと、父は面（おも）を背けまして

「爾（そ）うか、よく決心して呉れた。お前の親切でわしの病気は快（よ）くなります。どうか無理をして患って呉れるなよ」と、歯を切（くいしば）って云いました。

父もこゝで泣いては、おふさが悲しい上にも悲しむだろうと思いますから、煮え返るような悲哀（かなしみ）を恠（こら）えて、涙を見せぬようにして居ました。おふさも泣かず、父も泣かず、表面は一滴の涙も見せないで居ましたが、二人の胸の底には万斛（ばんこく）の涙が大波のように流れて居ました。

「それではお父さま、わたくしは御奉公に参ります。お薬は仏壇の抽斗（ひきだし）に入れてあります。お母様何（ど）うか煎（せん）じて上げて下さいませ。お給金を戴きましたら、すぐお届け致します」

母も同じように歯を切（くいしば）って「はいはい」と云って居りました。

おふさは父に別れを告げ、母に後々の事を頼んで置いて、他家へ奉公に参りました。母は戸の外まで見送って出ます。父は病の床で咽せ返って居りました。三日月の影が門（かど）の柳の枝にかゝって、きらきらと光って居ます。星は皆な目叩（まばた）きして、孝女の憂き別れを悲しむように見えます。

### 三 孝女の奉公振り

孝に厚い者は忠にも厚いと云いますが、全くその通りで、おふさは主人大事とよく勤めました。朝も、夜も、星を戴いて野仕事を致します。雨でも降って家に居りますと、草鞋を作ったり、縄を緇（な）ったりします。そうして片時も油断しないで、一生懸命に働きますから、主人も大変気に入りまして「おふさおふさ」

と可愛がります。

雨祝いなどで休みがありますと、田舎の事ですから、餅を搗(つ)いて喜んだり、祭礼(まつり)があるか、仏事でもあると、温飩(うどん)を打ったり、お萩餅(はぎ)を拵(こしら)えたりして馳走をします。雨祝いや祭礼には、村中が休みますから

「おふさや、毎日よく精を出してくれますねえ。今日は村中がお休みだからお前さんも休みなさい。恰(ちょう)ど餅(あんも)を搗いたからこれを上げます。お萩餅もあるからお喫(あが)りなさい」と云って、お暇と甘味(おいしい)い物を呉れます。するとおふさは之れを一個も食べませんで

「有難う存じます。それでは一日遊ばせて戴く代りに、どうぞ実家(うち)へ帰らせて下さいませ。この餅や、お萩餅を、病(や)んで居るお父さまのお土産に致します」と云うのが平生(つね)でした。

主人も同じ召使も、おふさの心掛に感じないものはありません。「休みだからお前の好いようにしてお暮らしなさい。実家へ帰るのだったら、此方のを上げますよ」と云って、別に多くの物を呉れるようになりました。

おふさは夫を風呂敷に包んで、いそいそと実家へ帰って来まして

「お父様、これをお喫りなさいませ、これは御新造(ごしんぞ)さんから戴いたのでございます。またこれは旦那様が下すったのでございます」と、貰って帰った物を枕頭(まくらもと)へ並べます。

父は夫(それ)を見るたびに嬉し涙を流します。どう云うものか、病気は快い方に向いませんで、段々痩せ窶(やつ)れて参り

ますが、おふさの優しい心に触れますと、俄（にわか）に蘇生（よみがえり）たようになります。常にはお粥も重湯も食べ難（か）ねる程ですが、おふさが持って帰ったものは、何の苦も無く咽喉（のんど）を通過して行きます。母親もそれには感心しまして「まあ、何という不思議なことだろう」と云って驚きました。

おふさは、父の食い余した物は、次に母へ侷めまして、その上でないと、自分は戴きませんでした。

「今日は真実（ほんと）に心持ちが好い、これでわしは全快します」

父が心から歡ぶ背後（うしろ）を、柔らに撫（な）で擦（さす）りを致します。偶（たま）の休みに、外（ほか）の奉公人や村の人たちは、唄祭文（うたさいもん）を聞いたり、素人芝居をしたりして遊びますが、おふさは実家へ帰って、父の看病を致すのを第一の楽しみと致しました。

時間の許す限り介抱をしまして、主人の家へ帰りますと、翌日は平生に幾倍して精を出します。

「昨日一日遊びましたから、今日はその埋め合せに二日分のお仕事を致さねばなりません」

斯う云って勉強します。世に奉公人根性という者があって、主の目の届かぬ處（ところ）では、成るべく骨を盗むようにしますが、おふさは主人の目の届かぬ處（ところ）でも、一層熱心に働きました。主の為めに働くのは、将来必ず自分の身に報いて来ます。つまり自分の為めに働くと同じことです。

#### 四 後の幸福（しあわせ）

父は随分手を尽くして養生（ようじょう）もし、またおふさも為（で）きるだけ慰めもし、神仏も祈りましたが、とても助かる

見込みのない病気という事が分かりましたので、父はある日おふさを枕許（まくらもと）へ呼びまして「おふさや、私も年が老（よ）って、こんな大病に罹ったので、今度はとても助かるまいと思う。私に働きの無いばかりに、幼いお前に大そう苦勞を掛けてついぞ今まで親らしい事もせないが、奉公に出したのさえ恨まず、こうやって時々尋ねて来れる孝心は、死んでも忘れる事はできぬ。村中のお方が、おふささんは孝行じゃ、おふささんは感じじゃと言われる毎に、私の肩身が広うなって、お前のような娘を持った仕合せを有り難う思います」と、涙と共に喜びました。



まもなく父は病死しましたので、おふさは天地も覆るように悲しみましたが、その中でも母への孝養を怠りませんでした。主人持ちでは思うような助けも出来ませんので、家へ帰って孝養を尽くしたいと思ひまして、その事を主人に頼みましたが、おふさが忠実（まめまめ）しく働いてくれるので、主人は惜しがって容易に暇を呉れませんでした。それで暇のある毎に家へ帰って、母の心を慰めては

「お母さま、ご心配なさいますな。随分心を大きく持って在らっしゃい。その内にお暇を戴いて、お母さまを安息に致します」と云い云いしました。

母は良人（おっと）に死に別れても、後にお房が居ますので、おふさを杖に生きて居ました。おふさは主人大事と働きながら機

(おり)があると主人の前へ出まして

「お母さん一人で淋しがって居りますから、どうかお暇を下さりませ。長の年月の御恩は忘れません。その内、母を見送りましたら、一生涯御奉公をして、これまでの御恩を送ります」と頼みました。

その心を推察して、主人はどうとう暇を呉れました。おふさは飲んで家へ帰り、母の綿つむぎの手伝いをして、乏しいながら心安い世を送りました。

おふさの孝心がいつの間にか役人衆の耳へ入りまして、御褒美のお金を戴きました。それが段々世間の噂になって、諸方から同情を得まして、後には大へん幸福な生涯を送りました。

以上が『孝子物語』にある「孝女ふさ」の物語でした。

## 10. 1964年東京オリンピック馬術競技に郷土出身の勝本正則氏が出場

2013年11月17日



16日(土)、加東市金婚式が行われました。昭和39年(1964)に結婚されたうちの約50組のご夫婦が出席されました。昭和39年度といえば、私は社小学校の5

年生でした。式には社小学校におられた先生のお顔も見えました。この年、東京オリンピックが開催され、10月10日、開会式のように小学校の校長室にあった観音開きの扉のついたテレビで

視ました。赤のブレザーに白のズボン姿の日本チームが日の丸を先頭に整然と入場する姿が鮮やかでした。カラーテレビだったのです。6年生が修学旅行に行っていて留守だったので校長室の掃除当番がまわってきたというわけで、幸運でした。そのオリンピックに郷土出身の選手が馬術競技に出場していたことを金婚式で知りました。

その選手とは社町上久米出身の勝本正則氏です。当時31歳。米田小学校6年生まで上久米に在住、滝川中学校を経て関西学院大学を卒業されたそうです。当時の「公報やしろ」に勝本選手を応援しようと紹介されています。

## 11. 井上真九郎の顕彰碑—沢部の弥谷池畔に

2016年05月31日



30日(月)の午後、用事で加東市立福田小学校を訪れると、シルバー人材センターの人が校庭の植木の剪定作業を行っていました。

用事を済ませ、校門を出たところで、道路の清掃活動を行っている友人を見つけ、しばらく立ち話をしていると、目の前の弥谷池の向こう岸に石碑のようなものが建っているのが視界に入りました。何度も見ている景色なのに今まで気付きませんでした。

さっそく車で池畔の道をまわっていくと、ミニ公園があり、東屋と2本の石碑がありました。

その一つが写真の石碑です。刻まれている字を読んでみると、

地元沢部地区の先人の顕彰碑でした。その人物は井上真九郎。明治時代の郷土史を調べている頃、この名前はよく出てきましたので、うれしくなって読んでみました。

夜、家で調べてみると、石碑上部の篆額は第10代兵庫県知事林董（はやただす）の題字、碑文は亀山雲平（姫路藩藩校好古堂教授の亀山雲平によるものでした。

井上真九郎は、幕末から明治半ばにかけて、加東郡福田村の庄屋、初代加東郡選出県会議員（明治12～13年、高瀬藤次郎とともに）、小野村戸長、福田村村長などを歴任しています。そうした郷土の先人を顕彰する碑が没後2年の明治24年に建立されています。

弥谷池の池畔から福田小学校を眺める位置、方向に建て、郷土の姿を見守っているようでした。

## 12. 高岡稲荷神社境内の大久保喜市郎銅像

2010年01月09日



7日、自衛隊青野原駐屯地での新年会の帰り、加東市高岡の旧道を通り、高岡稲荷神社に参拝しました。拝殿に向かって左手の境内に高く、大きな銅像が建っているのが目に飛び込んできました。

写真の銅像は青野原新田の開拓者として知られる大久保喜市郎の像でした。像は台座の上に聳え立ち、右手を前に差し出し、その先には棒が

遠くを指し示すように突き出されています。その大きさに圧倒されるほど存在感があります。

さて、この大久保喜市郎については、『そこが知りたい滝野の歴史』、『語りつぎたいふるさと滝野』には次のように紹介されています。

高岡地区は青野原新田と呼ばれ、江戸時代の中ごろ、享保年間に開拓されてできた新田の村です。もとは原野でしたが、この原野の開発に目をつけたのが、河高村の庄屋だった大久保喜市郎で、幕府の許可をえて開拓に着手しました。集まった百姓は近隣の村々だけではなく、備前国（岡山県）からもいました。喜市郎は台地である青野原新田に水を引くために幕府の許可をえて、加西市冨家村の新条池から水路をつくりました。この溝は幕府の直営工事としたため「天下溝」と呼ばれました。こうして進められた開発は順調に進み、江戸時代を通してどんどん開かれ、明治のはじめには加東郡内有数の大きな村になった、ということです。

また、台座側面の銅板の由来によれば、昭和4年（1929）に銅像が建てられたが、大東亜戦争中に供出されて台座だけが残っていたところ、戦後、昭和45年に、鹿島建設の鹿島守之助が祖先の慰霊のために銅像を鑄造させ高岡地区に寄贈したものだということです。

郷土を開いた先人の英姿をこうして見上げることができるということが素晴らしいことだと思います。先人、先祖の志、苦労を地域の人々が共通の過去の記憶として懐かしむことができること、それが歴史であり、そのシンボルがこの像でもあるのだという思いが強く湧いてきました。



# 平成29・30年度の議員活動記録

## 1. 第337回(平成29年9月)定例会 一般質問

質問日：平成29年9月29日（金）

質問者：藤本百男議員（自由民主党）

質問方式：分割方式



(藤本議員)

本日最後の質問者となりました。5項目7問について分割方式で質問いたします。

質問の第1は、兵庫創生の核となる「ふるさと意識の醸成」についてであります。

井戸知事は、8年前、3期目の任期のスタートに当たり、21世紀の兵庫を担う子供たちにふるさと意識を醸成することが大切と唱え、平成25年には、ふるさと事業推進本部を設置して、ふるさとづくり推進に向けた施策の体系化を図られました。その後も兵庫創生の核として、これを位置づけ、子供たちの発達段階に

応じた体験活動等の取組を進めてられました。

そして、このたびの5期目の任期のスタートにおいても、兵庫県政150周年を機に、歴史の振り返りを通して、ふるさと意識の醸成をしようとされています。まさに、兵庫県の未来を担う子供たちにふるさと意識を醸成しておくことが将来の兵庫の活力を約束するとの確信を持っておられます。もちろん私も同感であります。

私は、この8月のお盆明けに地元加東市で行われた青少年健全育成講演会において、この「ふるさと意識の醸成」をテーマに講演をさせていただく機会を得ました。井戸知事の思いなど、議会での発言を示しながら、その内容とするところを紹介し、その上で、子供たちにふるさと意識を醸成しておくことの意義、方法、家庭、地域、学校の役割などについて、自身の経験をもとに具体例を挙げながら話をさせていただきました。

その中で、教員時代に、学校の総合学習で、地域の大先輩に、ふるさとの歴史を語る講師をお願いした折、事前の打ち合わせの時に、この子供たちが、将来町を出て都会に出た時、胸を張ってふるさとのことを語るができる人間になってほしい、との思いを切々と語られ、一コマの授業のために昔の絵を描いたり、演技を考案されたりして、何日もかけて準備をされている姿に深く感銘を受けたことを紹介しました。私にとって、この言葉は生き方の原点にもなっております。

何のためにふるさと意識を醸成するのか、兵庫の子供たちが身近な地域の自然や歴史、文化伝統、先人の生き方などに触れ、豊かな体験を重ねていくことで、ふるさとへの愛着と誇りを持つことができる。そのことが地元に残って働いたり、暮らしを営むこ

とにつながったり、たとえふるさとを離れてほかの地で働いたり、生活するようになって、ふるさとへの思いや行動、すなわち戻ってきたり、ふるさとを応援するといった活動に結びつくことを願うからであります。

私は、そこに今生きている大人である私たちの責務があると思いますが、一方、子供たちにとって、ふるさと意識を持つ、すなわちふるさとへの愛着を持ったり、誇りに思うようになるということが一体どういう意味を持つのかという観点での理解が抜けているのではないかとこのように考えます。

私は、子供たち自身がふるさとへの愛着や誇りを持つということは、これからの人生をふるさとの先人のように生きようという思いや、文化や伝統を大切に守っていこうとする生き方や、家族や地域の人々とのつながりを実感することで、信頼や協力を大切にして生きようすることになる。すなわち、よりよい人生を送ろうとすることになり、子供たちにとっていいことなんだと考えます。

そこで、5期目の知事任期で最初の議会となる今定例会において、改めて兵庫創生の核となるふるさと意識の醸成、とりわけ子供たちの立場に立ったふるさと意識の醸成に関する井戸知事のご認識を伺うとともに、その認識をいかに施策に反映させ、取組を進めていこうとされているのか、知事のご所見をお伺いいたします。

### ○答弁 井戸敏三知事

自由民主党の藤本百男議員のご質問にお答えいたします。

まず、ふるさと意識の醸成についてです。

ふるさとは、生まれ育ったところとすることが典型であります

が、今住んでいる地域もふるさとと意識してもらう必要があると私は強く主張させていただいています。また、大都市、多自然地域を問わず、心のよりどころとなる土地だと思えます。ふるさとの人々とのきずなは、ふるさとを同じくしたとの仲間意識を育み、ふるさとでの体験は、その人のアイデンティティや心の支えとなります。兵庫を離れていても、ふるさとへの思いを忘れずにいることで、自己の確立や地歩をしっかりとすることにつながり、生きる上での安心感につながると考えます。

このような認識のもと、一つには、育ちの中での地域資源の再発見や人とのつながりの中での感動体験を重ねることにより、ふるさとへの思いをつなげていただくよう、環境体験事業や地域に学ぶトライやる・ウィーク、高校生ふるさと貢献活動事業など、学校を通じた体験教育を階層的に実施しています。

二つには、地域の一員として帰属意識を育み、活動を交流するふるさとへの関わりを深めてもらうことが必要です。青少年団体等と連携して、交流や自然体験の機会を提供するひょうごっ子・ふるさと塾などにも取り組んでいます。

県政150周年に向けては、今年度、小学生を対象に地域のお宝や未来をテーマにした作文、図画コンクールを実施します。中学生向けには、まんがひょうごの歴史を制作して、兵庫の成り立ちを学んでもらいます。高校生には、全県立高校で、兵庫の未来を考察する取組を行っていただいています。

また、上程中の補正予算の中では、五国の地域資源を体験できるストーリーで構成される映像・書籍、ふるさとひょうご五国物語を作ったり、若者の視点を生かしデータベース化を図る、若者による地域資源の発掘、魅力の継承事業を行うことを盛り込んで

おります。

このようなことを通じまして、子供たちや若者が主体的に地域の魅力や将来を考える契機としていただき、そのことがふるさと意識の醸成につながるのではないかと考えています。

地域創生の主役となる子供たちが150周年を契機に、ふるさと兵庫への想いや関わりを通じて次代を担う人材として成長し、活動の場を広げてくれることを期待をいたしております。

### (藤本議員)

質問の第2は、家庭応援施策の推進についてであります。

昨年の2月議会において、私は、人口減少社会における家庭教育の充実への総合的な支援体制について質問を行いました。

その趣旨は、時代や社会の変化とともに、それまで家庭や地域で行われていた日本独自の子育て方法や知恵、教育が力を失い、教育は学校が行うものになってしまった。しかし人間教育の原点、出発点は、やはり家庭教育にあるとの基本に立ち返り、県として取り組んでいる家庭教育支援の諸施策を全庁的に力強く進めていくことが必要であるということでした。

井戸知事は、私の質問に対する答弁で、家庭応援施策の体系化と推進本部体制の構築に取り組んでいくと述べられました。その後、平成28年4月には、家庭と地域づくり推進本部が設置され、29年3月には、家庭応援と地域づくりに関する提言が取りまとめられました。

この提言を受け、今年の6月には、家庭応援と地域づくり推進プログラム2017が発表されました。このプログラムでは、知事部局、教育委員会の170の施策を体系化し、126億円余の予

算を計上し、新たな家庭と地域づくり支援策を推進しています。

全国でも、こうした家庭応援、家庭教育支援は推進されており、昨年度末までに8県で条例化もされていますが、170もの施策を体系化している例は珍しく、我が兵庫県が家庭応援に積極的に取り組んでいこうとしていることを示すものとして評価するところでもあります。

家族、家庭は、極めて私的な領域であり、その営みは、県民の自主的な取組に委ねるべきものという平成18年度のひょうご家庭応援施策検討委員会報告書からすると、一步も二歩も家庭や家族、地域社会のあり方に踏み込んだものであり、現在の我が国の子供をめぐる劣悪な生育環境を思うと、むしろ遅いと思うぐらいであります。

平成29年度新規事業のシニア世代から子育て世代へのふるさと伝承事業は、子育てに参画したいという元気なシニア世代の思いを後押しする、応援する施策であります。こうした場づくりとともに、若い世代の親の学びの内容の充実、特に子供の発達についての最新の脳科学の治験、例えば母親との愛着形成であるといった親子関係に関する治験であるとか、あるいは伝統的な子育て方法、例えば日本人が誰でもやってきた「高い高い」や「いないいないばあ」、あるいは、目を見ての愛情のこもった言葉での話しかけ、その良さの再認識なども取り入れるなど、親としての喜びと成長を応援していく機会についても、更に充実させていくことが兵庫の子育て、家庭教育力を高め、ひいては兵庫の子供のよりよい人生に結びついていくものと考えます。

そこで、家庭応援施策の推進について、これまでの成果や課題をお伺いするとともに、今後どのように取り組んでいこうとされ

ているのか、当局のご所見をお伺いいたします。

○答弁 井戸敏三知事

続いて、家庭応援施策の推進についてであります。

家族構成の小規模化や雇用の多様化などに伴いまして、家族の結び付きや地域とのつながりが希薄化してきていると言われております。家族やそれを支える地域の役割がますます重要性を増しているといえましょう。

これまで県としては、心豊かな美しいひょうご推進会議を構成する団体を中心に各種団体の参画のもと、家族の日運動など、家庭応援県民運動を推進してきました。

一方、子供をめぐる痛ましい事件も後を絶たないことから、更なる対策を行うため、昨年4月に庁内に家庭と地域づくり推進本部を設置するとともに、有識者で構成する検討委員会、これを設置して、家庭と地域等について議論をいただいたものです。

この委員会からの提言がありましたが、三つの柱、家族のきずなを深める機運醸成、二つ、子育て家庭を支える地域づくり、三つ、関係機関の連携と情報活用、この三つの柱から提言いただいておりますが、特に地域の人々が日常的に顔の見える関係性を構築することが重要だというご指摘、家族が多様な体験を共有する機会が減っていることによる家族機能の弱体化が現れていること、シニア世代の能力等が十分に活かされていないのではないかなどの課題も示されました。

提言を踏まえまして、家族の共有体験の促進や若者が、高齢者が生き生きと活躍する地域づくりを進めるための施策など、県全体として体系的、総合的に推進することといたしています。

今年度は、企業等と更に連携して、家族で一緒に過ごしたり、話し合ったりすることを促す家族の日運動の一層の啓発に努めてまいります。

また、地域で子育て家庭を支える仕組みづくりとして進めております地域祖父母モデル事業を更に拡充してまいります。新たに地域のシニア世代などの人材を生かしながら、シニア世代と子育て世代が交流し、地域での一体感やきずなを深めつつ、ふるさと意識の醸成を図る、シニア世代から子育て世帯へのふるさと伝承事業も行うことといたしました。

今後も家庭と地域づくり推進本部のもとで、全庁で連携を図りながら、子供たちが健やかに成長できるように、家庭応援に加えて、シニア世代はもとより、より多くの世代の協力を得て、子育て世帯を応援できるような地域づくりをふるさと意識もベースにしながら積極的に進めてまいりますので、どうぞよろしくご指導をお願いしたいと存じます。

### (藤本議員)

質問の第3は、世代を超えて、認知症に関する理解を深める取組についてであります。

この質問を考えておりました9月の初め、加東市の防災無線で、行方不明の高齢者の捜索についての放送がありました。加東市では、認知症高齢者が徘徊などで行方がわからなくなったときには、認知症SOSネットワークで、関係機関、事業所、個人など登録者に連絡が入り、それぞれが一斉に近所を探すというシステムができ上がっています。

私は、平成26年12月議会で、認知症高齢者の徘徊捜索シス

テムについて質問を行いました。当時、身近な友人の母親が行方不明になったこともあり、私自身も搜索に当たりながら、関係機関や地域住民による搜索システムの必要性を痛感したことが質問のきっかけでした。

その後、加東市では、認知症に関する研修会などが重ねられ、諸団体、高齢者クラブなど、さまざまな場で認知症高齢者の搜索の実地研修などが行われ、話しかけ方や対応の仕方など学ぶ機会が広がりました。この日は、これらの取組が効果を発揮し、放送後1時間ほどで無事発見されたとの放送が流れ、一同安堵したところでした。

兵庫県の認知症高齢者は、2015年現在、約24万人で、2025年には、約30万から33万人と推計されています。全国で見ると、2025年には約700万人前後となり、高齢者に対する割合は5人に1人に上ると見込まれています。

私の地元の北播磨では、世代間交流を組み込んだ共生型、すなわち本人や家族だけではなく、みんなが集まってくる北播磨型認知症カフェ、絆カフェの立ち上げ支援に力が注がれています。これは世代を超えて地域全員が認知症について知ることが大事だという考えが基盤になっております。

地域の全員が認知症への理解を深めるための取組である認知症サポーターの養成は、平成17年から始まり、本年6月現在、本県では約34万6000人に上っております。冒頭でご紹介したように、地域住民の理解は進みつつあるものの、今後の認知症の増加を考えると、大人だけではなく未成年者に対し、認知症を含めた高齢者の理解を促進する取組が大切になってきます。

現在、学校教育では、各教科や総合的な学習の時間などで取組

が行われていますが、特に厚生労働省の新オレンジプラン、認知症施策推進総合戦略でもうたわれている小中学校で認知症サポーター養成講座を積極的に開催し、認知症に関する正しい理解を広めることが重要と考えます。これらの取組を通じて未成年者に対して、認知症に対する正しい理解、認知症の家族を支えるその一員としての心の姿勢や態度を育むことは、これからの地域社会において、ボランティア活動など多くの場面で認知症の人を支える人材の育成にもつながるものと考えます。

そこで、地域全員が世代を超えて、認知症に関する理解を深める取組について当局のご所見をお伺いします。

#### ○答弁 柏由起夫福祉部長

世代を超えて、認知症に関する理解を深める取組についてでございます。

認知症は、誰にでも起こり得る病気であり、また認知症の人への接し方などを家族や地域の人が正しく理解することが認知症の人が地域で安心して暮らすためには不可欠でございます。

そのため、県では認知症の正しい理解を広める普及啓発を広く実施しているところでございます。

具体的には、認知症の特徴や症状、認知症の方との接し方などを学習する認知症サポーター養成講座の講師を養成するとともに、見守りと行方不明時の発見活動を地域の幅広い関係者が連携して実施する見守り・SOSネットワークの構築を進めているところでございます。

このほか、認知症サポーター養成講座を受講した従業員等を窓口配置いたしまして、認知症の人への丁寧な対応等に努めるひ

ようご認知症サポート店を広げる取組を推進しております。また、多くの県民に認知症を正しく理解していただくため、認知症の人と家族が中心となって、街頭キャンペーンや認知症啓発ウオークなどを各地で実施いたしております。

さらにご指摘の認知症の人と地域住民が交流できる認知症カフェの普及に取り組んでおまして、本年度からは、新たに認知症カフェの連絡・研修会を開催いたしまして、実績報告と意見交換を行うなど、活動の活性化と質の向上を図っているところでございます。

現在36市町の小中学校で認知症サポーター養成講座が開催されております。今後とも教育委員会等とも連携しつつ、小中学生を含めました全世代を対象といたしまして、認知症の理解促進を積極的に展開してまいります。

以上でございます。

(藤本議員) 一言コメントを申し上げます。

子供にとって、そして大人にとっても、今、知事が答弁されたようなこの取組は、結局は、自分の人生にとっても、社会にとってもいいことなんだというふうな積極的な意義とか、そういうものを更に発信しながら取組を進めていっていただきたいというふうに思っております。大人サイドの将来の兵庫のためということが前面に出過ぎていると思っておりますので、そのあたりは期待をしたいと思えます。

認知症については、特に未成年、子供たちにしっかりとその認識を持つ授業を、今日は教育委員会にはお尋ねいたしませんでしたが、学校でもしっかりとそのサポーター養成講座の受け入れをし

ていただきたいということを期待申し上げて、次の質問に移ります。

**(藤本議員)**

質問の第4は、農業振興についてであります。

I C T等先端技術を活用した農業の推進についてであります。先月、我が会派の農政環境部会で佐賀県を訪れ、佐賀県が佐賀大学とI C T企業の三者で連携して進めているI C T農業の取組を調査いたしました。佐賀の農業を世界一にという、非常に壮大な目標を掲げて、ビッグデータ、I C Tの活用により、農業の省力化、効率化の可能性を追求していました。その背景には、高齢化等による農業従事者不足や農業離れ、技術の伝承の難しさ、不耕作地の拡大などがあります。こうした問題を解決していくために積極的にI C Tを取り入れ、楽しく、かっこよく、稼げる農業を目指していこうとするものでした。

I C T農業の主な内容は、農作物の生育状況をはじめ環境データなどビッグデータの収集、アグリドローンやウエアラブル、画像解析などI C Tの活用などにより労働時間や農薬などを減らし、品質や収量を増やしていこうというものです。

佐賀県立農業試験研究センターでは、圃場でドローンを使った農業の実際を見学することができました。広い農場をドローンが指定された高度、コースで見回り、作物の生育状況、害虫の発生などをチェックし、4 K画像で情報を伝え、A I人工知能を活用した画像解析で、データに基づいて、ピンポイントでの肥料、農薬散布を行ったり、害虫発生予測や抑止を行おうというものでした。また、疲れを知らないドローンは、ガが嫌う光源をつるして、夜も圃場を飛び回っているとのことでありました。

このような取組は、他の地域でも進んでいます。例えば農業特区に指定された新潟市では、農業ベンチャーや大手情報通信会社と連携して、水田センサーによる栽培管理に取り組んだところ、水田の水回りの確認に掛かる時間が平均で43%、最大で76%削減されたとのことであります。佐賀県と同様にドローンを利用した生育状況の把握などにも取り組んでいます。

折しも今月、我が兵庫県の佐用町において、ドローンの操縦者を養成する施設が小学校廃校跡に開設されるなど、専門的な知識を学ぶための環境整備も進みつつあります。兵庫県においても、攻めの農業を目指して、農業の省力化、効率化の試みが進められています。特に次世代施設園芸団地の整備・運営を通じて、ICTを活用した農業の推進が図られています。しかしながら、ビッグデータを活用したAI農業の時代が急速に進展していく中で、本県農業の特色に応じたAI、ICT農業の研究を推進したり、ICT化された農業機械の導入を支援したりするといった取組を加速度的に早急に進めるべき時期に来ているものと考えるところであります。

そこで、ICT等先端技術を活用した農業の推進について、当局のご所見をお伺いします。

#### ○答弁 藤澤崇夫農政環境部長

私からは、ICT等先端技術を活用した農業の推進についてお答えします。

農業分野におきましても技術革新の動向を的確に捉え、ICTを活用した技術により競争力の強化を図ることが重要です。

このような中、県立農林水産技術総合センターでは、酒米山田

錦の生産においてデジタルマップから抽出した圃場の位置情報と気象データから、圃場ごとの最適な田植え日を予測する山田錦最適作期決定システムや汎用部品の使用により、市販価格の10分の1程度となる農業用のカーナビ兵庫版トラクタガイダンスを開発し、これらICT技術の普及を進めています。

また、新たな技術開発としては、スマートフォンで撮影した圃場のデジタル画像から、山田錦の生育度合いを解析し、今後必要な施肥量を決定する診断技術や収穫時期のデジタル画像から成熟度を判定し、収穫日を決定する診断技術の開発に取り組んでいます。

このような田おこしから田植え、収穫まで、ICTの活用により、一貫した技術開発と普及により、農作物の高品質化と農作業の効率化を図ってまいります。

一方、ICT技術を駆使した加西市の次世代施設園芸団地では、通常のビニールハウスでのトマト栽培に比べまして、約3倍の収量が見込め、周年の契約出荷により、安定した価格での販売が可能となりました。この施設で得られた技術をもとに、今年度から県内8地区において、それぞれの施設や経営に応じた現場実証を行っています。更なる普及に向け、技術の指導体制の確立、生産者の技術レベルの向上や技術の導入促進を図ってまいります。

今日、ICT分野における技術革新が急速に進展する中、県独自の技術開発に加え、大学や民間企業とも連携を図りながら、先端技術の開発や活用に努め、農作業の自動化や低コスト化、また収量増加等を図りまして、本県農業の競争力強化に取り組んでまいります。

今後ともご指導よろしく願いいたします。

(藤本議員)

この項の第2は、イノシシ対策についてであります。

我が兵庫県では、イノシシによる被害額は平成26年を境にシカ被害額を上回り、平成28年度は1億9500万円余に上り、シカ被害額と合わせると、農林業被害総額の7割を超えています。今や、イノシシは農業者にとって最大の悩みの種になっています。

ちょうど8月の末から9月初めの時期には、我が加東市の水田では、稲の穂が出て、実りの秋を迎える美しい光景が広がりますが、この時期に田んぼを荒らすイノシシの情報が多くなります。8月末に通報があり、山間の田んぼを見に行きますと、特産ヤマノイモの畑にイノシシの足跡や畝を掘った跡が認められました。また、水田の手あぜと呼ばれる簡易のあぜが掘り返されて、無残な状態になっておりました。農家の人は丹精込めて育ててきた作物を収穫を前にしてイノシシに荒らされ、悲嘆に暮れるばかりか、生産意欲を失わせ、その繰り返しのなかで離農を決意することにもなっています。

今は頑張って電柵も張るが、5年後10年後にその意欲と体力が残っているかどうかという嘆きの声も聞かれました。電柵も効果があるとはいえ、しょせんイノシシが増えることを防ぐことにはなりません。おり猫も行われていますが、イノシシは学習能力が高く、効果も減少すると聞きました。今や農家の人々にとって、年1回数頭ずつ子供を産むイノシシとこの里で共生できるとは思わないというのが偽らざる思いであります。このままいけば、いづれ柵の中に人が住み、夜は家から出られなくなる日も遠くないという危機感が広がっております。

これまでも防護柵、おりによる捕獲、猟友会による駆除等タイノシシ対策がとられており、一定の効果は認められますが、全体的に担い手不足なのは否めないのが現状であります。

そのような中、ICTを活用した遠隔監視システムを導入するケースが増えています。例えばネットワークカメラを使って、複数の大型おりや、わなの内部のライブ映像をパソコンやスマートフォンに配信するもので、獣の侵入をセンサーが感知するとメールで通信があり、映像を見ながら、捕獲ボタンを押すと自動でわなが作動し、捕獲できるようなシステムが実用化されています。

また、佐賀県での調査の中で、ドローンを生かした害獣、とりわけイノシシ対策について尋ねたところ、今後イノシシのすみかを探し出すことは可能となるかもしれないと聞きました。

現に、埼玉県では、ニホンジカの疾走経路の追跡、広島県ではカワウ対策、山口県ではカモ対策で、実用化に向けドローンが試験的に導入されています。

そこで、このようなICTやドローンなど新技術も活用し、徹底的なイノシシ対策に取り組む時期が来ていると考えますが、当局のご所見をお伺いいたします。

### ○答弁 秋山和裕環境部長

イノシシ対策についてお答えします。

農業被害が最も大きいイノシシは、多産で警戒心が強く、学習能力も高いため、総合的な対策が必要です。

県では、平成28年度から、新たに捕獲目標を1万5000頭と設定しまして、過去最高の1万9648頭を捕獲した結果、平成28年度の被害額は、ピーク時の平成22年度に対しまして約

3割減少しています。

近年は、集落自らが狩猟者と連携しまして、獣害防護柵とおり猟を組み合わせた地域ぐるみの獣害対策にも取り組んでおります。更なる被害軽減には、生息密度が高く、被害の大きい地域を重点に被害集落での野生動物の行動を考慮した防護柵の設置はもちろんのこと、更に捕獲の強化を図る必要があると認識しております。

このため、平成29年度から生息密度が高い割に捕獲実績の低い淡路北部や六甲山地区におきまして、国が創設しました指定管理捕獲等事業を活用して、県が直接捕獲する事業にも着手しています。

また、ICTを活用した捕獲につきましては、イノシシ等の出入り状況を自動的に感知して捕獲する人工知能付きのおりを全国に先立ち導入し、加害個体を群れごと効率的に捕獲する技術指導に取り組んでいます。加えまして、複数の大型おりを一元管理する捕獲システムの導入も進めてまいります。

さらに集落の過疎化や指導者の減少が進む中、ドローンによる生息数や行動の把握、追い払いなど、最新の技術を活用した獣害対策につきましてもコストや安全性、利用者側の操作性などの課題を検証し、実用化に向けた研究を進め、より効率的なイノシシ対策を講じてまいりますので、ご指導よろしくお願いいたします。

**(藤本議員)**

最後に、兵庫創生の基盤となる道路整備についてであります。

北播磨県民局の位置する加東市は、中国自動車道と直轄国道175号、国道372号の3本の主要な道路が交差する県中央部の交通の要であります。この加東市と神戸市中心部との間には中

国自動車道、山陽自動車道の2本の高速道路が東西に並行しているものの、南北、縦に貫く高規格の道路が欠落、途切れていることが地図を見ていただければ一目で分かります。

高速道路を使えば三角形の二辺を通るルートを通らなければなりませんし、新神戸トンネルを経由して神戸市北区と加東市を結ぶ主要地方道神戸加東線を使えば、20キロメートル足らずの間に交差点6カ所での右折、左折を繰り返す、くねくねと折り曲がりながらのルートになります。

県政150周年を迎える今、今後の50年を見据えたときに神戸市中心部と加東市との間を新神戸トンネル経由で直結する高規格の道路があれば、北播磨圏域は言うに及ばず、中国自動車道、山陽自動車道の沿道地域も神戸市中心部への最短経路で直結でき、県央部、神戸の後背地としての北播磨が兵庫発展の可能性を一層高めることになるものと確信するところであります。

この北播磨の道路整備が兵庫の活力を生み出すとの思いを申し上げた上で、次の2点についてお尋ねいたします。

その1は、県道神戸加東線の整備についてであります。

北播磨と神戸を結ぶ主要地方道である県道85号神戸加東線の整備については、残る課題区間であった三木市と加東市の市境の桃坂地区のバイパス整備や加東市山国地区内の道路拡幅が社会基盤整備プログラムに位置付けられ、既に事業着手されています。これら事業の推進に地元北播磨の大きな期待がかけられています。

県道神戸加東線の次の課題は三木市内谷口交差点と桃坂交差点を結ぶバイパスの整備であります。この区間は、現在、県道20号加古川三田線と一部重複し、豊地交差点を経由しているため、4キロメートル弱の間に谷口、豊地、そして桃坂の三つの交差点

で右折、左折を余儀なくされます。また、豊地交差点は渋滞解消のため交差点改良が行われたとはいえ、朝の通勤時には、今も車の長い列ができます。小学校、中学校が交差点付近にあり、児童生徒の通学時間とも重なっています。

谷口交差点から桃坂交差点を直結するバイパスを整備すれば、豊地交差点を経由する必要がなくなるばかりでなく、全区間で6ヵ所ある交差点での右折、左折のうち、3ヵ所が解消され、安全で円滑な道路交通を実現できます。

このバイパスの整備については、平成28年9月議会で三木市長に転出した仲田一彦議員が質問し、その必要性を訴えたところでもあります。北播磨と神戸を結ぶ主要な県道の整備は、三木市、加東市のみならず、国道や県道によって連結する小野市、西脇市、加西市への交通基盤を安全かつ円滑にするもので、県都神戸と北播磨を太く結ぶ動脈となり、兵庫県発展に大きな役割を果たすものと考えます。

そこで、県道神戸加東線の整備について、当局のご所見をお伺いします。

その2は、県道小野藍本線の整備についてであります。

小野市と三田市藍本を結ぶ主要地方道である県道75号の小野藍本線は、北播磨地域と北摂地域を結び、地域間の交流・連携を促進する道路であります。

現在、加東市内では、厚利地区、天神地区、松沢地区の3地区で道路整備が進められています。厚利地区では、県道厚利社線との交差点付近の整備が進み、今年から交差点西側の工事に着手がされています。この区間の整備により、通学児童の安全確保や沿道環境の改善などが期待されています。

また、天神地区では、土地区画整理事業に合わせてバイパス整備が進められており、土地区画整理が進展していること、加えて小学生や中学生の通学利用のためにも必要なことから、早期の完成を待ち望む住民の声が大きくなっております。

さらに松沢地区では、バイパスの用地買収も進んでいることから、東条川をまたぐ新橋の建設など、早期の工事着手を望む声が高まっています。

そこで、県道小野藍本線の整備に向けた取組について、当局のご所見をお伺いいたします。

#### ○答弁 糟谷昌利県土整備部長

兵庫の活力を生み出す北播磨の道路整備のうち、まず、県道神戸加東線の整備についてお答えします。

県道神戸加東線の残る未改良区間は、三木市と加東市の市境の桃坂地区と加東市山国地区の2カ所になっています。

桃坂地区では、平成28年度から事業に着手し、今年8月にバイパスルートや今後の事業の進め方について地元説明を行いました。現在、詳細設計を進めており、引き続き用地買収に着手します。

山国地区では、今年度から事業に着手しました。当工区では、地元の意向を踏まえ、現道拡幅により整備することとし、現在地形測量を進めています。引き続き詳細設計を進め、来年度に用地買収に着手します。

ご提案の谷口交差点から桃坂交差点までのバイパスにつきましては、現道が2車線整備済みであること、豊地交差点では、朝の通勤時間帯に西行き車両の速度が低下しているもののそれ以外の時間では目立った混雑は見られないこと、豊地交差点から豊地小

学校までの間は両側に歩道が整備されており、通学時の安全は確保できていることから、現時点ではバイパス計画を検討する段階ではなく、今後交通状況を注視し、中長期的な検討課題としていきたいと考えております。

次に、県道小野藍本線の整備についてお答えします。

県道小野藍本線の加東市内では、厚利地区で現道拡幅、天神地区、松沢地区ではバイパス整備を進めています。

厚利地区では、事業区間640メートルを3工区に分割し、工事を進めています。そのうち県道厚利社線との交差点部である中央200メートルを昨年度完了しました。西側240メートルは、今年度から工事に着手し、来年度に完了させます。東側200メートルにつきましては、残る用地の取得に努め、来年度に工事着手いたします。

天神地区は、未買収用地がバイパス計画を分断するように残っており、暫定的な部分供用の工夫も困難な状況にあります。このため早期の取得を目指し、市の協力も得て、今まで以上に頻度を上げて、粘り強く交渉に臨んでまいります。

松沢地区は、引き続き用地取得に努め、来年度から盛り土などの工事に着手するとともに、東条川をまたぐ新橋につきましても詳細設計を行い、平成31年度から下部工に着手してまいります。

今後とも地域の理解と地元市の協力を得ながら、県道神戸加東線、県道小野藍本線の整備を促進し、北播磨地域の安全で円滑な交通の確保に努めてまいります。

## II 平成29・30年度の議員活動記録

## 2. 平成29年8月～30年8月の議員活動

### 議員ブログ「百聞百見」より抜粋

#### 「ふるさと意識の醸成」—青少年健全育成講演会

2017年08月20日



19日(土)、午後から加東市社公民館で加東市更正保護女性会主催の青少年健全育成講演会が開かれ、女性会をはじめ、保護司会、学校、PTA、婦人会、ソロプチミスト、ボーイスカウトなど関係団体からなど約200名が出席した。

この講演会は毎年夏に行われているが、今年のご指名により、私が講師を務めた。演題は「ふるさと意識の醸成」。来年兵庫県設置150周年を迎えるにあたり、次代を担う青少年に「ふるさと意識」を育てていくには良い機会でもあり、テーマに選んだ。公民館の研修室にこれだけ多くの人出席しているところをこれまで見たことがないほどの盛況ぶりだった。それだけ、加東市、関係者の青少年健全育成への関心が高いことを示すものと思った。約60間、兵庫県の成立と150年の歩み、「ふるさと意識の醸成」についての

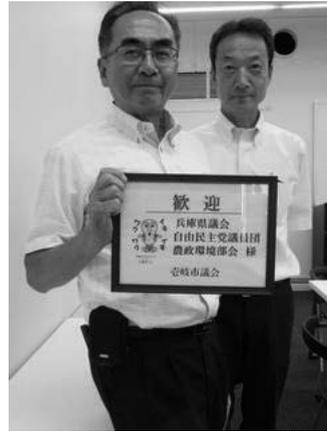


井戸知事の議会答弁、子供達の人生、生き方との関わり、加東市の歴史や文化の価値への気づき、大人の役割などについて具体的な例を挙げて話した。

## 自民党県議団農政環境部会でIT農業などを調査

2017年08月25日

23日、24日の2日間にわたり、自民党県議団の農政環境部会で先進地調査を佐賀県、長崎県で行った。総勢17名の参加があり、人工知能、IoTやドローンなどの先端技術を取り入れた農業の取り組みや地理的表示の活用、キャトルステーションによる畜産業の振興の取り組みなどについて調査した。先端技術の導入、活用推進は今年度の部会の研究課題の一つに挙げられている。主な調査地は次の通り。



23日(水) 佐賀県農業試験研究センター (①佐賀県農業の概要、②センターのIT農業の取り組み、オプティムの取り組み、④圃場見学、ドローンのデモンストレーション)

24日(木) 玄海酒造(壱岐市) (①麦焼酎の地理的表示の活用等の説明 ②工場見学)、一支国博物館講義室 (①壱岐市の農業、畜産業の概要説明、②CBS(キャトルブリーディング・ステーション) 見学)

佐賀県では県・大学・企業が連携し、20年、30年後を見据えて、佐賀を世界一のAI農業をめざして取り組みを行っている。ドローンのデモ飛行では、広い圃場を飛び回りながら、成育状況、害虫調査、対処などを行うところを目の当たりにした。また、麦焼酎の地理的表示(WTO)を活用すべく、食の世界遺産として焼酎文化を広く発信していこうとする意気込みを知ることができた。杵岐市の豊かな環境の中で、畜産を基幹とする農業振興への取り組みの現状を実際に目にすることもできた。幸い2日間、晴天に恵まれたが、杵岐島内には先の50年に一度の豪雨被害のあとも目にした。今後、本県の県政の参考にしていきたい。新神戸駅に着いたのは午後10時過ぎだった。



## 東播淡路地区の調査—産業労働常任委員会

2017年08月31日

30日(水)、今日から31日にかけて2日間、産業労働常任委員会の東播磨・淡路地区の管内調査が行われる。

最初の調査地はママスクウェア加古川店。加古川駅前のヤマトヤシキの5階のオフィスへ。このオフィスにはキッズルームが併

設されており、働く母親が子供とすぐ隣で子供のようにすを見ながら仕事ができる、というものだ。保育でも託児でもないオフィス隣接キッズルームという新たな業態で全国に17店舗が開設されている。藤代社長から創業から今日までの展開等を聞き質疑を行った。小さい子供を持つ働きたい女性にとってこうした形態の職場があるということはいいことで募集には多くの応募があるという。

引き続き、東播磨県民局で事務調査を行い、午後は加古川市にあるハリマ化成を訪れた。同社は松脂製造を専門とする世界的な展開をしている優良企業で、社会貢献なども積極的に行っている。長谷川社長自ら松脂製造について説明され、工場見学も行った。工場の中には、世界の松が植えられた一角や見学者のための展示コーナーもあり、地元の小学生も見学できるようになっている。松脂からはロジン、テンペラ油などさまざまなものが抽出され、これらが印刷インキ、塗料、接着剤やゴム製品などの製造に使用されている。



淡路県民局で事務調査。建て替えられた新庁舎は外壁の一部に淡路瓦が使われていた。人口減が続く淡路島だが、年間1300万人を超える観光客が訪れる。若者の地元定着、観光振興などについて質疑が行われた。高校3年生に「淡路学読本ダイジェスト版」が配布され、淡路島へのふるさと意識の醸成がはかられている。

## 調査2日目

31日(木)、昨日に続いて、県議会産業労働常任委員会の管

内調査が行われた。午前は、淡路市のミツ精機を訪れた。同社は平成28年ひょうごオンラインワン企業に認定されており、航空・宇宙機器部品等の機械加工を行っている。周囲は山と田圃の中に突如、自衛隊のヘリコプターや練習機、戦闘機と工場の建屋が姿を現し驚いた。戦後、大阪から淡路に移り、この地で航空部品などの加工を行ない、地元雇用、社会貢献活動にも成果を挙げてきている。工場では航空機のエンジンや脚などの精密加工が行われている現場を視察した。午後は三木市にある大型リゾート施設、ネスタリゾート神戸を訪れた。藤本総支配人は、三木の豊かな自然と建築との融合を理念としたリゾートづくりを話された。施設見学を行ったが、およそ67万坪の広大な敷地にホテル、温泉、バーベキュー、プールなどが配置され、バスが巡回していた。夏休み最後の日だったが、多くの家族連れ、グループが訪れていた。北播磨観光の新たな資源となっている。



最後は北播磨県民局での調査だった。若者の地元就職の取り組みなどへの質問が行われた。今日はまさに雲一つない好天で、日差しは強いが涼しいが吹く気持ちのよい一日だった。2日間の調査を終え、兵庫県のものづくり産業、観光振興の現場調査ができ、その現状や課題を知ることができた。この成果を今後の委員会の活動に活かしていきたい。

## 産業労働常任委の管内調査（阪神地区）

2017年09月06日

5日（火）、7時過ぎには加東を出て県庁に向かう。今日から2日間、産業労働常任委員会の管内調査が阪神地区で行われる。



1日目の行程は、まず県庁隣の神戸県民センターで調査。続いて、ポートアイランド（中央区港島）にあるN I R O（新産業創造研究機構）を訪れ、活動状況の報告、新産業の創出に向けた取り組みなどを調査した。

午後は、神戸市東灘区にある（株）三徳さんを訪れ、レア・アース金属の製造、リサイクルなどについて調査を行った。同社は28年度ひょうごオンリーワン企業に認定されており、この分野でのトップ企業である。レア・アースとレア・メタルの違いから説明が始まり、工場見学も行った。1日目の最後は阪神南県民センターの調査。

### 産労常任委管内調査2日目

6日（水）、県議会産業労働常任委員会の管内調査2日目の朝を西宮市で迎えた。夜の間には雨が降ったようだ。

9時過ぎ、尼崎市にあるメック（株）を訪れた。電子基板や部品製造用の薬品の開発などを行っている優良企業。27年度女性が輝く先進企業表彰を受賞するなど、女性も男性も働きやすい職場づくりに努めてこられ、今回の調査となった。特に構えるということではなく、自然体で社風をつくってきたという説明、新し

い社屋の随所に風通しの良い環境づくりの配慮がなされていることも感じられた。

11時過ぎ、宝塚市にある阪神北県民局での調査。午後は、川西市商工会、猪名川町商工会との意見交換会を行った。会場の川西市商工会館には2つの商工会から17名の代表が出席され、商工会やそれぞれの企業が抱えている課題などについて説明を聞かせていただいた。さまざまな業種にわたる中小企業の現状や課題を知ることができた。また、AIの活用事例などの紹介もなされ参考になった。

午後3時、最後の調査先は伊丹市にある(株)精和工業所。薄板ステンレスの溶接を専門とする会社で、説明に続いて、燃料電池などの容器の溶接現場を見学した。技能向上、継承などにも力を入れておられた。

今回の阪神地区の管内調査では、先の東播淡路地区に引き続いて、ものづくり兵庫の誇る企業の調査を行うことができた。今後の県議会・委員会活動に大きな参考となるもので、いただいたご意見とともに県政に活かしていきたい。

## 井戸知事に重要政策提言

2017年09月13日



12日(火)、7時30分過ぎには雨の中を県庁へ向かう。9時40分、自民党県議団政調理事会の簡単な打ち合わせに続いて、10時から井戸知事への30年度予算編成に向けた重要政策提言を行った。

加田幹事長の挨拶、小西政調会長の提言

内容の趣旨説明に続いて、各部長から提言を述べた。私は農政環境部長として、9項目の提言を行った。7部会から41項目にわたる提言を行ったのち、意見交換が行われ、井戸知事はその中で待機児童対策、31年度以降の財政対策などについて触れた。

午後は県庁控室で9月議会の一般質問の内容を検討する。同僚議員の意見を聞いたりしながら文案を練る。その間、9月議会に向けて各部局からの説明もあった。

6時には加東市山国の兵庫教育大学の子育て支援拠点、「やまぐくにプラザ」を訪れ、名須川知子先生（副学長）、磯野久美子先生（専任スタッフ）からお話をうかがった。この施設は長年勤めた同大学の附属中学校の北隣にあり、当時は学校教育研究センターで大学生の実地教育などでよく訪れた。現在は就学前の子供の子育て支援施設に変わり、就学前教育カリキュラム開発も行っている。



## 9月県議会開会

2017年09月23日

22日（金）、朝、墓掃除、登校見守りに立ってから登庁。今日は第337回定例県議会が開会する。議会ロビーには障害者芸術文化発進プロジェクト「ゆめチャレギャラリー」が開催され、障害者の絵画などの作品が展示されており、鑑賞した。

10時30分から自民党議員団総会、11時、振鈴を合図に本

会議場へ。本会議が開会し、10月25日までの34日間の会期、新議員、幹部職員の紹介などに続いて、29年度一般会計補正予算案、28年度決算などの議案が上程され、



井戸知事が提案説明を行った。最後に「北朝鮮の核実験実施及び弾道ミサイル発射に抗議する決議」案が全会一致で可決された。

12時30分、今日2回目の自民党県議団総会が開かれ、代表質問、一般質問の概要発表と質疑が行われた。続いて1時30分から警察部会、3時から農政環境部会が開かれ、それぞれ警察歯科医会、森林環境税について講演や当局の説明などが行われた。

4時30分、県庁近くの会場で兵庫県水産振興議員連盟とJF兵庫漁連との懇談会が行われ出席した。但馬地区の沿岸漁業の現状、瀬戸内法改正から2年を経過した瀬戸内海の現状などについて現場、県、研究者などから報告や提起、意見交換が行われた。

## 加東で山田錦乾杯まつり、探訪ウォークも

2017年09月25日

24日(日)、加東市の山田錦乾杯まつり、山田錦の里探訪(田んぼー)ウォークが行われた。ウォークの出発地の東条公民館へ向かうと、朝日に色づいた山田錦の稲穂と真っ赤な彼岸花がまぶしく光っていた。

今年は市内外から210名の参加者があり、乾杯まつり会場までの約11キロのコースに向けて出発していった。

10時前にやしろショッピングパークBio2階の展示会場に。うれしの学園生涯大学の東条、社、滝野3支部合同作品展を鑑賞した。絵画、写真、書道、絵手紙、刺繍手芸、陶芸、木彫、染色、絵手紙など力作が会場狭しと展示され、制作の苦労話なども聞くことができた。



11時30分頃には乾杯まつり会場へ。加東市産山田錦を使った銘酒をつくっている全国100余りの酒蔵のうち、18の蔵が出店し、地元加東市山国の肉飯はじめグルメの店も並ぶなか、すでの多くの人が店をめぐる味を楽しんでいた。12時30分、酒場放浪記の吉田類氏も加わって関係者による鏡開きが行われ樽酒が振る舞われた。日本酒とグルメ、会話を楽しむ最高のまつりとなった。

## 本会議で一般質問に登壇

2017年09月30日

29日(金)、早朝、霧が立ちこめていた。朝登校見守りに立ったあと神戸へ向かう。

今日は9月議会一般質問2目。10時本会議が開き、一番手にはわが自



民党の大豊康臣議員（加西市選挙区）が登壇。道路・河川の維持管理業務の効率化をはじめ7問について質した。次は公明の岸本かずなお議員。昼の休憩ののち再開。維新の門隆志議員、共産党のいそみ恵子議員の質問が続いた。

午後2時30分、休憩時間に議会棟玄関で傍聴団の皆さんと記念撮影を行った。井戸知事も入っていただいた。今回の傍聴には地元、市外から50名の皆さんが参加して下さった。

2時55分再開。黒川議長の指名で登壇。5項目7問について分割方式で質問を行った。項目は次の通り。

1 兵庫創生の核となる「ふるさと意識の醸成」について

2 家庭応援施策の推進について

3 世代を超えて認知症に関する理解を深める取り組みについて

4 農業振興について

(1) ICT等先端技術を活用した農業の推進について

(2) イノシシ対策について

5 兵庫の活力を生み出す北播磨の道路整備について

(1) 県道神戸加東線の整備について

(2) 県道小野藍本線の整備について

答弁に立った井戸知事は、ふるさと意識の醸成は、自己確立、安心感、帰属意識などを深めるものとの認識を示すとともに県政150年を機に子供達にも兵庫県の未来を描く取組みを進めて主





体性を育みたいと述べた。また、家庭応援策についてもシニア世代の能力を一層活用していくことなども挙げた。

本会議終了後、ただちに自民党農政環境部会の政策委員会。来年度予算編成についての基本案について検討を行った。重要政策提言、友好団体との意見交換会などを踏まえて検討を進めた。

加東に戻る頃には、もう暗くなり始めていた。質問に取り上げた神戸加東線の道路整備、イノシシ対策などを思い出しながら、車を走らせた。

## 産業労働常任委員会でA I、I o tなどを調査

2017年11月10日

7日(火)から9日(木)の3日間、産業労働常任委員会の管外調査で茨城県、埼玉県、東京都を訪れ、A I、I o tなどの研究機関や商店街などで調査を行った。本年度の委員会特



テーマであるA I、I o tの活用と中小企業に関係する調査で、内容も充実したものになった。主な調査先は次の通り。

7日(火) 茨城県議会(ロボットイノベーション戦略)、国立研究開発法人産業技術総合研究所つくばセンター本部(ロボット・人工知能技術の開発)



8日（水）CYBERDYNE株式会社（人支援技術によるイノベーション・新産業創出）、川越町並み委員会（川越一番街商店街の活性化と町並み景観保存）

9日（木）地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター（中小企業のロボット産業への参入支援）、産総研臨海副都心センター人工知能研究センター（ものづくりにおけるAI導入、AI技術による新規サービス創出）

## 井戸知事に30年度当初予算編成申し入れ

2017年11月11日

10日（金）、自民党県議団から井戸知事に対して30年度当初予算編成に対する申し入れが行われ、農政環境部会長として出席した。

自民党県議団を代表して加田幹事長、小西政調会長から井戸知事に対して申し入れ書が手渡され、小西政調会長から趣旨説明が行われた後、7つの部会からの申し入れについて各部会長が説明を行い、意見交換を行った。

平成30年度は県政150周年、行財政構造改革の目標年次に当たる。人口減少にあっても「どこよりも夢叶う兵庫」、活力ある兵庫の実現に向け予算編成、県政推進を申し入れた。意見交換ではユニバーサル条例や有害鳥獣害対策、とりわけイノシシ被害などが話題にのぼった。

井戸知事は、国の予算編成、補正予算などを観ながら、行革最終年度の30年は収支均衡をめざした予算編成に努め、「井戸県政を継続させてよかった」といってもらえるようにしたいと述べた。

## 陶芸美術館、立杭焼の登窯—文化振興議連で

2017年11月15日

14日（火）、篠山市今田町立杭の兵庫陶芸美術館へ。県議会文化振興議員連盟の現地調査が行われ、途中から出席した。

陶芸美術館では、三木館長、林副館長から美術館の概要説明、焼物を通じた人材育成や地域活性化事業の取り組みなどについて説明を受けたのち、特別展の「今右衛門の色鍋島」を鑑賞した。学芸員



の方の説明で理解が深まり作品の素晴らしさを味わうことができた。

そのあと、立杭に復元された丹波登窯を視察。復元作業を担当された美術館の山田貴一氏から復元経過、窯の特徴など詳しい説明を受けた。また、近くの窯元で陶器制作の実演を見せていただいた。土を練り、ろくろを回しながら、その手で次々と皿や急須などが作られていく。それはまるで魔術のようでもあった。

最後に陶の郷を見学。陶磁器協同組合加盟の店（ブース）が並びその作品の多用さをあらためて知ることができた。

## 社高校1年総合的な学習の時間で対話

2017年11月17日

16日（木）午後2時30分過ぎに県立社高校へ。1年生の総合的な学習の時間にゲストとして招かれ、職業や大学進学など進路選択、今の職業について、生徒からの質問に答える形式で

1時間対話を行った。私が在校した昭和44年から47年当時の社会状況、高校生活などを紹介したあと、質問に答えた。放送部の生徒の司会で、次々と質問が出た。一番の思い出は？大学受験で



苦労したことは？いつ職業を決めたのか？など。生徒は7時間目で疲れていたはずだが、態度もよく、礼儀正しく、かつ和やかな雰囲気で非常に好感が持てた。高校生相手に話す機会は滅多になく、母校社高校での教育実習以来、40年ぶりだった。最後に社高校をもっともっと好きになって目標に向かってしっかり努力を重ねてもらいたいとの思いを伝えた。こうした時間を与えていただいたことに感謝したい。



## 働き方改革—WLB表彰式と講演

2017年11月18日

17日（金）、午後1時、県公館で行われた29年度ワーク・ライフ・バランスフェスタに出席した。優秀企業等への表彰式では、地元加東市の釣針の土肥富さんが受賞された。

特別講演では、政府も進める「働き方改革」について、「働き

がい改革を」と、職場の結束力を高める実践的手法、バインディング・アプローチについて、荻阪哲雄氏（多摩大学教授・チェンジャーティスト代表）が講演を行った。改革を具体的に如何に進めればよいか、という現場の悩みに役立つ手法の紹介だったが、兵庫から改革ののろしを上げてもらいたいという氏の思いが伝わってきた。



## うれしの学園生涯大学で講義 播州清水寺で寺宝拝観

2017年11月22日



21日（火）9時30分過ぎに加東市下久米の兵庫県立嬉野台生涯教育センターへ。今日のはうれしの学園生涯大学の大学院で講義を行った。

テーマは「道標のまち加東」。院生さんは北播磨の各市町の特徴を活かしたマップづくりの参考にするため、各市からゲスト講師を招聘しており、今回のテーマも「道標で」という要望で行ったもの。加東市域は、昔から京街道、大阪街道、高砂街道をはじめ、西国巡礼、加東四国霊場の巡礼道があり、多くの人々が往来した。江戸中期から昭和のはじめまで、多くの道標が建てられ、今も残っている。そうした道標を紹介した。

午後は4時に加東市平木の播州清水寺へ。加東ライオンズクラ

ブの例会が行われた。例会に先立ち、根本中堂で公開中の秘仏十一面観世音菩薩像を拝観。そのあと講堂で坐禅体験も。宿坊で行われた例会では、来月のクリスマス訪問予定、結婚記念日のお祝いなどが行われ、私も35周年を祝っていただいた。今月は8組と多かった。例会終了後、坂上田村麻呂が清水寺に奉納した国の重要文化財の大刀2振りを見学した。東京の国立博物館から一時的に里帰りし公開されている。午後7時30分頃、講堂からライトアップされた境内の紅葉、遠く明石海峡大橋の灯をを望むことができた。

## 「東条川疏水の日」シンポやボート体験など

2017年11月24日



23日(木)、今日は勤労感謝の日、新嘗祭の日。朝、玄関に国旗を掲げてから歩いた。忠魂碑、佐保神社、大師殿のいつものコース。神仏に豊作を感謝する。

今日は「東条川疏水の日」でもある。昭和26年(1951)11月23日に疏水の源である鴨川ダム(東条ダム)が完成したことを記念しこの日が制定された。兵庫県北播磨県民局では、東条川疏水ネットワーク博物館を立ち上げ、流域の加東市、小野市、三木市の団体や住民らがこの貴重な地域資源を活かし次世代に伝える取り組みを行っている。

9時30分、加東市松沢の安政池へ。幹線水路が流れており、

疏水をボートで探検しながら疏水を学ぶという取り組みが行われた。初めての試みに募集定員の倍近くの申込みがあり、約100名の子供たちが数人ずつゴムボートに乗って、約800メートルを探検した。途中、疏水に関するクイズもあり、子供達は歓声をあげながらゴールへと向かった。家族等は水路に沿って歩き、紅葉の美しい安政池の景色を楽しんだ。琵琶湖疏水でも船で疏水を行くイベントが行われているが、東条川疏水ボート探検はまさに探検的ところが魅力的。加東市、兵庫県東播土地改良区、近畿農政局らこの企画を進めた関係の皆さんとこれからも続けていき、疏水のことをより多くの人に知ってもらいたいものと話した。市の職員の中に教え子がいて、30数年前に先生と「ダムと疏水、嬉野開発の学習」をしたことを思い出し、感無量だと話していた。まさに感慨一入だった。



午後1時、加東市東条文化会館コスミックホールで開催された東条川疏水ネットワーク博物館の「東条川疏水の日」シンポジウムに出席した。今年は1部で松原茂仁氏（関西国際大学教授）の「茶菓米山田錦を育む東条川疏水」の講演、地元東条の山田錦振興会会長の藤原進氏への聞き書き問答（トークセッション）、小池敏氏（兵



庫県東播土地改良区理事長)の提言が行われた。小池氏は詩吟「東条湖」の披露も行われた。2部では東条川疏水はぼくたちが守る!」のテーマの下、アニメ紙芝居公演が行われ、会場には大勢の子供や家族が詰めかけた。ため池マン、疏水マンも会場に登場し、子供達が親しみを疏水やため池を学ぶ工夫がなされていた。まさに「疏水」の一日だった。

## 飛行艇製造の現場視察—新明和工業

2017年11月25日

27日(金)、自民党県議団の産業労働部会の管内調査で、神戸市の新明和工業を訪れ、航空機製造の現場を視察するとともに航空機産業の現状や課題などについて調査を行った。

新明和工業は戦前の二式大艇や紫電改などの名機を生んだ川西航空機から脈々と流れる飛行艇づくりの高い技術を受け継ぎ、世界最高の性能を誇る救



難飛行艇US-2を製造していることで知られる。あのニュースキャスターの辛坊治郎氏を救出したのも階上自衛隊のUS-2だったことは記憶に新しい。

会社概要の説明のあとの質疑も飛行艇製造の世界の状況や将来的な展望、県内航空機産業の振興など時間が足りなくなるほど活発に行われた。工場見学では戦前からの工場内で行われている航空機部品製造、US-2の組み立て、運用中の階上自衛隊機の点検などの現場を見ながら説明を受けた。短距離での離着水、波高

3メートルでも離着水を可能にする低速飛行、艇体の工夫など世界に冠たる高い技術を目の当たりにした。航空機産業はその裾野が広い産業である。兵庫県下には、こうした航空機産業の集積があり、さらに伸ばしていくことで経済の活性化を図っていくことができる。工場の大きな戸には戦時中の敵機の機銃掃射を受けた痕もあるということを知り驚いた。

## 東条地域ミニ文化祭 北播磨ふるさとフェスタ

2017年11月26日



25日（土）、9時過ぎ、加東市岡本の東条公民館へ。東条地域ミニ文化祭が行われ、開会式でお祝いを申し上げた。地域づくり協議会が中心となり、住民の文化活動はじめ様々な活動の発表と交流の場を設け、交流を通して心豊かな地域づくりに取り組もうというもので、子供の作品から中学生の音楽演奏、高齢者の銭太鼓や合唱、オカリ

ナ演奏、お茶席や着物教室など多彩な催しが行われた。

午後1時から三木市文化会館で北播磨ふるさとフェスタが開催され出席した。まず、兵庫県自治賞やこうのとり賞、くすのき賞、のじぎく賞など、地域づくりに貢献された個人や団体に賞が贈られた。続いて、県民局が募集したふるさと川柳コンテストと列車内鉄道絵画の優秀作品への表彰が行われた。最優秀賞は3010作品の中から選ばれた「夏祭りゆかたのすそも楽しそう」だった。そのあと、加西市の西在田地区、小野市の下来住自治会の実践活

動発表を聴いた。どちらも住民が主体となってふるさとづくりに積極的に取り組まれており、ふるさとへの愛着と誇り、そして知恵と汗をしばっての取り組みに感銘を受けた。

## 北播磨夢会議－2030年の兵庫を展望

2017年11月27日

26日（日）午後、加東市 やしろ国際学習塾で行われた北播磨夢会議に出席した。私たち県議員は第2部からの参加だったが、各グループでの話し合いの結果の発表を聞き、意見交換が行われた。



2030年の兵庫県、北播磨の姿について、人口減少、超少子高齢化にあっても活力を維持していくといった課題について、交流や健康、観光など様々な観点から意見や提案が行われた。出席した金澤副知事は、AI、IoTなどの拡大により、急速に社会生活のあり方も変化していくなかで、北播磨の魅力を活かしながらふるさとづくりを進めていくかについて発表を踏まえながらまとめを行った。

## 師走－女優の佐久間良子さんを義士の寺に案内

2017年12月02日

1日（金）、義士祭の幟が立つ加東市家原の赤岸交差点にある観音寺に女優の佐久間良子さんが訪れ、案内役を務めた。

佐久間さんは2日（土）に滝野文化会館で公演「大石内蔵助

の妻りく」を行うために当地に入られ、義士ゆかりの寺である家原観音寺を訪れたもので、加東市文化振興財団の方の依頼で一緒に四十七義士の墓にお参りし、線香を手向けた。



赤穂義士と当地、そして観音寺との関係などを紹介することができた。女優として、舞台に立つ前に見えないところでこうしたこともされる姿勢に感銘を受けた。

## 12月定例県議会開会 在職10年表彰

2017年12月05日

4日（月）、9時30分頃に登庁した。10時30分から自民党議員団総会。11時に本会議が開会した。

今議会は14日までの11日間の会期で開かれ、総額約121億5千万円の補正予算案、青少年愛護条例改正案など36件の条例案が上程され、井戸知事が趣旨説明を行った。7日に各会派代表質問、8日から一般質問が行われる。



本会議終了後、議長応接室で、全国都道府県議長会議長からの在職10年の表彰、兵庫県議会議長からも同じく10年の表彰式が行われた。今年、在職20年議員1名、

10年議員9名が表彰を受けた。私も同じ3期の同僚議員らと一緒に表彰を受けた。これを節目にますます精励してほしいとの黒川議長から言葉をいただいた。ちょうど議長室を訪れた井戸知事からもお祝いの言葉をいただくサプライズもあった。10年間議員として活動してこられたのは、まさに支援してくださった方々や先輩同僚議員のお蔭であり、感謝しつつ初心を忘れず頑張っていきたいと思った。

午後1時から2回目の自民党議員団総会。代表質問、一般質問予定者から質問内容の概要発表をはじめ、諸議題についての協議が行われた。難しい状況、課題に対して、各議員が期数や役職に制限されることなく、自らの思い、考えを述べ、意見を言い合うことができる。これが自民党議員団の伝統であり、まさに民主的などころである。たとえ、少ない議題でも全員が顔をそろえ、意見を述べ合って物事を決する、それが自民党の伝統だ、と議員になりたての頃に先輩議員から言われたことが忘れられない。

雨が降り始める中を加東に戻る。事務所で連絡などを確認。朝鮮半島では米韓合同軍事訓練が始まった。北朝鮮もミサイル発射に続き、潜水艦の動きも報道されている。また、わが国の日本海沿岸には北朝鮮の木造船の漂着が続いている。兵庫県は日本海に面しており、こうした危機に対する万全の対応が必要だ。

## 北播磨地域づくり懇話会—北播磨の地域創生

2017年12月07日

6日(水)午前10時から兵庫県社総合庁舎で29年度北播磨地域づくり懇話会が行われ、地域資源を活かしたふるさと創生—魅力あふれる北播磨をめざして—のテーマの下に、北播磨各市町



の首長、議会、県議会議員が井戸知事に対して課題や要望を述べ、懇談した。

各市町からの話題は、それぞれが取り組んでいる地域創生事業やまちづくりの計画、道路、河川改修などのインフラ整備、イノシシ対策など多岐にわたった。各県議からも北播磨の魅力を活かす取り組みに関する意見が出された。私からは神戸と北播磨を直結する高規格道路、東条川疏水ネットワーク博物館の活動拠点の必要性について意見を述べた。井戸知事は総括コメントにおいて、各市町から出された話題に対して丁寧な答え、2時間の懇話会を終えた。

午後、事務所で加東土木事務所から河川改修、道路整備などの進捗状況と今後の予定などについて報告を受けた。

## 常任委員会、議会政調懇話会、自民勉強会

2017年12月13日



12日(火)10時前に登庁。10時30分から産業労働常任委員会が開かれ、付託議案審査を行った。議案は職員給与改定、台風被害対策の産業労働部関係の補正予算案。当局説明、質疑ののち表決が行

われ、賛成多数で原案の通り可決されるものとなった。



午後1時30分から兵庫県議会政調懇話会が行われた。今年は県政150周年を迎えるにあたり、兵庫の歴史に詳しい田辺真人園田学園女子大学名誉教授を講師にお迎えし「兵庫県の成り立ちと五国の魅力」と題した講演を聴いた。何度聴いても飽きないのは先生の巧みな話術と奥の深い歴史の見方のせいだろう。あっという間の2時間だった。

続いて、午後3時45分からは、自民党議員団の「地方分権に関する勉強会」が行われた。この勉強会は全国議員交流会に参加した山本敏信議員（議員定数等調査特別委員会委員長）の提唱で、議員定数のあり方等に悩んでいる全国の都道府県議会の状況を踏まえ、専門的な見地から問題を整理し、あり方を検討する参考にしようとしたもので、講師には、同交流会で講師をつとめた大石眞先生（京都大学名誉教授）をお招きした。他会派にも参加をよびかけ、共に考えていこうとするオープンな勉強会だった。大石先生からは、最高裁の判例などをもとに、人口比例を原則とする議員定数のあり方に対する提案を含めて今後の議論を進めるうえで示唆に富む内容の講演をいただいた。人口減少時代の地方議会の役割、議員定数、地域代表のあり方についてしっかり考えていきたい。

## 兵庫教育大学で講演－県議会の取り組みなど

2017年12月19日

18日（月）午後1時前に加東市下久米の兵庫教育大学の社会



系の小南研究室へ。今日は小南教授の政治学概論の講義で、地方自治について、兵庫県政について県政の課題や県議会の取り組みなどについて講演をした。

この講義を聴講している大学1年生約40名に対して、県政150周年をはじめ、地域創生、行革、議会改革、議員提出政策条例などについて県と県議会の出している広報紙を使って、90分の講演を行った。

地元兵庫県出身の学生が約半分で、他は西日本の各県出身、東日本の学生も数名だった。小南教授が事前調査で学生から質問用紙を取っており、そうした質問にも答える内容で話した。知事選挙、衆院議員選挙と大きな選挙があったが、投票に行ったという学生が少なかったのは少し残念だったが、将来子供達に民主社会の構成員の一人として代表を選ぶ選挙での投票行動の大切さを教えることになる教育大学の学生にはまず自身が投票に行くことが大事だと伝えた。90分はあっという間だった。



## 陸自中部方面総監部を訪問―県議会防衛議連

2017年12月21日

20日(水)、兵庫県議会の防衛議員連盟のメンバーで、伊丹



市にある陸上自衛隊中部方面総監部を訪問した。

兵庫県出身（多可町）の岸川公彦中部方面総監への挨拶を兼ねて、総監部、施設、機材等の見学を行った。

岸川総監からは、防衛大学の教育を通して自衛隊の人材育成について、また、自衛隊の災害派遣活動について、熊本地震の体験をもとに講演していただいた。

広いグラウンドでは、武装競走大会が行われており、総重量15キロの装備を身につけて2キロ余りを走る部隊対抗競技が行われていた。災害派遣の車輛、機材の展示では、偵察、救助、除染、治療（手術）、炊事など救援活動に必要な各段階に対応した装備の説明を受けた。中でも大規模災害の現場で、放射能汚染、化学物質汚染などの中でも測定などの活動ができる特殊車輛には驚いた。見学後、隊員食堂で栄養バランスのとれた昼食（隊員食）をいただきながら総監らと歓談した。岸川総監が大災害派遣活動では、まず「命を救う」、次に生きる「希望を与える」、さらに再び歩き始める「勇気を与える」ことが自衛隊の任務であると話されたことが強く印象に残った。



## 北播磨カレー、社高 S e i c a

2017年12月24日

23日(土)午前10時、加東市社のショッピングパークBioへ。社高校生活科学部の学生チャレンジショップ「S e i c a」の売り出しが行われている。売り出し前に行列ができており、私も列に並んだ。ここでも生徒の保護者の教え子と遭遇。菓子やケーキを買った。種類も増え、接客にも慣れて、人気は上々だった。

11時前に再びBioへ。2階多目的ホールで開催された北はりまカレーフェスタへ。北播磨5市1町の特産を使ったご当地カレー、例えば加東市は、社高校が開発した桃ピューレのキーマカレー、小野市はいちじく、三木市はバジルなどが味わえるとあって、開始前から行列ができ、開場とともに満席の賑わいだった。家族連れ、夫婦で、と北播磨の味を楽しんだ。まさに「食の宝庫北播磨」を実感できた。



社高校 S e i c a は、この日、J Aみのりの直営店、ふれすこ社店でも新開発の商品の試食販売をやっていたと聞き、その活躍ぶりに感心した。



## 五島、水田両先生とのお別れ、消防団年末警戒

2017年12月28,29,30日

27日（水）、昼過ぎに姫路市へ。県会議長の水田宏先生のお別れ会が姫路市立文化センターで行われ、同僚県議らと参列した。先生は姫路市議2期、県議6期、県会議長を務められた。最後の1期が私の1期目に重なり、ご指導をいただいた。勇退後のご子息の裕一郎氏が県会の議席を継いでおられる。後援会長さんの弔辞では、県議初当選当時のエピソードが紹介され、水田先生の義理人情を大切にされるお人柄が偲ばれた。最後に献花をしご冥福をお祈りした。

28日（木）、今日は姫路市内の葬祭会館で営まれた元県議会議員の五島壮先生の告別式に参列した。五島先生は3年前に体調を悪くされ、8期目への出馬を断念、ご子息の壮一郎氏があとを継がれた。五島先生には2期8年間、自民党県議団の大先輩として、また、早稲田大学法学部の大先輩として県庁稲門会でもご指導をいただいた。今も強く心に残っている先生の言葉に「政治家にとって言葉はいのちだ」という一言である。議場における先生の質問、演説、挨拶など先生が発せられる言葉はいつも力強く、心に響いてきた。その一言一言に先生の思想、信念が滲んでいた。井戸知事の弔辞にもあったが、先生はいつも愛する郷土、播磨の発展を歴史から説き起こされた。「雄県兵庫は播磨なくしてあり得ない」との言葉もそうした先生の熱い思いが溢れていた。新米議員の頃、経験、見識豊かな政治家である先生が、いろいろな会での挨拶について推敲を重ねておられることを知って、そうではなかった自分が恥ずかしかった。もちろん、それからは先生に倣っている。弔辞のあと、詩吟の摂南流顧問をしておられた先生に

撰南流宗家と皆さんが吟じられた。実は私も詩吟は撰南流だった。祭壇中央の遺影の先生的笑顔を拝しながら、お好きだった演歌を歌われる五島先生のお姿が浮かんできた。安らかにお眠りください。

夜、加東市消防団の年末特別警戒発弾式に出席した。出動団員は165名。今日から3日間、各分団毎に警戒を実施する。式後、市長、消防団幹部と一緒に各分団を激励に回った。11年間、単独行動で3日間かけて全分団を回っていたが、去年は休止、今年から市長等と一緒に回らせてもらうことになった。消防団員の皆さんご苦勞様です。



29日（金）行方不明者情報が防災放送から流れた。消防団の年末特別警戒が昨日から始まっているなか、搜索活動も行われていることだろうと思いながら、夜、昨日に続いて市長と一緒に分団回りを行った。東条の小沢分団詰所で搜索活動中の小隊長等から状況を聞いたが、こうした懸命の搜索にもかかわらず、すでに不明となって時間が経っており、手がかりも見つかっていないということだった。東条地域から鴨川、上福田、米田の各地域の各分団詰所を回って、警戒にあたる分団員を激励した。明日30日も警戒が行われる。写真は東条地域の森分団詰所。

火災による死傷者が出ているニュースが多い。火事は何もかも奪ってしまう。年末年始、何かと忙しいなかで、火の用心を呼びかけることは大事なことだ。小さい頃、町内の子供会で「マッチ一本火事の元」、「火の用心、魚焼いても家焼くな」などの合言

葉を大声で叫びながら、拍子木を打って回った。大人になってからは消防団員として年末警戒にあたった。当時は消防車による巡回と歩き組の巡回もやった。火災と災害、そして今日のような捜索活動などで出動する消防団はまさに地域を守る砦である。子供の頃から当たり前のようにやってきた活動だが、さて、今の子供はマッチで火をつける経験がほとんど無く、「火育」の必要性が指摘されるほど生活における「火」との関係が希薄になっている。そんなことを思いながらの消防団回りだった。

## 自民党政調会始まる－30年度重要施策・予算案について

2018年01月11日

10日（水）、9時30分頃登庁。今日から3日間の予定で、30年度の重要施策と予算案に関する自民党の政務調査会が始まった。午前



は、企画県民、健康福祉の2部、午後は農政環境、県土整備部の2部から概要説明を受け、質疑が行われた。私からは国民保護訓練やひょうご基幹道路ネットワーク整備計画などについて質問・要望をした。終了後、林業議員連盟と農政環境部会で、国の森林環境税に関する勉強会が開かれた。

平成30年度は、行革の仕上げの年度であり、県政150周年の節目となる大事な一年である。県の諸計画も改定が行われる。気合いを入れていかねば。

## 東条西小学校4年生が議場見学

2018年01月16日

15日(月)、朝、登校見守りに立ち、そのあと県庁に向かう。今日は加東市立東条西小学校の4年生14名が県庁を見学する。視聴覚ルームで説明を受けた後、10時



15分から県議会の本会議場を見学した。議場で児童を迎え、挨拶。知事の名前を知っている生徒が数名居た。挨拶の中で県政150年、初代知事は伊藤博文だったことなどを話した。担当の職員から説明を受けたり県議会クイズに挑戦したあと、議長席で記念撮影を行った。兵庫県の勉強はこれから始まるということだったが、関心をもって郷土のことをよく学習してほしい。

午後も県庁で調べ物などをする。たまたま家で見つけた県政資料館発行の「兵庫のしおり」10号(平成20年)に掲載されている伏谷聡氏の「兵庫県庁舎の編成について」を読んだ。県政150年の始まり、庁舎の変遷がよく理解できた。

## 産労常任委員会や議員定数特別委員会

2018年01月17日

16日(火)、9時30分過ぎには登庁。10時30分から産業労働常任委員会が開かれた。まず、30年度当初予算要求概要についての報告が行われ、続いて、閉会中の継続調査事件として「戦略的な産業立地の促進について」、当局説明、質疑が行われた。

兵庫県は工場立地では全国上位にあり、県内地域別では神戸、北播磨が立地件数の割合が高くなっている。北播磨の将来的な可能性も含めて、県としての取り組み、市・町との連携、支援について質問した。

昼は自民党議員団の議員定数等調査検討委員会の打合せ。午後2時30分から自民党議員団総会が行われた。来月16日から開かれる第339回定例県議会の日程、代表質問、一般質問者、予算特別委員などについて協議が行われた。

午後3時30分から議員定数等調査特別委員会が開かれた。総定数、特例選挙区、一票の格差など各論点について、各会派の意見と質疑が行われた。特例選挙区の扱いなどについて、慎重に検討すべきとする自民党と全て解消すべきとの他の会派との立場の違いはあるが、人口減少下における地域代表選出のあり方を検討していく必要性については、その時期は別として行う必要があるとの認識が各会派から示された。

## 自民県議団建設部会でダムやICT建機を調査

2018年01月20日

19日（金）、9時前には登庁。自民党県議団の建設部会の管内調査に参加した。調査で訪れたのは、青野ダム（三田市）とコマツIoTセンタ近畿（大阪市）。県管理ダムとしては、県下一の湛水面積をもつ青野ダムでは、洪水に備えて予備放流量の拡大について、また、総合治水条例に基づいた武庫川



流域での治水対策について調査した。

また、コマツでは、建設現場において取り組みが進んでいるICT建機やドローンを活用したアイコンストラクションについて調査を行った。コマツではICT建機への体験試乗も行い、その技術の高さを体感することもできた。この歳になって初めてブルドーザーに乗り操作をした。といってもボタンを押し、レバーを倒しただけだったが、ブルはインプットされた施工設計通りに前進しながら地面を削っていった。



## 滝野南小議場見学

2018年01月25日



24日(水)、午後1時、加東市立滝野南小の4年生25名が県議会本会議場の見学にやってきた。朝から県庁視聴覚ルーム、警察本部や災害対策センターの見学を行っている。挨拶の中で知事の名

前を聞いてみると、井戸知事と答えた児童は多かったが、150年前に初代知事となった伊藤博文の名前を知っている児童がいたのには驚いた。

## 社高校体育科の課題研究発表会

2018年01月26日

25日（木）午後、県立社高校体育科の課題研究発表会に学校評議員として出席した。社高校はオリンピック・パラリンピック教育推進校に指定されており、グループ研究の中にはオリンピックへの関心を高めたり、よりよくするために何ができるかといった発表もあった。



講評を兼ねて体育科OBで神戸大学大学院教授の山口泰雄氏が「社から全国・世界へ向けて」と題して講演を行った。今月28日（日）には、社高校3学科合同課題研究発表会がやしろショッピングパークBioの2階多目的ホールで予定されている。

## 加東警察署術科始 総務常任委管内調査

2018年01月27日



26日（金）10時、加東警察署へ。平成30年の術科始め式が行われた。署内の武道場で柔道、剣道の試合や逮捕術が披露された。始めに署の各科が今年一年の思いを表した漢字一字が紹介された。

整（会計）、縁（警務）、正（留置）、柔（刑事）、団（生活安全）、守（地域）、躍（交通）、砦（警備）の8字と「実」（署全体）。白

井署長は「思いが実る、実のある、実力を備えた」加東署をめざすと力強く語った。記念撮影とお祝いを申し上げ、ここで隣の総合庁舎へ。

今日は総務常任委員会の管内調査で北播磨県民局の調査が行われるため、少し遅れて出席した。管内調査で委員会が訪れた際には地元選出議員が出席する。委員からは、北播磨の住み良さを活かした移住促進や観光、子供のふるさと意識の醸成、神戸元町商店街の北播磨おいしんばん館などについて意見が出た。

## 但馬丹波へ調査－産業労働常任委員会

2018年02月02日

30日（火）から2月1日（木）の3日間、県議会産業労働常任委員会の管内調査で但馬丹波地域を調査した。

雪が続いていたが、調査の3日間は晴れて調査も順調に行うことができた。主な調査先は次の通り。

- ◇30日：道の駅「但馬のまほろば」（朝来市山東町）、（株）オーシスマップ青溪技術センター（養父市八鹿町）
- ◇31日：城崎温泉観光協会「若旦那の会」との意見交換、二方蒲鉾（株）（豊岡市瀬戸）、但馬県民局
- ◇2月1日：大地農園（丹波市山南町）、丹波県民局、篠山市立「太古の生きもの館」

城崎観光協会では「共存共栄」の合言葉のもとに、まち全体が一つの旅館のまちづくりを進めており、若旦那の会との意見交換を行った。廃校活用のオーシスマップでは「家族の日」を設けるなど多自然地域で働き方改革を進めており、都市部から戻って

きた若い社員さんとの意見交換も行った。二方蒲鉾では地元でとれた魚で社員のアイデアを活かした新しい商品開発に取り組んでいること、また、大地農園では高齢化や豪雨災害復興など地域課題の解決に



も積極的に取り組みながら世界的な業績をあげていること等々、兵庫の元気な企業や観光の現場の取り組みを調査することができた。一億年以上前の地層である篠山層群が露出し、そこに恐竜が生きていた痕跡があり、直に見ることができた。今は控えめだが、いずれ地球史研究の世界的な注目地になるのではという夢も感じられた。二方蒲鉾の社長さんが母校社高校の野球部出身だったことや工場長の息子さんもバレー部で活躍したという嬉しい出会いもあった。

## 自民党支部総会、公開講演会、空き家開き

2018年02月11日

10日(土)10時、社商店街にある古いお屋敷と庭を会場に開催された「社おにわ亭 in いちふじ」へ。生憎の雨だったが、会場には大勢の人が訪れ、石窯ピザや自家焙煎コーヒー、アロマづくり、



雑貨などの出店に列ができていた。ご主人に蔵の中を特別に見せ

ていただくと、和傘が目につき、開くと「裁判所前 藤井」と書かれていた。移転する前の社区裁判所はすぐ近くにあった。そんな街の歴史を物語っていた。



11時30分過ぎ、加東市社福祉センターへ。自民党加東市支部総会と公開文化講演会の会場準備を行い、午後1時から総会、午後1時35分から講演会を行った。総会には黨員約50名が出席。講演

会には会場一杯の約100名の参加があった。

講師は湊川神社の垣田宗彦宮司。「楠木正成公の魅力ー日本人と楠公精神」の演題で、約90分間講演していただいた。日本史の流れと日本人の精神史の中に存在し続けた楠木正成公の存在を明らかにする内容で、150年前の湊川神社の創建と当時の人々、兵庫県の役割などについてもお話しいただいた。中身の濃いお話で、90分では足りないぐらいだった。

## 2月定例会開会 神戸元町バル 防衛議連

2018年02月17日

16日(金)、今日は第339回定例会県議会の開会日。9時過ぎには登庁。9時30分から自民党議員団総会、10時から2月議会恒例の議場コンサートが行われた。演奏は兵庫芸術文化センター管弦楽団。指揮は岩村力氏。シベリウスの組曲「カレリア」、サラサーテ「序奏とタランテラ」、ベートーベン「歌劇フィデリオ」序曲が演奏され、「故郷」を全員で合唱、アンコールに促されてラ

デツキー行進曲で締めくくった。

11時本会議が開かれた。会期は3月23日までの36日間。平成30年度予算案など84件が上程され、井戸知事の提案説明が行われた。

12時30分、本日2回目の議員団総会が行われた。午後1時、社小学校4年生が県庁見学にやってきたのでロビーで迎え挨拶をした。



午後1時30分本会議が再開され、29年度補正予算案（経済活性化）が上程され知事の提案説明が行われた。質疑には自民党の吉岡たけし副政調会長をはじめ6人が立った。続いて関係常任委員会に議案が付託され、委員会審査が行われた。産業労働常任委員会では、金属新素材研究センター開設事業など関係予算案を審査し、原案通り決すべきと決定した。その後本会議が再開され、討論ののち表決が行われ、補正予算案は可決された。

本会議終了後、議員定数等調査特別委員会が開かれた。これまで重ねてきた定数等に対する各会派の態度が表明され、出尽くしたということで、次回までに委員長試案を求めることに一致した。

午後5時頃、神戸元町6丁目商店街の北播磨おいしんぼ館前で行われた「新酒で乾杯！山田錦発祥の地北播磨・神戸元町バル」へ。加東市からの神結酒造をはじめ、各市町の酒蔵が出店し、大勢の人が立ち寄り日本酒を飲み比べた。

6時30分から神戸市内で兵庫県議会防衛議員連盟の総会・研修が行われ出席した。井戸知事、西川県警本部長、田中第3師団

長ら自衛隊、警察、県の幹部と議員等が出席し、情報交換、交流を深めた。田中師団長からは熊本地震発生時の対応やそこで見えた課題など貴重な体験を聞くことができた。

## 東播磨道工事促進を要望―近畿地整局へ

2018年02月20日



19日、朝、8時20分頃には登庁。兵庫県議会議員東播磨道促進会議の藤原昭一議員（小野市選出）、村岡真夕子議員（三木市選出）とともに国交省近畿地方整備局を訪れ、「東播磨道の整備促進に

関する要望書」を橋本道路部長に手渡した。県からは県土整備部、加東土木事務所が同席し、残る北工区の工事を促進するための予算の確保等を要望した。

## 本会議（代表質問） 議員定数委員会 竹島の目

2018年02月23日

22日（木）、10時から本会議が開かれた。今日は代表質問が行われ、自民党、公明・県民会議、県民連合、維新の4党派が質問した。

まずわが自民党の加田裕之幹事長（神戸市長田区選出）が登壇し、県庁副都心の整備、県産木材の利用促進、基幹道路ネットワークのあり方と基本計画の策定について、等8問について質した。30年度に策定する基幹道路整備計画には社会醸成の変化に応じ



て、神戸市中心部と北播磨を結ぶ道路の計画を挙げた答弁があった。9月議会の一般質問でも取り上げたことであり、県発展には不可欠の交通インフラだと考えている。

午後3時には本会議が終了。その後、議員定数等調査特別委員会が開かれ、正副委員長試案が示された。養父市・

朝来市の合区により、定数1，選挙区1削減などを内容とするもので、各会派にもちかえり次回委員会で協議することになった。

今日は「竹島の日」。平昌冬季五輪で韓国と北朝鮮の合同チームの朝鮮半島の旗に竹島が描かれていたり、昨年には竹島周辺で韓国が軍事訓練を行うなど、竹島の不法占拠を固定化しようとしている中、今年も島根県松江市では式典が行われた。2年前に式典に出席した経験がある。また、教員時代は歴史的な事実を示しながら竹島が日本固有の領土であることを教えてきた。その後も歴史史料が次々と発見されている。韓国による不法占拠の既成事実化、固定化を決して許してはならない。そのためにも国民が関心を高め、一丸となって解決への策を講じていかなければならない。写真は加東事務所に掲げている竹島の日のポスター。

## 貝塚茂樹氏が道徳教育の講演

2018年02月26日

25日（日）、午後1時30分から、加西市健康福祉会館でニューモラル講演会（モラロジー主催）に出席した。

講師は貝塚茂樹武蔵野大学教授。「なぜ今、道徳の教科化か」

の演題で、今年4月から小学校で始まる特別の教科道徳について、教科化の背景や趣旨、内容、課題等について話された。貝塚先生には、以前、私の「まほろばセミナー」の講師として加東市にもお越し



いただき、お話しいただいたことがある。いよいよ始まる教科としての道徳についてあらためて現時点でのお話を聴くことができ大いに参考になった。特に、和辻哲郎、天野貞祐なくして戦後の道徳教育は語れないとの言葉にもう一度勉強してみようと思った。いずれにせよ、「考えることや議論を通して道徳的価値を自覚させる道徳の授業」がこれから始まる。

## 民泊条例など可決 スポーツ振興議連で表彰

2018年03月03日

2日（金）、9時半過ぎには登庁。教育委員会文化財室から日本遺産登録について説明を受けた。

10時30分から議員団総会、11時本会議が開かれた。29年度補正予算案、条例案などの各常任委員会での審査結果が報告され、討論に続いて表決が行われた。いわゆる民泊条例など37件の議案が可決された。全国でもっとも厳しい内容とされる民泊条例が可

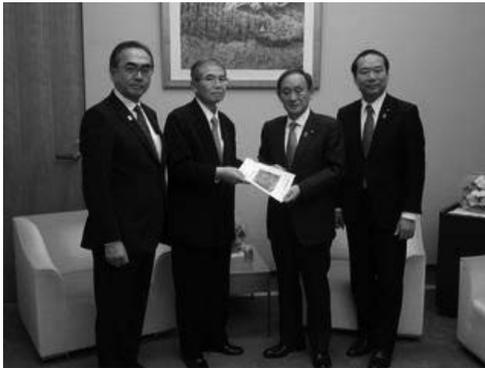


決されるとあってテレビ放送局のカメラが並んだ。

本会議終了後、3号館7階大会議室で兵庫県議会スポーツ振興議連の総会・研修会が行われた。この日には、29年度活躍したスポーツ選手の表彰が行われる。今年は、ピョンチャン冬季五輪で活躍した坂本花織さん（神戸野田高校）や田中希実さん（西脇工業高校）ら6人が表彰された。山本敏信委員長から表彰が行われたあと、各選手が今後の抱負などを力強く述べた。

## 県議会東播磨道促進会議で国へ要望

2018年03月09日



8日（木）、朝から雨になった。今日は兵庫県議会議員東播磨道促進会議で、藤原昭一議員とともに国への要望を行った。

技監、県土整備部、加東土木事務所長らと新幹線で上京、藤井ひさゆき衆議院議員とともに菅内閣官房長官、高橋国交大臣政務官をはじめ、財務省、国土交通省を訪れ、工事の進捗状況の説明や工事促進のための予算確保の要望を行った。

33年度の完成をめざして用地買収、工事を着実に進めていくためにも予算の確保は不可欠。完成すれば、北播磨と東播磨を南北に結ぶ、医療、産業などの重要な役割を発揮することになる。

## 東条湖おもちゃ王国の休日

2018年03月11日

10日(土)、9時過ぎに加東市下滝野の滝野文化会館へ。今日は加東市スポーツ賞表彰式が行われ、お祝いを申し上げた。

11時、加東市黒谷にある東条湖おもちゃ王国へ。今年で17回

目の「おもちゃ王国の休日」が開催された。この催しは、おもちゃ王国が県下の児童養護施設や母子父子家庭、東日本大震災の避難家族など約800名を招待して一日を楽しんでもらおうというもの。王国の乗り物やビンゴゲーム、特製カレーライスなど、子供や家族、職員らが楽しみとしている行事だ。

今日は天気がよく、明るい春の日の下、おもちゃ王国で一日を楽しんだ。橋本支配人は「この行事が来ると、春ですね」と話していた。おもちゃ王国では、秋に震災チャリティーの「はたらく車大集合」などのイベントも行っており、子育て中の親にとっては楽しみな行事になっている。



## 加東L.Cとボーイスカウトで清掃奉仕 3.11

2018年03月12日



11日（土）。東日本大震災から7年目の今日、朝、市役所周辺を歩いていると、半旗が掲揚されていた。今も7万人余の被災者が避難している状況だ。

今日は恒例の加東L.Cとボーイスカウトの合同清掃奉仕活動が行われた。約80名が3班に分かれて、加東市を南北に貫通する国道175号の側道や歩道を歩いてゴミを拾った。

約90分の作業で、2トントラック一杯ほどの燃えるゴミ、空き缶・ビン類などが集められた。スカウト達も草むらの中のゴミも見逃さず拾って歩いた。拾ったゴミの分だけ加東市が美しくなった。恒例の作業後のカレーライスが実においしく、おかわりも。

## 山田錦の里、東条で農業者セミナー

2018年03月18日



17日（土）午後1時30分、加東市天神のみのりJ A東条支店で開催された東条地域農業者セミナーに出席し祝辞を申し上げた。

このセミナーは、酒米山田錦の特A地区である東条地域

の農業者、山田錦振興会などが自主的主体的に農業生産や技術の向上を目指して行っているもので、今回は全農兵庫県本部の村井喜彦氏による酒米情勢の報告、地元岡本地区の集落営農組織代表の藤井悦雄氏による事例発表が行われたのち、神戸新聞社論説委員の辻本一好氏による「地域をデザインする産業へー農、食、エネルギー、環境、防災、そして酒」と題した記念講演が行われた。

辻本氏は、衰退する地方の再生の視点として、太陽と水を活用した地エネの実例、農業を原料産業から6次産業への実例、そうした中で未利用資源については失礼かも知れないが女性の活躍の実例などを通して、農業、エネルギーなどを「地域をデザインする」産業としてとらえ直していく必要性を示された。

最後に酒米山田錦は神戸ビーフを超える価値をもつ兵庫の宝であり、特産地東条を世界に発信していくことが大事と締めくくられた。

広い視点からの地域再生の核となる農業の可能性をとらえ直す内容だったが、後継者不足、イノシシなどの獣害など現実的な課題が山積するなか、明るい展望を切り拓いていく視点を示していただいたようで有意義なセミナーとなった。

## 神戸で自民県議団一日政調会―岸田政調会長講演

2018年03月19日

18日(日)午後3時から神戸市内のホテルで29年度自民党県議団の一日政調会が行われ出席した。会場には県内から多くの市町長、議会議長や議員、友好団体関係者らが出席し、井戸知事、谷公一自民県連会長、久元神戸市長等が挨拶を述べた。

政調会のゲストは岸田文雄自民党政調会長・衆議院議員で、「日

本の将来展望」と題して、内政、外交などの国の動きと今後の日本政治の課題について講演し、政治の安定が重要であると述べた。国会における森友問題にも触れ、政治の信頼感を取り戻すためにも説明が必要だと述べた。



## 2月議会が閉会 議員定数や議員提出条例など

2018年03月24日

23日（金）、10時30分自民党議員団総会が、11時に本会議が開かれた。

29年度補正予算を可決。続いて、同意人事案が上程され、金澤副知事の再任、高井教育長辞任に伴い西上企画県民部長を教育長に、収用委員に長谷川氏の再任、新たに大西氏の任命を可決。続いて、議員提出の議員定数等の条例改正案、健康福祉常任委員会発議の「障害者等による情報の取得及び利用並びに意思疎通の手段の確保に関する条例」が可決された。議員定数については、人口減少、地域創生の中での地域代表の選出のあり方について、今後も議論を行っていく必要がある。続いて、請願、意見書案が上程され、「青少年のインターネット安全利用対策の強化を求める意見書」など会派発議の意見書8本、「家庭教育支援法の制定を求める意見書提出の件」の請願が賛成多数で可決された。こうして、2月16日に開会した第339回定例県議会は閉会した。

## 産労常任委員会 県議会障害者アート展

2018年04月17日

16日(月)9時30分、3号館1階議会ロビーで「兵庫県議会での障害者アート展」のオープニングが行われた。絵画、書道、写真、工芸その他の分野で40点



の作品が展示されている。そのうち、3人の作者が出席して、黒川議長、高橋副議長らと懇談を行った。登庁している議員や職員も出席し、さっそく作品を鑑賞した。昨年度から始まったこの県議会での障害者アート展。今年も素晴らしい作品が展示されている。ぜひ、多くの県民の皆さんにご鑑賞いただきたい。

10時30分、産業労働常任委員会が開かれた。片山部長から新任幹部職員の紹介や行政組織改正の報告がなされたのち、閉会中の継続調査事件として「新産業の創出と新事業の支援について」調査を行った。新規創業者支援や産業技術の創出、IT産業などについて質疑が行われた。私からは「ひょうごIT関連事業所開設支援事業」や「最先端技術研究事業(CEOプログラム)の評価」について質した。また、委員会として取り組んできた特定研究のまとめについて協議を行った。

## うれしの学園生涯大学入学式－4年制と大学院

2018年04月18日

17日（火）、10時から加東市下久米の県立嬉野台生涯教育センターで「うれしの学園生涯大学」の30年度入学式・開講式が行われた。



4月に就任した有本所長から4年制大学59名、大学院

12名の入学が認められた。在校生と合わせて259名がこれから学びと活動を展開することになった。来賓として祝辞を申し上げ、県議会での障害者アート展や県政150周年の取り組みなども紹介させていただいた。

## 自民党県議団政調会長に就任 新執行部スタート

2018年04月24日



23日（月）、10時30分頃には登庁。机上整理などを行う。午後1時から議員団総会が開かれ、議員団役員の改選が行われた。新幹事長には、森脇保仁議員（宝塚市選挙区）が、そして、新政調会長には私、

藤本百男（加東市選挙区）が選任された。また、副幹事長、副政調会長についても、筆頭はじめ3人ずつ選任され、新執行部体制がスタートした。今期最終年となるこの一年は、県政150周年、

行革最終年、地域創生の推進など県政にとっては大きな転換点にあたる年である。また、来年は統一地方選挙が実施される。決意新たに全力で取り組んでいきたい。

団総会終了後は、机の移動、記者クラブ、知事、副知事、各会派などへの挨拶に回った。そして、旧執行部との引き継ぎ、新執行部会議、事務引き継ぎなど6時前まで会議が続いた。こうして初日はあっという間に過ぎた。やることは山ほどある。千里の道も一歩からだ。

## 兵庫県警緊急自動車訓練センター落成式

2018年04月25日

24日（火）午後2時、小野市山田町に新しく建設された兵庫県警察の緊急用自動車総合訓練センターの落成式に出席した。

5ヘクタールの県有地を活用して造られた広大なセンターを使ってパトカーや白バイなどの訓練が行われる。これまで県警は専用訓練場をもっていなかったために、茨城県の中央訓練場まで車輛を運び訓練を行っていたが、この訓練センターの完成により、より効果的な訓練ができるようになった。用地は小野長寿の郷構想で県が先行取得していたもの。この日は、生憎の雨となり、落成式のあと予定されていた県警音楽隊のドリル演奏や機動パトロール隊によるデモ走行は中止になったが、白バイ隊の訓練の一部が公開された。雨中の走行訓練や隣接するオフロード訓練場で



のバイク運転訓練を見学した。

## ケント・ギルバート氏が講演—地方議員政策セミナーで

2018年04月28日

27日（金）午後3時過ぎに登庁。政務調査会室に寄ったあと、市内のホテルで開催された地方議員政策セミナーに出席した。

記念講演として、ケント・ギルバート氏が「今、日本国憲法を改正するにあたって・・・」の演題で憲法の改正、特に9条の改正の必要性について熱く語った。



改憲は日本のために大事なことで必要な作業。大国として、また、世界平和に貢献するためにも憲法改正を断行すべき、と強調した。法律家らしく、現憲法の成立過程、占領基本法としての性格、WGIPの影響などについて明解な見解を述べられた。国会では法案審議、憲法審査会などの重要な作業を責任をもって進めることが議員の仕事（写真左）。

## 日本会議兵庫北播磨支部総会—高橋史朗氏講演

2018年04月29日

28日（土）、今日は主権回復の日。昭和27年4月28日、サンフランシスコ講和条約が発効し、占領が終わって日本が主権を回復した日である。

朝、忠魂碑、佐保神社、大師殿のコースを歩いた。鮮やかな新

緑と青い空がまぶしい朝だった。

10時には加東市下滝野の加東市滝野文化会館へ。日本会議兵庫北播磨支部総会・講演会の準備を行った。

12時総会開会。

私が支部長として挨拶。続いて、藤井ひさゆき衆議院議員、安田正義加東市長、森脇保仁県議会日本会議議連会長、内藤兵衛県議から来賓挨拶をいただいた。来賓には、地元北播磨選出の藤原昭一（小野市）、大豊康臣（加西市）、村岡真夕子（三木市）の県会議員、加東市、加西市、西脇市の市議会議員さん、末松信介、鴻池祥肇参議院議員の代理の方にご臨席いただいた。その後、総会議事を行い、30年度活動計画が決定した。

講演までの30分間、「憲法フォーラム」の時間を設け、櫻井よし子氏（美しい日本の憲法をつくる会会長）のビデオメッセージを視聴した。

午後1時30分から記念講演会。講師の高橋史朗氏（麗澤大学特任教授・モラロジー研究所教授）は、「日本の教育を取り戻す—歴史戦をいかに戦うか」の演題で約90分間、自らの活動を紹介。アメリカでの南京大虐殺や慰安婦像など中韓が仕掛ける反日活



動、「歴史戦」が引き起こしている混乱や日本いじめの実態の酷さ、ユネスコの世界記憶遺産登録問題への対抗などを体験を通して話された。また、GHQの占領政策、WGIPと憲法の関係に触れながら、戦後教育の根っこにあるこうした日本弱体化政策の根深さを強調された。また、「人口戦」（河合雅司氏）に触れながら、戦後の人口減少、少子化対策についても晩婚化、未婚化対策の必要性を述べられ、日本を取り戻すためには、まず親と子の関係、親自身の生き方、家族の絆、地域の絆を取り戻すことから始めることの大切さを語られた。約120名の参加者の中には、涙ながらに聴く姿も見られた。

## あじさい会で「兵庫県成立史」紹介

2018年05月15日

14日（月）、10時から執行部会議。11時30分には、森脇幹事長と一緒に神戸市内で開かれた自民党議員・OB議員の夫人の会「あじさい会」に出席した。



総会行事に続いて、研修が行われ、「県政の現状と兵庫県150年」の演題で、講演させていただいた。

平成30年度の県政課題と特に兵庫県の成立史について短い時間であったが、資料をもとに話をさせていただいた。なかなかわかりにくいのが兵庫県の成立史。明治元年（正確には慶応4年）、初代県知事に伊藤博文が任命されてから、明治9年に今の県域に

なるまでの数次にわたる県域の変遷を紹介した。

全国で旧国五国から成り立っている県は兵庫県のみであり、なかなか兵庫県をふるさと思う意識が希薄だといわれる由縁もここにある。しかし、150年を契機に兵庫の歴史をふり返り、五国の魅力を交流や体験によって見直すことから、次代を担う若い世代には、兵庫人としてのふるさと意識を持ってもらいたいと思う。県民との連携事業の眼目もそこにあると思っている。

## 警察常任委員会

2018年06月20日

19日（火）、6月議会後初めての警察常任委員会が開かれた。今期4年目は警察常任委員会の委員としての活動が始まった。正副委員長あいさつ、委員紹介、公安委員長あいさつと県警幹部紹介に続いて、平成30年度事務概要の説明が行われた。引き続き、閉会中の継続調査事件として、「快適な交通環境づくりの推進について」を調査した。交通死亡事故の状況、交通規制の実施、交通安全施設等の整備状況、交通安全対策の推進などの説明を受けた後、質疑が行われ、私からは、信号機の設置状況、貨物集配中の車両の駐車規制の見直しなどについて質した。今年度設置予定の信号は12基。要望は年間約500を超えるが、諸条件を満たし、設置の必要があると判断されるものは約70件、優先的に整備に取り組んでいるとのことだった。

## 自民党政調理事会が防災勉強会－河田恵昭氏が講演

2018年06月21日

20日（水）9時過ぎに県庁着。10時から自民党政調理事会

の防災勉強会が開かれた。講師は河田恵昭先生（関西大学社会安全研究センター長・特命教授、人と防災未来センター長）で、7月初旬に実施する政調理事会管外調査の事前学習として計画されていたが、直前に大阪北部地震が起き、先生のご都合を心配したが、先生には多忙なスケジュールにも拘わらず予定通り講演していただくことができた。



先生は南海トラフ巨大地震や首都直下地震の影響は計り知れず、現在の災害に対する法では対応が不可能で、起きる前に減災、縮災を行っておく必要があると強調された。



災害によって国がダウンしていく、潰れるという事態が起こるということを国も自治体も、国民自身ももっと認識していく必要がある、他人事ではなく、我が事として対応を考えておかねばならないと指摘され、災害が起きても3日間は自前で生きる、身の回りの危険なものを見逃さず、安全安心はみんなが気をつけることが大事だと述べられた。

兵庫県は阪神淡路大震災の経験をもとに防災対策に先進的に取り組んできているが、地震はいつ起きるかわからない。自治体、地区のレベルで防災対策、計画にしっかり取り組んでいくことが大事だ。そうした中で、地方議会、議員の役目がより重要になっ

ている。今回の研修を調査、活動に活かしていきたい。

## 地区の安全を守る

2018年06月25日

24日（日）午後、事務所に区長さんが相談に来られた。地区のハザードマップを手に自身の体験などを交えながら将来にわたる地区の安全確保についての相談だった。今は道路になってわからなくなっているが、地区の中を流れていた河川が存在、地区の上に位置する谷筋にあるため池など、災害のもとを地域の人は歴史ととしてよくご存知だ。

手元に「伝えよう先人達の努力と勇気」水害カルタがある。岩手県一関市の北上川学習交流館「あいぽーと」を訪れた折りに入手したもののだが、昭和22年、23年と2年続きで台風（カスリン・アイオン）の襲来で甚大な洪水被害に見舞われた経験をもとに作られたカルタで、「百年に一度の洪水（みず）が二年続き」の札がある（写真）。北播磨ビジョン委員会でも「防災日めくりカレンダー」が作られ、学校などで活用されている。5日の日めくりには「ハザードマップ広げてみんなでシミュレーション」と書かれている（写真）。今日の区長さんが持って来られたのも地区のハザードマップだった。危険や避難先を知っておくと同時に、そのハザードマップに潜んでいる地区の災害の歴史もよく知っておくことが大事だ。



## 東条東小4年生が議場見学

2018年06月27日

26日(火) 11時登庁。午後1時、加東市立東条東小学校の4年生54名が県庁見学の一環として議場見学を行い、挨拶や議会の活動などを紹介した。みんな元気で「何時間ぐらい会議をするんですか？」などの質問もあった。



## 「いのちをつなぐ」講演会—宮田修氏

2018年07月01日



30日(土) 午後2時に神戸市垂水区の垂水レバンテホールで行われた兵庫いのちを大切にする会(円ブリオ神戸)主催の「いのちをつなぐ」講演会に出席した。

同会の活動紹介、マヤ産院の永原郁子氏の話があったあと、元NHKアナウンサー、現在千葉県熊野神社宮司の宮田修氏が「いのちをつなぐ—今を生きるヒント—」と題して講演を行った。

永原さんは、神戸市内に赤ちゃんポストならぬ、「小さいいのちのドア」を開設するに至った経緯や外国の事例を紹介し、小さな命を守ることの大切さを話した。

宮田氏は、神職として務めながら、生命尊重センター代表として講演活動を行っており、神主としての自身の体験を交えながら、日本人は子孫の繁栄を最高の価値とす伝統的な考え方があるとし、命の連続性を大切にと語った。しかし、現在、日本では、中絶によって失われる命は、届出のあったものだけでも、1日に約500、年間17万6千、戦後の総数は約7600万に及び、届出のないものまで含めるとこの2倍にもなる実態があり、これを変えていかなければならないと強く訴えた。

## 特別警報下の加東市内

2018年07月08日

7日(土)、昨夜は午前2時頃まで議員と連絡を取り合っていた。七夕の朝は大雨が降り続いていた。

早速、かとうケーブルテレビで加古川の増水状況や災害対策本部からの情報を確認し車を走らせた。北播磨県民局で、加東土木事務所で情報確認。職員の皆さんが配置についていた。濱西県民局長と情報交換を行った。

まず、加古川の加東市域の上流部、鬮龍橋の東詰、多井田地区の西山畳店へ。いつもこの畳店の階下の作業場、材



料置場から浸水する。周辺の田は既に水没し、波が押し寄せている。



次に対岸の上滝野の闘龍スクエアへ。怒濤となって荒れ狂う加古川の流れに恐怖さえ感じる。滝寺荘の玄関のすぐ

下まで水位は上がっていた。下流部の座の浜は完全水没状態だった。天理教の教会では玄関下まで水が上がっていた。高台にある上滝野地区公民館には避難した住民の皆さんが休んで居られた。区長さんから情報を得る。

次に下滝野へ。公民館には同様に避難された方が居られた。ここでも区長さんはじめ役員さん等と情報交換。激しい降雨。神結酒造の辺り、油谷川と加古川の合流点へ向かうもすでに道路は冠水しており通行止め。田圃、生コン会社、そして内橋モーターさんも浸水状態で近寄れなかった。

さらに下流の河高地区交流会館へ。ここには約100名の住民が避難しておられた。区長さんから避難状況などについて情報を聞く。同地区の下流部の安取地区では、内水をポンプで排水中だった。排水機場の工事が行われているが、完成は来年の春の予定。

加東大橋を左岸へ渡り、上田地区公民館へ。消防団、地区役員さんが詰めておられた。避難の皆さんは富士通の体育館へ避難されたとのことだった。さらに大門地区へ向かうと、大門橋は通行止めとなっていた。

このあと、牧野地区のため池へ。ゴルフ場の中にある住吉池や水路の状況も確認した。奥ノカチ池は満水状態。さらに地区内の

水路を確認しながら、牧野川下流部の通称多井田池まで水の流れを辿った。数十年に一度の大雨の状況下、水の状態を確認でき参考になった。

ここから上久米地区へ。県道西脇三田線を走り、上久米の東端辺りにさしかかると、左手の田圃3枚が冠水している光景が突然視界に入った。さらに背後の桃園の一角が崩れて道路脇の民家の裏側まで土砂が流れており、川をせき止める形になっていた。このため水が勢いよく田圃へ流れ出たものだった。消防団員と一緒に家屋に流れが入り込まないように土嚢を積み上げる作業を行った。援軍の消防団も到着し手際よく土嚢積みが行われた。家人の話では、竹の生えた斜面がバリバリという音とともに3回にわたって崩れ、怖かったということだった。地区役員さんから朝からの状況を聞くことができた。

作業も一段落し、雨も小康状態となり一旦帰宅。3時過ぎ、今度は東条地区へ。避難者が入る東条東小学校から下流へと車を走らせた。小野市との境の松沢地区では、地区の方からピーク時に道路が冠水していたことも教えていただいた。

夕方、避難指示が出ていた下久米地区の避難場所の米田小が校体育館へ。避難された方から裏山に亀裂が、という話を聞かせてもらった。18世帯が避難し、校長先生はじめ教員、市役所職員の皆さんが避難者への対応をしておられた。高齢者の体調を聞くなど丁寧な対応ぶりだった。

6時前、薄暗くなり、激しい雷雨になった。とにかくこれだけ雨が降り続いたので経験しない事態が起きていた。テレビ、ケーブルテレビ、防災放送など細かい情報を得ることもできたことが行動の判断材料にもなったと思う。河高地区で出会ったある方は、

上流の板波観測点の水位が何メートルになれば避難することに決めている、と話されていた。指示を待つのではなく、まず、自主判断基準を決めておき、迷うことなく避難行動をとることは大事なことだと改めて気づかされた。自身の危機管理。自助、共助、公助とその間に「近助（所）」を入れて自らの命をしっかりと守ることが大事だ。

夕方6時過ぎ、市内の避難勧告、避難指示は解除された。また、兵庫県に発令されていた特別警戒も解除された。しかし、安心はできない。積算雨量はものすごく、今後も警戒をしなければならない。

## 自民党県議団政調理事会管外調査

2018年07月09日

先週4日（水）から6日（金）にわたり、自民党県議団の政調理事会の管外調査を行った。福島県、宮城県で東日本大震災の復興の状況、防災・減災の取り組み等を調査した。行程は以下の通り。

- ・ 4日（水）①仙台空港（株）：宮城県名取市、②（有）まるせい果樹園：福島県福島市
- ・ 5日（木）③浪江町被災地役場・現地調査（福島県双葉郡浪江町）、④自衛隊東北方面総監部・仙台駐屯地（宮城県仙台市）
- ・ 6日（金）⑤石巻市被災地現地調査（石巻市雄勝町）、⑥宮城県議会（仙台市）

台風とともに東北へ向かうのかと天候を心配していたが、日本海で温帯低気圧になり、3日間ほとんど雨にも降られず順調に調査を行うことができた。一方で、西日本に梅雨前線が停滞し、大

雨が降り続けている状況だった。移動中に状況を確認したり、幹事長室（留守の大豊議員）と連絡を取り合いながらの調査だった。



仙台空港の被災と素早い復旧、民営化の状況と今後の展望。まるせい農園の佐藤社長夫妻の震災、風評被害と戦いながら、GAP認証の取得と販路拡大を求めている取り組み。まだ帰還困難区域を残し、多くの町民が県内外で暮らしている浪江町の復興まちづくりの状況。自衛隊仙台駐屯地では、平時からの自治体との連携、とりわけ防災監に自衛隊OBの活用や合同訓練などの取



り組みがいざという時の力になること。津波防災の集落高台移転や防波堤などのハード整備と住民のこころの絆づくりの実際を石巻市雄勝町で確かめた。多くの児童と教員が犠牲になった大川小では冥福を祈った。そして、宮城県議会では、大震災からの復興状況、人口減少、少子高齢化が進む中今後の課題を考えることができた。

大阪北部地震が起きたばかりで、大都市地震の課題、南海トラフ巨大地震に対する備えという課題をより強く意識しながら、被災地での調査を行うことができた。事前に河田恵昭氏の講演を含めて、今後の活動に活かしていきたい。

## 兵庫県政150周年記念式典盛大に

2018年07月13日



12日(木)10時30分から県庁で第1回地方議会協議会が行われた。市議会議長会、町議会議長会、県議会の代表と県議会各会派政調会長が出席し、抱える課題について

問題提起、質疑を行った。インバウンド、高齢者の活用、若者の流出など課題や提案が交わされ、8月に第2回協議会を行うことになった。

13時30分、神戸国際会館こくさいホールで「県政150周年記念式典」が行われ出席した。新設された県警女性儀仗隊員が国旗と県旗をもって入場。国歌斉唱、黙祷、知事式辞、来賓挨拶が続いた。このあと、井戸知事が「兵庫2030年の展望」を説明し、すこやか兵庫の実現をめざすと語った。その兵庫の未来を創る小学生の作文、高校生の活動実践発表、中学生の合唱が発表された。三木の祭りを未来に伝えたい語った作文、加西でこども狂言の根日女に取り組んでいる作文、ホテルを姫路城にと活動する姫路工高のグループなど未来に兵庫に夢を感じる発表だった。まさに「きみが輝く兵庫」－You県兵庫ーだ。

休憩ののち、佐渡裕氏の指揮で兵庫県芸術文化センター管弦楽団の演奏、兵庫県立大学理事長の五百旗頭真氏の記念講演が行われた。閉幕したのは午後5時を回っていた。150年前の兵庫県のはじまりに思いを馳せながら、未来に明るい夢を実現していく兵庫県へとしていくためにもこの節目の年の活動にしっかり取り

組んでいかなければと思った。

## 行革特別委員会

2018年07月14日

13日（金）10時前に登庁。10時30分から行財政改革特別委員会が開かれた。今日は井戸知事、金澤、荒木両副知事が出席し、11年間にわたる行革の検証結果が報告された。目標はほぼ達成したが、震災関連県債約3600億円、行革中に発行した財源対策債が約3700億円あり、今後も厳しい財政運営が続く。検証結果と今後の取り組みの方向性が示され、次回の7月24日の委員会で質疑が行われる予定。

## 日本会議兵庫総会・阿比留瑠比氏講演

2018年07月17日

16日（日）午後12時過ぎには姫路市内のホテルへ。日本会議兵庫の第19回総会と記念講演会が行われた。総会には谷公一自民党県連会長・衆議院議員はじめ、国会、県会、市町議会議員らが来賓として出席した。特に兵庫県議会からは森脇保仁日本会議議連会長はじめ多くの議員が出席した。総会では、憲法改正に向けた取り組みなどが協議された。



総会に続いて記念講演会が行われた。講師は産経新聞編集委員の阿比留瑠比氏で、「改憲で自衛隊に感謝を！」の演題で講演した。

阿比留氏は「自衛隊を憲法に明記することで感謝の気持ちを表したい」と述べ、憲法改正は国民の権利であり一歩でも前に進めることが必要と、これに反対し憲法審査に応じない野党を批判した。また、安倍首相以外にこの憲法改正を実行できるリーダーはないとし、自民党の奮起を訴える場面もあった。満席の会場からは、阿比留氏の野党、マスコミなどへの鋭い批判に拍手が起こった。



## 警察常任委員会で阪神地区警察署等を調査

2018年07月21日

19、20日の2日にわたり、警察常任委員会の管内調査で阪神地区の14の警察署、施設などを調査した。

神戸水上署では、生田署、葺合署の調査を行い、その後警察船舶の視察を行った。また、ポートアイランドでは環状交差点ラウンドアバウトの視察を行った。20日、西宮市の甲子園浜で管区機動隊訓練を視察した。炎天下、



重装備での基本動作の訓練や緊急援助隊の機具を使った訓練では、隊員の治安維持と人命救助の使命遂行の高い士気が伝わってきた。芦屋市にある県警察学校でも猛暑にめげず勉強、訓練に励む学生の姿があった。

各警察署では、署状概況、課題と今後の取り組みについて説明を受け、質疑を行った。自転車事故、特殊詐欺、人身安全関連（ストーカーやDV、虐待等）などについて各署の取り組みの状況を調査することができた。



## 自民県連大会 かとう歴史発見教室

2018年07月22日



21日（土）、9時過ぎにやしろショッピングパークBioの2階の多目的ホールへ。「まちの拠点づくりコンソーシアム」が主催する「かとうの歴史発見！」の取り組みで、その導入となる「歴史博士から話を聞こう！」の講師をつとめた。7人の小学生が参加し、これから調べる加東市の歴史の謎ポイントについて紹介した。子供達は調べた結果を「ZINE」にまとめる予定で、仕上がりが楽しみだ。

午後、兵庫県看護協会のホール（神戸市中央区）で行われた自民党県連大会に出席した。県下各支部から約200名の代議員が出席し、来年の統一地方選挙、参議院議員選挙への勝利などを盛り込んだ活動方針、役員体制などを決定した。今期で勇退する鴻

池参議院議員も出席し、公認が決定した加田県議が決意表明を行った。大会では優秀党員表彰も行われ、2名が表彰を受けた。

## 炎天下消防操法県大会 加東市社分団ポンプ車7位

2018年07月23日

22日(日)8時40分頃、県防災センターグラウンド(三木市)へ。第27回兵庫県消防操法大会が行われ、開会前に北播磨代表としてポンプ車の部に出場する加東市社分団の選手に激励の言葉を贈った。

9時30分、開会式が行われ、井戸知事、小西県議会副議長らが挨拶を行った。来賓席には出場分団の地元議員

はもちろん、多くの県会議員が応援に駆けつけた。午前には「小型ポンプの部」が行われ、各地区大会を勝ち抜いてきた精鋭10隊が出場した。午後は「ポンプ車」の部に同じく8隊が出場し、練習の成果を

存分に発揮して技術、速さ、正確さなどを競った。時折り心地よい風が吹いたが、猛暑の下、地面の照り返しも強く、ペットボトルのお茶もすぐに熱くなってしまふほどだった。

社分団はポンプ車の部の2番手に登場し、きびきびとした動作、素早い正確な操作などを披露し、来賓席の同僚議員からも素晴ら



しいとお褒めの言葉をいただいた。全国大会でも優勝、準優勝といった常連のひしめく兵庫県大会の中で、ひけをとらない堂々たる操法を披露し、北播磨代表の面目を示した社分団の選手に拍手を贈りたい。

結果は、小型ポンプの部1位福崎町、2位宍粟市、3位尼崎市。ポンプ車の部1位南あわじ市、2位姫路市網干、3位丹波市。加東市社分団は7位だった。

## 行革特別委で質疑

2018年07月25日

24日（火）午後1時30分から行財政構造改革特別委員会が開かれた。今日は、前回説明のあった検証結果に対する質疑が行われ、各委員が会派等の持ち時間を使って質問をした。11年間の行革の評価をめぐり、さまざまな観点からの質問が出されたが、私からは、定員、組織について質問した。定員削減率や組織再編は全国でも一番となるほどだが、一方でさまざまな問題も指摘されている。ポスト行革に於ける職員の配置や採用の工夫、人材育成や士気高揚のための環境づくりなどが必要と指摘した。

## 兵庫県議会ワシントン州友好55周年で訪問

2018年07月31日

25日（水）から30日（月）、兵庫県議会ワシントン州友好訪問団の一員として11名の議員とともに訪米し、55周年記念式典へに出席したほか、政務調査として、航空産業や医療制度、災害対策など、シアトル市、オリンピック市、ポートランド市の施設を訪問し、関係者と意見交換を行った。



主な日程と訪問、調査先は次の通り。

25日(水)：ボーイング社、アマゾン社(シアトル市)

26日(木)：兵庫県ワシントン州事務所、救命救急センター・ハーバービュー医療

センター、宇和島屋(シアトル市)

27日(金)：キャンプマレー(災害対策センター)、兵庫県ワシントン州友好55周年式典(州旗県旗掲揚式、共同声明調印式、ワシントン州議会議員との意見交換会等)

28日(土)：ファーマーズマーケット(ポートランド州立大学キャンパス)、ポートランド日本庭園、SAKEONE(白鶴酒造の米国酒蔵)、ポートランド兵庫県人会との懇親



25日(水)の朝、伊丹空港を出発し、成田経由で米国シアトルのタコマ空港に到着。帰りは、29日(日)の昼、ポートランド国際空港を出発し、成田経由で夜に伊丹空港に無事到着した。日付変更線の関係で、帰国は30日(月)の夜になった。

今回の訪問では、友好55年式典で、オリンピア市と姉妹都市の加東市の訪



問団（中、高生12名）と一緒に式典やレセプションに出席することができ、鯉のぼりの歌を合唱して友好を深めることができた。また、副議長時代に来神されたワシントン州の元上院議員のカレン・フレーザーさん（友好実行委員長）と再会できたのも嬉しいことだった。

この訪問中に台風12号が逆送して兵庫県を東から西に通過したことも現地で情報をとりながら把握していたが、豪雨、酷暑、そして台風が続く日本のことを県人会の人が心配し、義援金の募集をしていただいていることに同胞として胸が熱くなった。

## 自民党政調会



2018年08月07日、08月08日

6日（月）、今日は自民党政調会の1日目。9時過ぎに登庁し、9時30分執行部会。10時から、企画県民部を皮切りに政調会が始まった。午前は健康福祉部の2部。昼の休憩時に自民県議団総務会が

行われた。午後は12時55分から農政環境部、県土整備部、企業庁、病院局の政調会が続いた。30年度の重点施策について、説明、意見交換を行った。終了後の午後4時45分、自衛隊兵庫県地方協力本部長に着任された生田日本部長の訪問を防衛議員連盟の議員で迎えた。

夕日が西の地平線に沈もうとする頃、加東に戻り、田圃の水を見に行く。日中の猛暑もほんの少し和らぎ、風が吹いてきた。何

か、ほっとする一時だった。

## 政調会 2 日目

7日(火)9時前には登庁。自民党議員団内の議会改革調査検討委員会が行われ出席した。9時30分、自民党議員団総会。

10時から昨日に続いて政務調査会が始まった。2日目の午前は企画県民、産業労働。午後は農政環境、県土整備、警察、教育委員会から各50分ずつ、重点施策の進捗状況などを聞き、質疑を行った。昼の休憩時には福祉部長からユニバーサル社会づくり総合指針の改定案の説明も行われた。

政調会終了後、自民党議員団内の行財政構造改革調査特別委員会関係の打合せが行われた。2日間、計10時間にわたる政調会が終わった。加東事務所に戻ったのは午後7時30分を回っていた。

## 警察常任委の但丹地区調査－委員会の地域開催も

2018年08月11日

8日(水)～10日(金)の2泊3日、警察常任委員会の但馬丹波地区管内調査が行われた。また、10日には、篠山市で常任委員会の地域開催も行われ、約40名の県民が傍聴した。調査先は次の通り。



8日：警察本部（サイバー防犯教室）－神戸北警察署（有馬警察署）－豊岡北警察署気比駐在所－豊岡南警察署（豊岡北警察署・

美方警察署)

9日：但馬運転免許センター（養父市）－養父警察署（朝来警察署）－朝来警察署（ドローン訓練）－村岡警部派出所

10日：篠山警察署（三田警察署・丹波警察署）－篠山留置施設－常任委員会地域開催（篠山市民センター）

本部では、「サイバー本田」の防犯教室の実演を聴講。すでに47万人の県民がサイバー教室を受けている。その絶妙の話しぶりに引き込まれた。また、気比駐在所では「マジシャン駐在」として人気の警察官の実演も。但馬運転免許センターでは運転シュミレーションも体験。ドローン訓練は生憎の雨で、署内での説明になったが、それでも性能の高



さに驚いた。篠山市での常任委員会は、昨年からはまった地域開催の一環で、議会活動を身近に感じてもらおうというもの。今回は閉会中の継続調査事件として「県民の理解と協力の確保について」を調査した。説明の後、質疑が行われ、委員全員が質問。時間が足りないぐらいだった。私からは、ケーブルテレビを活用した広報について質した。

各警察署の調査では、高齢者対策、特に特殊詐欺や交通事故防止などに重点的に取り組んでいることがよく分かった。

## 政調懇話会－兵庫県の広報戦略

2018年08月28日



27日（月）、9時に登庁。9時30分に来客。10時から執行部会議。10時30分から議会運営委員会の議会改革検証委員会が行われ、各観点に対する各会派の意見が開陳された。

午後1時30分から議会運営委員会が開かれ、9月議会の日程、上程予定議案などを協議。2時、関西広域連合連携協議会に出席。

2時30分から7階大会議室で議長が主催する全議員対象の政調懇話会（第48回）が開催された。

今日の講師は、兵庫県広報官の湯川カナ氏（一般社団法人リベルタ学舎代表理事）で、「地域の魅力を伝える広報のあり方～参画と協働で未来を切り拓く～」と題して約1時間30分の講演を行った。湯川氏は、今年度から県広報官に就任し、週2日、県の広報全般について見直しや体制づくりを行っている。氏は、広報の本質、広報戦略といったものの考え方から、兵庫県の広報戦略について、具体的な事例も交えながら、あり方を話された。これまでの「行政」の広報のあり方に新しい風が吹き込まれ始めていることを感じる内容だった。また、「県民に身近に感じて貰える県議会」を考える上でも大いに参考になる内容だった。

4時から自民党議員団総会。議運の報告をはじめ、9月議会の代表・一般質問者、決算委員の選出などを協議。終了後、議員団内のポスト行革に関する打合せを行った。

退庁したのは午後6時前だった。帰りに加東市内の知人宅に寄ったが、南の空には惑星が孤を描いて光っていた。帰宅すると、東の空に赤い月が出始めていた。9月議会1ヶ月前の多忙な一日だった。

## 北播磨地域づくり懇談会 行革特別委員会

2018年08月30日

29日(水)、10時から兵庫県社総合庁舎で井戸知事を迎え北播磨5市1町の首長、議長、県会議員が出席して地域づくり懇談会が行われた(写真左)。地域資源を活かした地域の活性化がテーマで、各市町の取り組みや県への要望などが出され、知事がコメントした。加東市からは山田錦振興、小中一貫校支援などが出された。私からは東条川疏水ネットワーク博物館の拠点づくりなどについて意見を述べた。

午後1時頃には登庁。1時30分から行財政構造改革特別委員会が行われた。今日は前回説明のあったポスト行革案についての質疑が行われ、私からは組織、人員配置、人材育成などについて質した。午後4時30分、委員会が終了し、来客。続いて次回委



員会に向けての自民党議員団内の打合せを行った。

加東に戻り、7時からやしろショッピングセンターB i oの多目的室で行われた国際交流協会のオリンピア市訪問団の報告会に出席した。交換留学生の報告は、文化の違いやホストファミリーとの交流など、貴重な体験から学んだことをまとめたものだった。私も州議会議事堂での記念式典でのことなどを紹介した（写真右）。

## 藤本百男の平成29年6月～30年8月 活動記録

月 日	曜	活 動 内 容
平成29年		
6月1日	木	第336回定例県議会開会 文化振興議員連盟役員会 「議員任期特例法の適用」を議決
6月2日	金	海上自衛隊阪神基地隊特別公開 兵庫県建築事務所協会50周年 式典
6月3日	土	日本スポーツマスターズ100日前イベント 井戸知事県政報告 会(小野市) 日本会議兵庫女性の会教育講演会(神戸市)
6月4日	日	東播磨南北道路起工式(加古川市)
6月5日	月	各会派代表者会議 自民党加東市支部幹事会
6月6日	火	本会議(代表質問) 議会運営委員会 自民議員団総会
6月7日	水	本会議(一般質問) 議会運営委員会 MOA議連総会
6月8日	木	加東市事務所
6月9日	金	本会議(閉会) 副議長退任 議員定数等調査特別委員会
6月10日	土	日本会議兵庫北播磨支部役員会 加東事務所
6月11日	日	第11回加東市消防操法大会
6月12日	月	正副議長引継ぎ 議会事務局への退任挨拶
6月13日	火	加東市経済懇話会総会 井戸知事を励ます福祉のつどい(神戸市)
6月14日	水	加東事務所
6月15日	木	兵庫県知事選挙告示 加東農林振興、加古川流域土地改良事務所 来所
6月16日	金	県庁 美しい日本の憲法をつくる県民の会役員会(神戸市)
6月17日	土	ジュニア軟式野球大会北播予選 内藤兵衛政経セミナー 加東市まとい会総会・消友会懇親会
6月18日	日	加東市更正保護女性会60周年記念大会 ソフトボール大学男子 選手権
6月19日	月	産業労働常任委員会 東条東小県庁見学
6月20日	火	加東L.C最終例会
6月21日	水	井戸敏三候補個人演説会(やしる国際学習塾)
6月22日	木	新生兵庫をつくる会確認車街宣 つくる会大政談会(神戸)
6月23日	金	加東防犯協会総会
6月24日	土	みのりJA総代会 加東警察署友の会総会
6月25日	日	福田地区敬老会 仲田一彦候補出陣式 商工会青年部大会
6月26日	月	加東事務所
6月27日	火	加東L.C委員会 加東事務所

6月28日	水	井戸敏三候補街頭演説（加東市内） 加東市ゴルフ場協会役員会
6月29日	木	井戸・仲田合同演説会（三木市） 日本会議県本部役員会
6月30日	金	北播政経懇話会例会（加東市）
7月1日	土	井戸知事街頭演説
7月2日	日	加東市子連協オセロ大会 加東混声合唱団定期演奏会
7月3日	月	自民政調理事会と県当局の意見交換会（農政環境部）
7月4日	火	加東L.C例会 ※台風3号近畿通過
7月5日	水	県議会精神保健研究会現地交流会（養父市）
7月6日	木	日本会議兵庫北播磨支部役員会
7月7日	金	県庁政務調査 自民党県連選対委員会
7月8日	土	加東市長杯少年野球大会 加東市人権啓発講演会
7月9日	日	兵庫県ソフトボール協会常任理事会 クリーンキャンペーン
7月10日	月	加古川改修期成同盟会総会
7月11日	火	県議会自民党県議団政調理事会管外調査①
7月12日	水	県議会自民党県議団政調理事会管外調査②
7月13日	木	県議会自民党県議団政調理事会管外調査③
7月14日	金	<b>産業労働常任委員会</b>
7月15日	土	平池まつり
7月16日	日	
7月17日	月	日本会議兵庫県本部総会・竹田恒泰氏記念講演会
7月18日	火	<b>議員定数等調査特別委員会</b>
7月19日	水	
7月20日	木	
7月21日	金	青峰会納涼例会
7月22日	土	加東事務所 正覚坊・東古瀬こども園じぞうまつり
7月23日	日	日本政策センター研修会（京都）
7月24日	月	県私立学校審議会
7月25日	火	加東事務所 北播磨県民局副局長来所
7月26日	水	ポーランド大使歓迎昼食会（神戸市）
7月27日	木	北播政経懇話会 自民党加東市支部・後援会合同例会
7月28日	金	加東市福田地区地域づくり協議会県庁見学
7月29日	土	自民党兵庫県連大会
7月30日	日	
7月31日	月	加東事務所
8月1日	火	忠魂碑清掃作業
8月2日	水	<b>産業労働常任委員会管内調査・委員会（西播地区・姫路）</b>
8月3日	木	<b>産業労働常任委員会管内調査（〃）</b>

Ⅱ 平成29・30年度の議員活動記録

8月4日	金	加東事務所
8月5日	土	わかあゆ園夏まつり 市内各所盆踊り
8月6日	日	朝起会 加東市子連協ドッジボール大会
8月7日	月	自民党県議団政調会①
8月8日	火	自民党県議団政調会②
8月9日	水	青野原駐屯地盆踊り大会
8月10日	木	日本人権教育研究学会（姫路大学）
8月11日	金	
8月12日	土	ソフトボール教室（親和女子大学） 社地区区長会
8月13日	日	加東事務所 市内各所盆踊り
8月14日	月	加東事務所 市内各所盆踊り
8月15日	火	加東事務所 市内各所盆踊り
8月16日	水	議員定数等調査特別委員会 市内各所盆踊り
8月17日	木	加東事務所
8月18日	金	加東事務所 山国地区盆踊り
8月19日	土	加東市青少年健全育成講演会（社公民館） 国体ソフトボール近畿B予選大会（明石・加古郡）
8月20日	日	
8月21日	月	防災講演会（自民）、自民議員団総会、政調理事会
8月22日	火	県議会障害福祉研究会現地調査 県児童合唱祭加東大会 加東L.C例会
8月23日	水	自民党県議団農政環境部会管外調査（佐賀県・長崎県）
8月24日	木	自民党県議団農政環境部会管外調査（佐賀県・長崎県）
8月25日	金	加東土木事務所長来所 加東事務所
8月26日	土	陸上自衛隊富士火力総合演習（静岡県）
8月27日	日	陸上自衛隊富士火力総合演習（静岡県）
8月28日	月	加東事務所
8月29日	火	社高校交通安全教室 後援会役員会
8月30日	水	産業労働常任委員会管内調査（東播淡路地区）
8月31日	木	産業労働常任委員会管内調査（東播淡路地区）
9月1日	金	天神八朔まつり 加東事務所
9月2日	土	加東市「美術家協会展 加東事務所
9月3日	日	兵庫県スポーツ少年団剣道交歓大会 上福田地区敬老会 本岡賢二氏黄綬褒章受章記念祝賀会
9月4日	月	県庁 自民議員団議員定数等調査検討委員会
9月5日	火	産業労働常任委員会管内調査（阪神地区）①
9月6日	水	産業労働常任委員会管内調査（阪神地区）②

9月7日	木	健康福祉常任委員会管内調査（北播磨県民局）出席 北播経懇話会例会（井戸知事講話）
9月8日	金	加東事務所 佐保神社秋祭り実行委員会
9月9日	土	加東事務所 《桐生選手9秒9》
9月10日	日	第11回全日本空手道ジュニア新人育成選手権大会（加東市） 日本会議東播磨支部講演会（加古川市）
9月11日	月	加東市老連滝野支部グラウンド・ゴルフ大会 交通安全県民大会 （公館）
9月12日	火	<b>井戸知事への重要政策提言</b> 兵庫教育大学
9月13日	水	県立社高校体育大会 加東事務所
9月14日	木	第21回日韓スポーツ交流・成人交歓交流レセプション
9月15日	金	<b>産業労働常任委員会 議員定数等調査特別委員会</b> 美しい日本の憲法をつくる兵庫県民の会総会・講演会
9月16日	土	日本マスターズ2017兵庫ソフトボール競技大会（淡路）
9月17日	日	台風18号接近・深夜早朝兵庫県通過
9月18日	月	市内巡回調査
9月19日	火	加東警察署長着任挨拶来所 登庁政務調査 韓国選手団歓送会
9月20日	水	自民党各種友好団体との意見交換① 日本会議北播磨例会
9月21日	木	自民党各種友好団体との意見交換②
9月22日	金	<b>第337回定例県議会開会</b> （知事提案説明等） 議員団総会 兵庫県水産振興議員連盟とJF兵庫漁連との懇談会
9月23日	土	加東市立小学校運動会 砕氷艦しらせ歓迎レセプション
9月24日	日	山田錦乾杯まつり 山田錦の里探訪ウォーク
9月25日	月	加東事務所、県庁政務調査
9月26日	火	加東事務所政務調査
9月27日	水	<b>本会議</b> （代表質問）文化振興議連役員と文化団体との意見交換会
9月28日	木	<b>本会議</b> （一般質問）
9月29日	金	<b>本会議</b> （一般質問）に <b>登壇</b> 自民県議団農政環境部会政策委員会
9月30日	土	県立西神戸特別支援学校開校式 末廣流いけばな展
10月1日	日	加東市ふれあい球技大会 全国酒まつり in 姫路市
10月2日	月	<b>本会議</b> （一般質問）
10月3日	火	<b>産業労働常任委員会</b> 看護を支援する議員の会 新生ひょうご懇 親会
10月4日	水	北播磨農業改良普及事業推進懇談会（加西農業改良普及所）
10月5日	木	本会議 自民党議員団議員定数等検討委員会打合せ
10月6日	金	加東事務所 佐保神社秋祭上組宵々宮（上組倉前）
10月7日	土	佐保神社秋祭宵宮 第45回宵宮芸能大会
10月8日	日	佐保神社秋祭本宮

II 平成29・30年度の議員活動記録

10月9日	月	自民党加東市支部役員会
10月10日	火	衆院選公示 藤井ひさゆき候補出陣式
10月11日	水	加東事務所
10月12日	木	藤井ひさゆき個人演説会（加東市上滝野）
10月13日	金	県庁政務調査
10月14日	土	社地域長寿を祝う会 東条こども園運動会 兵教大附幼運動会 はたらくくるま大集合！ やしろ歴史研修会
10月15日	日	家庭バレーボール連盟選手権大会 北野地区敬老会 黒川治県議会議長就任祝賀会
10月16日	月	佐保神社明神講 藤井ひさゆき候補街宣・個人演説会（新定）
10月17日	火	加東事務所
10月18日	水	地域安全兵庫県民大会（県公館）
10月19日	木	加東事務所
10月20日	金	加東事務所
10月21日	土	上滝野敬老会 ふれあいパラリンピック わかあゆ園運動会
10月22日	日	台風21号接近 衆院選投票開票 藤井ひさゆき事務所
10月23日	月	台風21号被害調査
10月24日	火	東条西小教育発表会 兵庫県野球協会（尼崎市）
10月25日	水	本会議閉会 政調理事会 総務部会 志士の会
10月26日	木	産業労働常任委員会 議員定数等調査特別委員会
10月27日	金	北播政経懇話会例会（小野市） 上組保存会帳破り
10月28日	土	加東市秋のフェスティバル
10月29日	日	北播磨「食」と「農」を楽しむ会（県立フラワーセンター）
10月30日	月	加東事務所
10月31日	火	東条コスモス杯ゲートボール大会
11月1日	水	加東事務所
11月2日	木	加東市立福田小学校教育研究発表会 佐保神社秋祭実行委員会
11月3日	金	県立北はりま特別支援学校学習発表会 下滝野地区敬老会 米田地区長寿を祝う会 播州清水寺根本中堂御開帳法要
11月4日	土	加東市文化連盟祭 自民党兵庫県連政経文化パーティー
11月5日	日	加東市ふれあい球技大会 加東文化連盟祭舞台発表 ひょうご森のまつり（多可町） ばかぢからin加東（おもちゃ王国）
11月6日	月	自民党議員団総会 ふじもと百男ゴルフコンペ
11月7日	火	産業労働常任委員会管外調査①茨城県議会 国立産総研
11月8日	水	産業労働常任委員会管外調査②CYBERDYN社 川越
11月9日	木	産業労働常任委員会管外調査③都立産業技術研究センター
11月10日	金	知事に対する30年度当初予算申し入れ（自民党）

11月11日	土	加東市金婚を祝う会 社中リサイクル運動
11月12日	日	加東市ふれあい球技大会 河高地区敬老会
11月13日	月	
11月14日	火	県議会文化振興議員連盟現地調査 陶芸美術館等
11月15日	水	<b>産業労働常任委員会</b> 日本会議兵庫北播磨支部定例学習会
11月16日	木	県立社高校で1年生と対話（総合的な学習の時間）
11月17日	金	加東市老人クラブ連合会グラウンドゴルフ大会 29年度ワークライフバランスフェスタ
11月18日	土	社小ごりょうが丘フェスティバル 河高歴史めぐりウォーク 県立農業水産技術総合センター公開 加東市安全安心のまちづくり大会
11月19日	日	北播少年野球親善つぼみ大会 加東市柔道大会 穂積地区敬老会
11月20日	月	加東事務所
11月21日	火	うれしの学園生涯大学大学院講義 加東L.C. 例会（清水寺）
11月22日	水	更正保護就労支援シンポジウム（県民会館）
11月23日	木	東条川疏水ネットワーク博物館 疏水下り体験 シンポジウム
11月24日	金	自民党県議団産業労働部会管内調査（新明和工業）
11月25日	土	東条地域ミニ文化祭 北播磨ふるさとフェア（三木市）
11月26日	日	北播磨夢会議(加東市) 県ソフトボール協会常任理事会(明石市)
11月27日	月	<b>議員定数等調査特別委員会</b> 県庁稲門会 県商工会連合会との意見交換会
11月28日	火	県庁
11月29日	水	自民党産業労働部会管外調査①新潟県燕三条市
11月30日	木	自民党産業労働部会管外調査②中部経済産業局
12月1日	金	観音寺（佐久間良子氏案内）
12月2日	土	兵教大附幼稚園教育研究発表会 社農会忘年会
12月3日	日	加東市子連協サッカー大会 加東市PTCA実践発表会 東福寺弁財天祭
12月4日	月	<b>第338回定例県議会</b> （開会）
12月5日	火	加東L.C. 例会
12月6日	水	北播磨地域政策懇談会（県社総合庁舎）
12月7日	木	<b>本会議</b> （代表質問） 宅建政治連盟との意見交換会
12月8日	金	<b>本会議</b> （一般質問） 加東軟式野球協会
12月9日	土	高橋県議会副議長就任祝賀会 日本会議兵庫神戸支部設立総会
12月10日	日	社商店街諸行事委員会
12月11日	月	<b>本会議</b> （一般質問） 文化振興議連役員会 不動産政治連盟
12月12日	火	産業労働常任委員会 県議会政調懇話会 自民党研修会
12月13日	水	与党連絡会（農政環境部会） 日本会議北播磨支部例会

Ⅱ 平成29・30年度の議員活動記録

12月14日	木	本会議（閉会）
12月15日	金	産業労働常任委員会 議員定数等特別委員会
12月16日	土	
12月17日	日	兵庫県ソフトボール協会（明石）
12月18日	月	兵庫教育大学で講演
12月19日	火	加東L.C. クリスマス訪問 自民党加東市支部幹事会
12月20日	水	陸上自衛隊中部方面総監部訪問（伊丹市）
12月21日	木	県庁政務調査 兵測協との意見交換会
12月22日	金	加東事務所（市内回り）
12月23日	土	加東市ロードレース大会 北はりまカレーフェア
12月24日	日	ボーイスカウト募金活動激励
12月25日	月	県庁政務調査 鴻池議員と語る会
12月26日	火	加東事務所
12月27日	水	水田宏先生お別れ会
12月28日	木	県庁政務調査 加東事務所（仕事納め） 消防年末警戒激励
12月29日	金	加東事務所
12月30日	土	加東事務所
12月31日	日	大晦日 持寶院お参り
<b>平成30年</b>		
1月1日	月	元朝式 地区初集会回り
1月2日	火	年賀（持寶院） 初詣（佐保神社、出雲大社分院）
1月3日	水	地区初集会回り
1月4日	木	仕事始め（加東事務所） 初日会
1月5日	金	伝の助かるた大会 新春書初大会 県新年保育のつどい
1月6日	土	加東市新春交歓会 県新年福祉のつどい
1月7日	日	加東市成人のつどい 各地区初集会回り
1月8日	月	各地区初集会回り
1月9日	火	加東L.C新年例会 社えびす祭（恵比須講）
1月10日	水	自民党政務調査会① 森林環境税勉強会（林業議連・農政環境部会）
1月11日	木	自民党政務調査会② 土地改良推進議連研修会 自民県議団新年会
1月12日	金	自民党政務調査会③ 青野原駐屯地新春互礼会
1月13日	土	加東事務所 区長さん報告
1月14日	日	各地区初集会回り とんど（藤田地区）
1月15日	月	東条西小学校4年生議場見学 兵測協新年賀詞会
1月16日	火	産業労働常任委員会 議員定数等調査特別委員会 加東市カード会新年交歓会
1月17日	水	ひょうご安全の日（加東事務所にて）

1月18日	木	兵庫県宅地建物取引業協会新年互礼会
1月19日	金	自民党県議団建設部会調査（三田、大阪） 青峰会新年会 B i o 専門店会新年会
1月20日	土	社小リサイクル運動 社二十日会新年会 加東事務所
1月21日	日	加東伝の助マラソン 各地区初集会回り 初庚申（善龍院）
1月22日	月	（法事）
1月23日	火	加東L.C例会 加東事務所事務整理
1月24日	水	滝野南小学校4年生議場見学 北播政経懇話会新春例会
1月25日	木	県立社高校体育科課題研究発表会 自民党支部幹事会
1月26日	金	加東警察署術科始め式 総務常任委員会北播磨県民局調査
1月27日	土	加東軟式野球協会総会 加東市文化財教室
1月28日	日	各地区初集会回り
1月29日	月	兵庫県旅館ホテル衛生同業組合と観光振興議連の意見交換会 兵庫県看護連盟新年互例会（看護を支援する議員の会）
1月30日	火	産業労働常任委員会管内調査（但丹地区）
1月31日	水	産業労働常任委員会管内調査（但丹地区）
2月1日	木	産業労働常任委員会管内調査（但丹地区）③
2月2日	金	シンフォニーホール（大阪）「海道東征」
2月3日	土	新生兵庫をつくる会（西脇市） ひょうご土地改良のつどい（神戸）
2月4日	日	市内地区初集会挨拶回り
2月5日	月	加東土木、農林振興事務所来所（加東事務所）
2月6日	火	加東L.C献血例会 地域安全まちづくりセミナー（県公館）
2月7日	水	加東事務所（北播磨県民局、東播土地改良区来所）
2月8日	木	自民党議員定数等調査検討委員会 湊川神社
2月9日	金	自民党政調理事会 議員団総会 東播淡路会
2月10日	土	自民党加東市支部総会・講演会（社福祉センター） 社の街なかマルシェ
2月11日	日	河高八幡神社厄除け祭り 上久米大日如来祭り 県ソフトボール協会常任理事会（明石市）
2月12日	月	「いのちの勉強会」（加古川市）
2月13日	火	加東事務所
2月14日	水	産業労働常任委員会 自民県議団健康福祉部会 自民党県連選対委
2月15日	木	加東事務所
2月16日	金	本会議（339回定例会開会） 社小4年生県庁見学 議員定数等調査特別委員会 神戸元町バル（北播磨地酒） 兵庫県議会防衛議員連盟総会・研修（神戸市）
2月17日	土	加東市高齢者大学閉講式 社3区役員会
2月18日	日	蔵まつり（神結酒造）

II 平成29・30年度の議員活動記録

2月19日	月	国交省近畿地方整備局要望（東播磨道関係）
2月20日	火	東播磨消費者団体協議会ひろば展 加東L C例会
2月21日	水	<b>本会議</b> （議案上程）
2月22日	木	<b>本会議</b> （代表質問） 議員定数等特別委員会
2月23日	金	<b>本会議</b> （一般質問） 文化振興議連と当局の意見交換会
2月24日	土	日本会議兵庫北播磨支部移動研修（大神神社）
2月25日	日	兵庫県ソフトボール協会審判記録員伝達研修会 加東市いけばな展 ニューモラル講演会（道徳教育）
2月26日	月	<b>本会議</b> （一般質問） 自民党県議団健康福祉部会
2月27日	火	<b>本会議</b> （一般質問） 志士の会（自民3期）
2月28日	水	<b>本会議</b> （一般質問） 公教育を考える会 県庁巳年の会
3月1日	木	<b>産業労働常任委員会 議員定数等調査特別委員会</b> 初日会
3月2日	金	<b>本会議</b> 県議会スポーツ振興議員連盟総会研修会
3月3日	土	加東酒米生産者大会 東播磨地域文化 社公民館スプリングフェスタ 加東市親善中学軟式野球大会 加東市長カップ中学バレー大会
3月4日	日	加東市長杯ジュニア空手選手権大会 県ソフトボール協会理事総会
3月5日	月	加東事務所
3月6日	火	うれしの学園生涯大学卒業式
3月7日	水	県立北はりま特別支援学校高等部卒業式 県立社高校評議員会
3月8日	木	国交省他要望で上京
3月9日	金	加東市立滝野中学校卒業式
3月10日	土	加東市スポーツ賞表彰式 「おもちゃ王国の休日」
3月11日	日	加東L C奉仕例会
3月12日	月	生田神社県政150周年記念雅楽公演
3月13日	火	兵庫県いなみ野学園卒業式 北播磨県民局来所
3月14日	水	日本会議兵庫北播磨支部定例学習会
3月15日	木	県立北はりま特支小中卒業式 県議会保健医療議連
3月16日	金	自民党友好団体との意見交換会
3月17日	土	東条地域農業者セミナー
3月18日	日	自民党県議団一日政調会（神戸） 加東市文連芸能発表会
3月19日	月	自民党友好団体との意見交換会 議員定数等特別委員会
3月20日	火	<b>本会議</b> 産業労働常任委員会 兵庫県私学審議会
3月21日	水	
3月22日	木	<b>産業労働常任委員会</b>
3月23日	金	<b>本会議</b> （閉会）
3月24日	土	加東消防署新庁舎竣工式 鹿島学園高校卒業式
3月25日	日	日本会議地方議員連盟代表者会議・総会

3月26日	月	日本会議兵庫北播磨支部役員会 加東事務所
3月27日	火	加古川西部土地改良区創立40周年式典 県政150周年記念講演会（県公館）
3月28日	水	加東事務所
3月29日	木	加東事務所
3月30日	金	東播磨土地改良区総会 北播政経懇話会
3月31日	土	いこいの村はりま改修内覧会
4月1日	日	加東市消防出初式
4月2日	月	加東事務所
4月3日	火	北はりま消防本部・西脇消防署竣工式 加東事務所
4月4日	水	
4月5日	木	
4月6日	金	加東事務所
4月7日	土	三草ふれあい広場ワクワク探検 青野原駐屯地観桜会
4月8日	日	上滝野・光明寺合同運動会 ゆら野会総会 鴨川の郷花まつり 牧野高年クラブ男の料理教室
4月9日	月	兵庫県立社高等学校入学式
4月10日	火	加東市内小、中学校入学式（東条西小、社中出席）
4月11日	水	社幼稚園入園式 加東市いずみ会総会
4月12日	木	兵教大附属幼稚園入園式
4月13日	金	県庁政務調査 安田正義を励ます会
4月14日	土	上滝野老人会総会 加東市異業種交流会総会
4月15日	日	加東市長選挙告示 河高運動会 みのりJA女性会 鴨川桜まつり（清水寺）
4月16日	月	<b>産業労働常任委員会</b>
4月17日	火	うれしの学園生涯大学入学式
4月18日	水	県庁政務調査 県ソフトボール協会専門委員長会議
4月19日	木	日本会議兵庫北播磨支部役員会
4月20日	金	都道府県議会議員研修会（東京）
4月21日	土	安倍首相主催「桜を観る会」
4月22日	日	加東市長選挙投開票日 安田市長3選
4月23日	月	<b>自民党議員団総会で政調会長に選任され就任</b>
4月24日	火	兵庫県警緊急自動車総合訓練センター竣工式（小野市）
4月25日	水	県庁執務
4月26日	木	北播政経懇話会定例会
4月27日	金	地方議員セミナー（神戸市）
4月28日	土	日本会議兵庫北播磨支部総会・講演会（高橋史朗氏）

II 平成29・30年度の議員活動記録

4月29日	日	高岡地区運動会 秋津百石踊り奉納（住吉神社）
4月30日	月	「地域のチカラ」山国酒米部会（やしろ国際学習塾）
5月1日	火	執行部会議 初日会
5月2日	水	県庁執務
5月3日	木	花まつり・鮎まつり
5月4日	金	うれしのフェスティバル（県立嬉野台生涯教育センター）
5月5日	土	朝光寺－鬼踊り法会
5月6日	日	加東事務所
5月7日	月	執行部会議 議運 議員団総会
5月8日	火	県庁執務
5月9日	水	県庁執務
5月10日	木	県庁執務
5月11日	金	加東警察署 県庁執務
5月12日	土	三草小茶摘み 高齢者大学開講式 文化連盟総会
5月13日	日	加東市更正保護女性会総会 北播磨ビジョン委員委嘱式
5月14日	月	「あじさい会研修」で県成立史紹介
5月15日	火	加東事務所
5月16日	水	産業労働常任委員会 自民党議員団総会
5月17日	木	県庁執務
5月18日	金	加東市子ども会育成連絡協議会総会 加東事務所
5月19日	土	加東市連合PTA総会 社3区役員会
5月20日	日	加東市親善ソフトボール大会 家庭バレーボール連盟会長杯 NPO法人新しい風総会
5月21日	月	執行部会議 井戸知事ら県幹部と意見交換会
5月22日	火	自民党県議団総会 自民党県連選対委員会
5月23日	水	県庁執務
5月24日	木	県庁執務 兵庫県宅地建物取引業協会総会懇親会
5月25日	金	加東市交通安全協会総会 兵庫県社会保険労務士会総会・懇親会
5月26日	土	加東市陸上競技大会 加東市花と緑のまつり「花き盆栽展」 東播磨文化団体連合会総会 社歴史民俗研究会総会研修会
5月27日	日	中兵庫少年剣道大会 青野原駐屯地創立記念式 加東市シルバー人材センター定時総会
5月28日	月	執行部会議 加東農林振興事務所・加古川土地改良事務所説明
5月29日	火	加東市商工会総代会 議運 自民党議員団総会 MOA議連総会 研修会
5月30日	水	北播磨建設業協会総会 兵庫県釣針協同組合総会 兵庫県空調衛生工業協会懇親会
5月31日	木	県庁執務

6月1日	金	自民党県連友好団体政策セミナー 県LPガス協会総会
6月2日	土	河高地区現地調査 加東事務所
6月3日	日	加東事務所
6月4日	月	県庁執務(執行部会)
6月5日	火	<b>本会議(第340回定例県議会開会)</b> 議運 文化振興議連役員会
6月6日	水	県庁執務
6月7日	木	<b>各会派政務調査会長会</b>
6月8日	金	<b>本会議(代表質問)</b> 議運、団総会
6月9日	土	ソフトボール協会女性審判講習会(加東)
6月10日	日	加東市消防操法大会
6月11日	月	<b>本会議(一般質問)</b> <b>各会派政務調査会長会</b>
6月12日	火	日米議連研修会 志士の会
6月13日	水	<b>本会議(表決・正副議長選挙・閉会)</b> 東播磨道 県保育交流会
6月14日	木	県庁執務 美しい憲法をつくる県民の会役員会
6月15日	金	県立社高校学校評議会(文化祭鑑賞) 午後県庁執務
6月16日	土	末松信介参議院議員政策セミナー
6月17日	日	日本会議兵庫女性の会教育講演会(神戸)
6月18日	月	大阪北部地震発生 議会運営委員会小委員会
6月19日	火	<b>警察常任委員会</b> 加東ライオンズクラブ例会
6月20日	水	自民党県議団研修会(河田恵昭氏) 日本会議北播磨支部例会
6月21日	木	県庁執務
6月22日	金	土地改良団体北播支部総会 加東防犯協会 北播磨政策懇談会
6月23日	土	自民党県連大会に代わる総務会 JAみのり総代会 加東警察署友の会 加東消友・まとい会総会
6月24日	日	嬉野素真水彩画展(B i o)
6月25日	月	部局との意見交換会① 関西広域連合連絡協議会 自民行革検討委
6月26日	火	東条東小県庁見学(県議会) かとう歴史発見打合せ(事務所)
6月27日	水	県庁執務 社高校尚友会役員懇親会
6月28日	木	北嶋一郎氏叙勲祝賀会(伊丹市) 加東事務所
6月29日	金	北播政経懇話会 加東事務所
6月30日	土	「いのちの勉強会」講演会(神戸)
7月1日	日	兵庫県ソフトボール協会常任理事会 初日の会
7月2日	月	自民県議団執行部と部局意見交換会 加古川改修期成同盟会
7月3日	火	県庁執務・加東事務所
7月4日	水	自民党政調理事会管外調査(福島県・宮城県)
7月5日	木	〃
7月6日	金	〃

II 平成29・30年度の議員活動記録

7月7日	土	加東市内大雨被害状況調査（県民局、市内各所）
7月8日	日	社三区クリーンキャンペーン 北播消防操法大会中止
7月9日	月	執行部会 兵庫県婦人大会（高砂市） 自民党加東支部例会
7月10日	火	健康福祉常任委員会北播磨県民局調査（加東）
7月11日	水	県庁執務 加東L.C委員会
7月12日	木	兵庫県150周年記念式典（神戸国際会館） 地方議会協議会（県庁）
7月13日	金	行財政構造改革特別委員会
7月14日	土	自衛官募集相談員会東播連合会総会（青野原駐屯地）
7月15日	日	加東市子連協オセロ大会 平池まつり
7月16日	月	日本会議兵庫総会・記念講演会（姫路）
7月17日	火	自民県議団執行部と部局意見交換会
7月18日	水	警察常任委員会 自民県議団執行部と部局意見交換会
7月19日	木	警察常任委員会管内調査（阪神地区）
7月20日	金	〃
7月21日	土	「かとうの歴史発見！」講座講師 自民党兵庫県連大会（神戸）
7月22日	日	兵庫県消防操法大会（三木防災センター）
7月23日	月	執行部会 自民県議団執行部と部局意見交換会
7月24日	火	行財政構造改革特別委員会
7月25日	水	兵庫県ワシントン州友好55周年訪問（シアトル、オリンピア、ポートランド）
7月26日	木	〃
7月27日	金	〃
7月28日	土	〃
7月29日	日	〃
7月30日	月	〃
7月31日	火	加東事務所 北播磨県民局来所
8月1日	水	県庁執務 加東市花火大会 加東L.C. 家族例会
8月2日	木	加東事務所執務
8月3日	金	県庁執務 自民党県連新旧役員引き継ぎ会
8月4日	土	リサイクル活動 わかあゆ園夏まつり 光明寺、稲尾地区盆踊り
8月5日	日	朝起き会 ドッジボール大会 消防団水防訓練視察 写真展
8月6日	月	自民党政調会① 自衛隊兵庫地本本部長来庁
8月7日	火	自民党政調会② 自民党議会改革調査検討委員会 自民党行革特別委員会関係打合せ
8月8日	水	警察常任委員会管内調査（但馬丹波地区）①
8月9日	木	警察常任委員会管内調査（但馬丹波地区）②

8月10日	金	警察常任委員会管内調査（但馬丹波地区）③ 警察常任委員会地域開催（篠山市）
8月11日	土	近畿ろうきん杯学童軟式野球大会兵庫県決勝大会（加西市）
8月12日	日	兵庫教育大学附属中14期生同窓会（西脇市）
8月13日	月	藪地区、貞守地区盆踊り
8月14日	火	多井田地区、河高地区、窪田地区、久米地区盆踊り
8月15日	水	北野地区、上滝野地区盆踊り
8月16日	木	県庁執務 県社会福祉協議会要望 高岡地区、穂積地区、 黒谷地区盆踊り・柱祭り
8月17日	金	県庁執務 行財政構造改革特別委員会
8月18日	土	加東事務所執務 山国地区盆踊り
8月19日	日	菅内閣官房長官来播（加東市）
8月20日	月	県庁執務 自民党政調理事会
8月21日	火	行財政構造改革特別委員会 第2回地方議会協議会
8月22日	水	県庁執務
8月23日	木	県庁執務 ※台風20号兵庫県縦断
8月24日	金	未来をひらく少年会議（小野市） 下滝野地区盆踊り
8月25日	土	加東市夏の踊り・やしろ夏のフェスティバル
8月26日	日	織物感謝祭（西脇市機殿神社）
8月27日	月	議会改革調査委員会 議会運営委員会 自民党県議団総会 関西広域連合連携協議会 政調懇話会
8月28日	火	加東事務所執務
8月29日	水	北播磨地域づくり懇談会（県民局） 行財政構造改革特別委員会 加東市オリンピア市訪問団帰国報告会（B i o）
8月30日	木	県庁執務
8月31日	金	加東事務所 佐保神社秋祭実行委員会



## ◆著者紹介

藤本百男 ふじもと ひやくお

- 昭和28年10月31日 兵庫県加東郡社町社生（現加東市社）
- 兵庫県立社高等学校、早稲田大学法学部卒業
- （国公立学校教員）兵庫教育大学附属小学校、同附属中学校教諭（社会科）、  
兵庫県加古川市立小学校、滝野町立滝野東小学校教諭
- 神戸商科大学・兵庫県立大学非常勤講師（兼職）
- 兵庫教育大学大学院修士課程修了（教育学修士）
- 社町史編纂委員
- 平成19年4月 兵庫県議会議員初当選  
農政環境常任副委員長、総務常任副委員長
- 平成23年4月 兵庫県議会議員2回目当選  
自民党県議団副政調会長、副幹事長、文教部会長  
健康福祉常任委員長
- 平成27年4月 兵庫県議会議員3回目当選  
文教常任委員長 自民党県議団文教部会長  
第124代兵庫県議会副議長（平成28年6月11日～29年6月9日）  
議員定数等調査特別委員 自民党県議団農政環境部会長  
自民党県議団政調会長 行財政構造改革特別委員
- 自民党加東市支部支部長、日本会議兵庫北播磨支部支部長  
加東軟式野球協会会長、兵庫県ソフトボール協会会長  
県立社高等学校尚友会会長、兵庫県釣針協同組合顧問等
- 県政シリーズⅠ「東条川疏水」  
県政シリーズⅡ「終戦70年 慰霊を考える 加東市内の忠魂碑・慰霊塔」  
県政シリーズⅢ「ふるさと加東の道標・道路元標」  
県政シリーズⅣ「加東四国八十八ヶ所霊場・議会改革一年の歩み」

---

県政資料 ふるさと加東の歴史再発見シリーズ V

—兵庫県政150周年記念—

## 加東の近代史を彩る人物像

—平成29・30年度の議員活動記録—

発行日 平成30年9月吉日

著者 兵庫県議会議員 藤本百男

発行所 藤本百男事務所

〒673-1431 兵庫県加東市社1491-1

TEL(0795)43-8270 FAX(0795)20-6675

印刷所 株式会社吉本宝文堂

〒675-1343 兵庫県小野市来住町883-2

TEL(0794)63-4011 FAX(0794)62-5252

非売品

---